

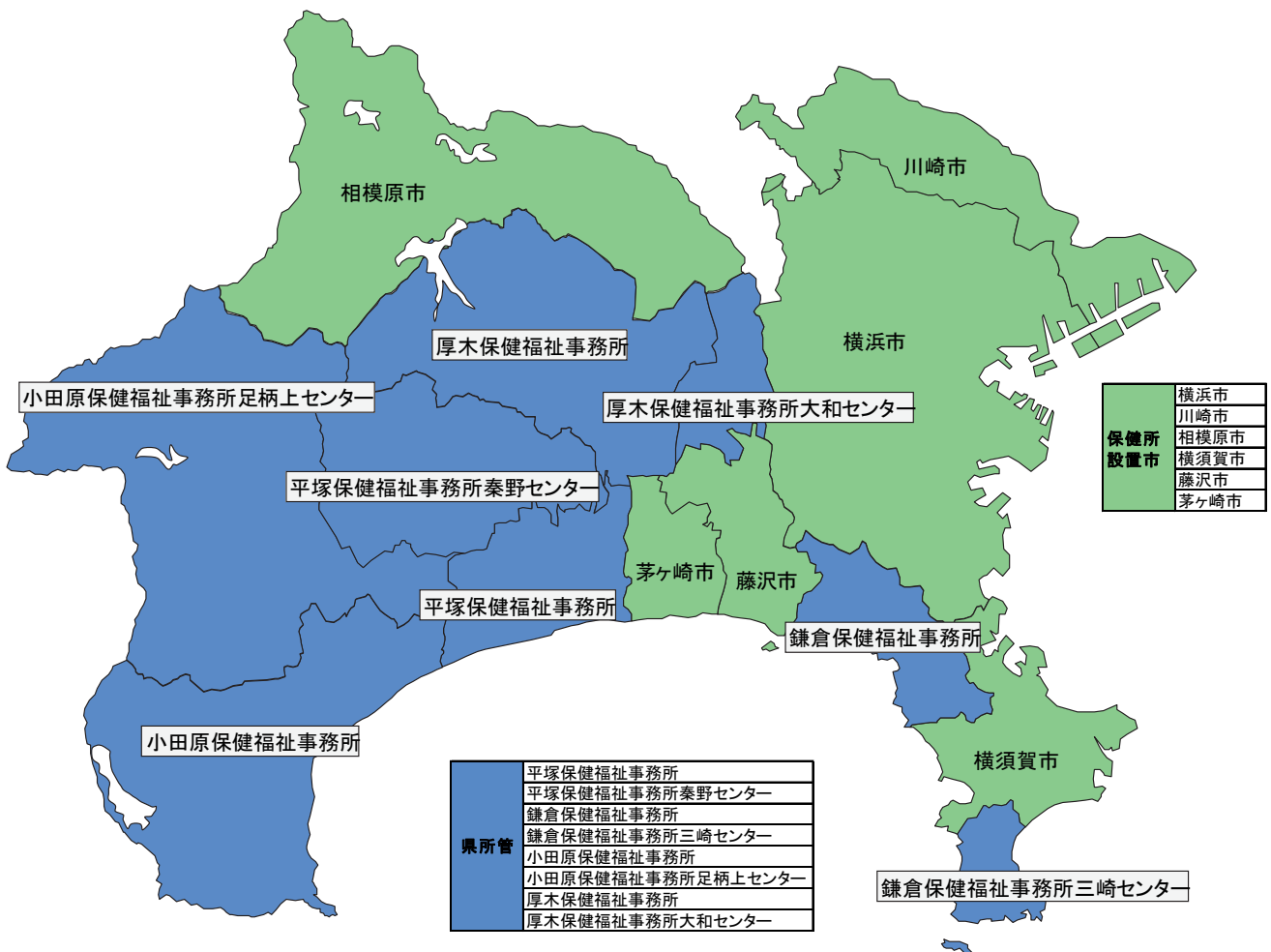


2020年

# 神奈川県感染症

PART I 2020年神奈川県感染症発生動向調査の概要

PART II 2020年地域における感染症発生状況の概要



## はじめに

2019年12月に中国湖北省武漢市で流行が確認された新型コロナウイルス感染症COVID-19は世界的流行を引き起こし、ウイルスは変異しながら感染力を増し現在も流行は継続しています。この流行を通じて国と地元自治体の協力、特に情報連携なくして感染症対策は成り立たないことを再認識しました。感染症法及び検疫法の一部が改正され、新型コロナウイルス感染症に関して、保健所設置市・区から都道府県知事への発生届の報告に加え、積極的疫学調査結果の関係自治体への通報も義務化されました。さらに新型インフルエンザ等対策特別措置法が改正され「まん延防止等重点措置」が創設されました。

地方衛生研究所においては、データ収集、解析や検体の搬送、ワクチン接種状況、抗体保有状況を含めて、今後より一層の即応体制が求められることになるでしょう。国立感染症研究所とのネットワーク強化とともに地方衛生研究所間の相互支援体制の構築も重要なテーマとなってくると思われます。

神奈川県衛生研究所（以下、当所）では、こうした状況下で、神奈川県の基幹感染症情報センターとしての役割を果たし、健康危機管理や感染症対策の充実に向けて、本庁や保健福祉事務所、保健所をはじめ、県内33市町村の担当課や神奈川県医師会、病院協会及び関係機関の方々との連携を強化し、感染症発生動向調査事業を中心とした情報収集や原因究明のための検査、今後の感染症対策に向けた研究、システム強化とともにホームページ等による情報発信や研修会開催など日々取り組んでおります。研修会も実地研修とウェブ研修など時代に対応した形式で実施回数を増やすプランを検討中です。

『神奈川県の感染症』は、横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市、藤沢市、茅ヶ崎市及び神奈川県保健福祉事務所（センター）をはじめとする本県関係所属と当所が協力して得た情報をもとに取りまとめた、感染症発生動向調査の概要を中心としたPART Iと、各地域における感染症発生状況の概要を中心としたPART IIに分けて収録します。感染症対策の参考にして頂ければ幸いです。

『神奈川県の感染症』の作成に当たり、関係機関の方々から、貴重な研究資料をご提供いただきましたことに厚くお礼申し上げます。

2021年10月

神奈川県衛生研究所長 高崎 智彦

# 目 次

## < PART I > 2020 年神奈川県感染症発生動向調査の概要

### I 感染症発生動向調査

1 全数把握対象疾患 .....	8
2 定点把握対象疾患	
(1) 定点 .....	11
(2) 週報対象疾患（神奈川県全県） .....	12
(3) 月報対象疾患（神奈川県全県） .....	21
3 トピックス	
新型コロナウイルス感染症について .....	25

### 【資 料】

全数把握対象の感染症 保健所別累積報告数 .....	26
----------------------------	----

## < PART II > 2020 年地域における感染症発生状況の概要

### I 病原微生物検出状況

1 ウイルス検出概況 .....	27
2 病原細菌検出概況 .....	28
3 ウイルス等の検出状況表（ヒト由来） .....	29
4 病原細菌検出状況表（ヒト由来） .....	40

### II 地域における感染症発生状況の分析

#### 1 ウイルス性感染症

##### (1) ウイルス検査状況（発生動向調査）

##### ア 5類感染症（定点把握疾患）

##### (ア) インフルエンザ

##### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）

(神奈川県衛生研究所) .....	44
-------------------	----

② 横浜市（横浜市衛生研究所） .....	45
-----------------------	----

③ 川崎市（川崎市健康安全研究所） .....	46
-------------------------	----

④ 相模原市（相模原市衛生研究所） .....	47
-------------------------	----

(イ) ウイルス性感染性胃腸炎

a 感染性胃腸炎患者からの原因ウイルス検査状況

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

（神奈川県衛生研究所） ..... 48

b 集団感染性胃腸炎事例からの原因ウイルス検査状況

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）

（神奈川県衛生研究所） ..... 48

② 横浜市（横浜市衛生研究所） ..... 49

③ 川崎市（川崎市健康安全研究所） ..... 50

④ 横須賀市（横須賀市健康安全研究センター） ..... 50

⑤ 藤沢市（藤沢市保健所） ..... 50

(ウ) 手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、流行性耳下腺炎、無菌性髄膜炎、  
流行性角結膜炎

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）

（神奈川県衛生研究所） ..... 51

② 川崎市（川崎市健康安全研究所） ..... 52

③ 相模原市（相模原市衛生研究所） ..... 52

イ 4類感染症（全数把握疾患）

(ア) 蚊媒介感染症

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）

（神奈川県衛生研究所） ..... 53

② 横須賀市（横須賀市健康安全科学センター） ..... 53

ウ 5類感染症（全数把握疾患）

(ア) 麻しん・風しん

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）

（神奈川県衛生研究所） ..... 54

② 横浜市（横浜市衛生研究所） ..... 54

③ 川崎市（川崎市健康安全研究所） ..... 54

④ 相模原市（相模原市衛生研究所） ..... 55

⑤ 横須賀市（横須賀市健康安全科学センター） ..... 55

(イ) 急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、  
日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）

（神奈川県衛生研究所） ..... 56



## 2 細菌性感染症

### (1) 細菌性腸管系感染症検査状況

#### ア 3類感染症

##### (ア) 腸管出血性大腸菌感染症

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く） （神奈川県衛生研究所）	75
② 横浜市（横浜市衛生研究所）	76
③ 川崎市（川崎市健康安全研究所）	77
④ 相模原市（相模原市衛生研究所）	77
⑤ 横須賀市（横須賀市健康安全科学センター）	78
⑥ 藤沢市（藤沢市保健所）	78

##### (イ) 細菌性赤痢・コレラ

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く） （神奈川県衛生研究所）	79
② 横浜市（横浜市衛生研究所）	79
③ 川崎市（川崎市健康安全研究所）	80
④ 相模原市（相模原市衛生研究所）	80
⑤ 横須賀市（横須賀市健康安全科学センター）	80

##### (ウ) 腸チフス・パラチフス

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く） （神奈川県衛生研究所）	81
② 横浜市（横浜市衛生研究所）	81
③ 川崎市（川崎市健康安全研究所）	81
④ 横須賀市（横須賀市健康安全科学センター）	81

## イ 5類感染症

### (ア) 細菌性感染性胃腸炎

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）  
（神奈川県衛生研究所） ..... 82

## ウ 薬剤耐性菌

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）  
（神奈川県衛生研究所） ..... 83
- ② 横浜市（横浜市衛生研究所） ..... 84
- ③ 川崎市（川崎市健康安全研究所） ..... 85
- ④ 相模原市（相模原市衛生研究所） ..... 85
- ⑤ 横須賀市（横須賀市健康安全科学センター） ..... 86
- ⑥ 藤沢市（藤沢市保健所） ..... 86

## (2) 細菌性呼吸器系感染症検査状況

### ア 2類感染症

#### (ア) 結核

##### a 感染診断検査

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）  
（神奈川県衛生研究所） ..... 87
- ② 川崎市（川崎市健康安全研究所） ..... 88
- ③ 相模原市（相模原市衛生研究所） ..... 88

##### b 遺伝子型別検査

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）  
（神奈川県衛生研究所） ..... 89
- ② 横浜市（横浜市衛生研究所） ..... 89
- ③ 川崎市（川崎市健康安全研究所） ..... 90
- ④ 相模原市（相模原市衛生研究所） ..... 90

## イ 4類感染症

### (ア) レジオネラ症

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）  
（神奈川県衛生研究所） ..... 91
- ② 横浜市（横浜市衛生研究所） ..... 91
- ③ 川崎市（川崎市健康安全研究所） ..... 91

## ウ 5類感染症

### (ア) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）  
（神奈川県衛生研究所） ..... 92
- ② 横浜市（横浜市衛生研究所） ..... 93
- ③ 川崎市（川崎市健康安全研究所） ..... 93
- ④ 相模原市（相模原市衛生研究所） ..... 93
- ⑤ 横須賀市（横須賀市健康安全科学センター） ..... 93

### (イ) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症、侵襲性インフルエンザ菌感染症、 侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）  
（神奈川県衛生研究所） ..... 94
- ② 横浜市（横浜市衛生研究所） ..... 96
- ③ 川崎市（川崎市健康安全研究所） ..... 98

### (ウ) マイコプラズマ肺炎

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）  
（神奈川県衛生研究所） ..... 98

### (エ) 百日咳

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）  
（神奈川県衛生研究所） ..... 98
- ② 横浜市（横浜市衛生研究所） ..... 98

## 3 その他の感染症

### (ア) つつが虫病

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）  
（神奈川県衛生研究所） ..... 99

### 【参考資料】

予防接種実施状況.....	100
感染症関係機関.....	101



## < PART I > 2020年神奈川県感染症発生動向調査の概要

### I 感染症発生動向調査

感染症発生動向調査事業では、1998年9月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）が成立し、1999年4月から施行されたことに伴い、感染症の予防とまん延防止の施策を講じるため、感染症の情報を医療機関から収集し、その内容の分析、公表を行っている。

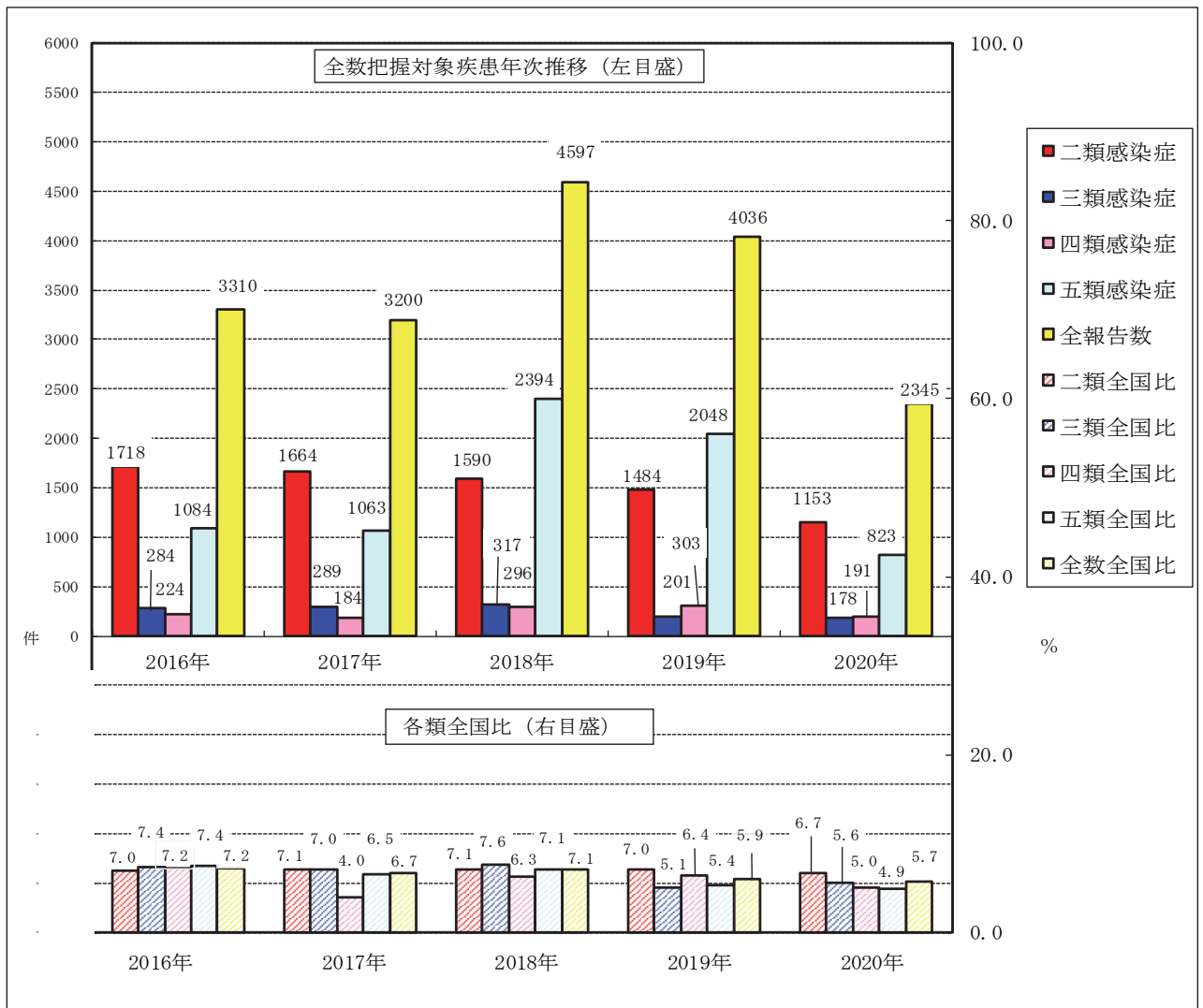
#### 1 全数把握対象疾患

2020年に県内で報告のあった全数把握対象疾患は、2,345件と前年より1,691件減少した。

類別では、二類感染症1,153件、三類感染症178件、四類感染症191件、五類感染症823件であった。

全数把握対象疾患の年次推移は、図1全数把握疾患の推移のとおり。保健所別の報告数は、【資料】「全数把握疾患保健所別累積報告数」を参照。

図1 全数把握対象疾患の推移



《一類感染症》報告はなかった。

《二類感染症》届出は結核のみで1,153件であり、前年1,484件より331件減少した。

《三類感染症》報告数は、前年よりも23件減少して178件であった。最も報告の多かった疾患は腸管出血性大腸菌感染症の173件で、前年の189件より16件減少した。

表1 三類感染症報告数

(件)

疾患名	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年								
	神奈川県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	(横浜市)	(川崎市)	(相模原市)	(横須賀市)	(藤沢市)	(茅ヶ崎市)	神奈川県(左を除く)	全国
コレラ	2			1									1
細菌性赤痢	8	17	15	3	3	1	1	1					87
腸管出血性大腸菌感染症	272	267	300	189	173	82	34	9	5	9	2	32	3,064
腸チフス	3	3	2	6	1								21
パラチフス		2		2	1								7
合計	285	289	317	201	178	83	35	10	5	9	2	32	3,180

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による

※擬似症・無症状病原体保有者を含む

《四類感染症》8疾患の報告があり、報告数は191件であった。最も報告の多かった疾患はレジオネラ症の112件で、続いて、E型肝炎39件であった。つつが虫病は27件と増加した。

表2 四類感染症報告数

(件)

疾患名	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年								
	神奈川県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	(横浜市)	(川崎市)	(相模原市)	(横須賀市)	(藤沢市)	(茅ヶ崎市)	神奈川県(左を除く)	全国
E型肝炎	26	14	46	49	39	18	10	2	4	1		4	450
A型肝炎	21	19	95	41	7	3	1			1		2	119
エキノコックス症					1		1						23
つつが虫病	15	16	15	18	27	1		2	1			23	511
デング熱	24	26	22	36	1							1	45
マラリア	6	1	1	6	3	1	2						20
レジオネラ症	123	101	114	152	112	38	20	14	6	6		28	2,031
レプトスピラ症	4	2	2		1	1							16
合計	224	184	296	303	191	62	34	18	11	8		58	3,783

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による

※擬似症・無症状病原体保有者を含む

※全国合計値は掲載疾病以外の疾病も含む

※平成28年2月よりジカウイルス感染症が追加された

《五類感染症》19疾患の報告があり、報告数は823件であった。最も報告の多かった疾患は、梅毒219件であった。昨年、最も報告の多かった百日咳は79件と激減している。風しん8件、麻しん1件と大幅に減少している。

表3 五類感染症報告数

疾患名	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年								
	神奈川県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	(横浜市)	(川崎市)	(相模原市)	(横須賀市)	(藤沢市)	(茅ヶ崎市)	(神奈川県を除く)	全国
アメーバ赤痢	111	90	76	81	54	25	8	3	4	3		11	610
ウイルス性肝炎	18	12	17	19	17	10	6			1			245
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	116	123	233	207	122	45	24	14	7	10		22	1,922
急性弛緩性麻痺			8	3	2		2						32
急性脳炎	74	47	36	65	32	7	18	2		1		4	482
クロイツフェルト・ヤコブ病	6	14	18	11	4	1				1		2	149
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	53	47	56	76	51	21	7	2	5	1		15	752
後天性免疫不全症候群	82	82	75	71	65	30	17	9	2			7	1,075
ジアルジア症	5	2	6	3	2		1					1	27
侵襲性インフルエンザ菌感染症	21	26	35	38	22	7	3	1	2	1		8	249
侵襲性肺炎球菌感染症	229	238	225	205	102	40	26	5	8	11		12	1,624
水痘（入院例）	27	15	53	41	26	11	2	1	3	5		4	358
梅毒	290	322	352	269	219	108	48	12	5	14	2	30	5,784
播種性クリプトコックス症	5	11	11	12	5	2	1			1		1	150
破傷風	8	5	5	3	5	4		1					105
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	10	6	4	2	7	3	1	2				1	134
百日咳			763	547	79	20	22	2	1	10	4	20	2,932
風しん	10	10	414	295	8	3	4					1	100
麻しん	8	9	7	94	1							1	13
合計	1,068	1,063	2,397	2,048	823	337	190	54	39	57	6	140	16,774

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による

※擬似症・無症状病原体保有者を含む

※全国合計値は掲載疾病以外の疾病も含む

※平成30年1月1日より百日咳が定点報告から全数報告になった

※平成30年5月1日より急性弛緩性麻痺が全数報告疾患になった

## 2 定点把握対象疾患

### (1) 定点

定点把握対象疾患は、疾患により5種類に分類され、予め指定された医療機関（定点）から報告される。定点の数は人口に応じて決められており、神奈川県内の定点の状況は下表のとおりである。

(単位：医療機関数)

区 分	定点医療機関数				
	県域※	横浜市	川崎市	相模原市	計
インフルエンザ定点	116	119	55	23	313
小児科定点	73	72	36	17	198
眼科定点	17	18	8	2	45
STD（性感染症）定点	24	27	12	5	68
基幹定点	5	3	2	1	11

※横須賀市・藤沢市・茅ヶ崎市の定点医療機関数を含む

【2021年1月12日現在 感染症発生動向調査による】

#### ○インフルエンザ定点

対象疾患名： インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

#### ○小児科定点

対象疾患名： RSウイルス感染症・咽頭結膜熱・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・感染性胃腸炎・水痘・手足口病・伝染性紅斑・突発性発しん・ヘルパンギーナ・流行性耳下腺炎

#### ○眼科定点

対象疾患名： 急性出血性結膜炎・流行性角結膜炎

#### ○基幹定点

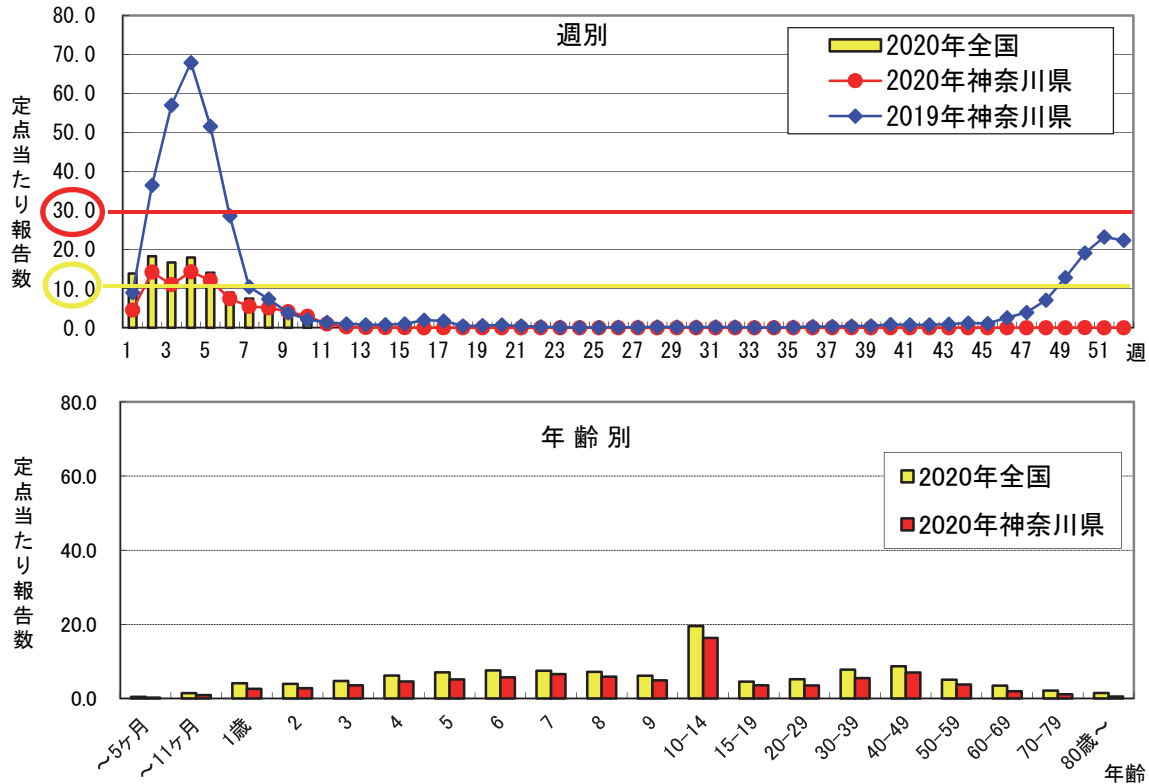
対象疾患名： 細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く）・無菌性髄膜炎・マイコプラズマ肺炎・クラミジア肺炎（オウム病を除く）・感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）  
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症・ペニシリン耐性肺炎球菌感染症・薬剤耐性緑膿菌感染症

#### ○STD定点

対象疾患名： 性器クラミジア感染症・性器ヘルペスウイルス感染症・尖圭コンジローマ・淋菌感染症

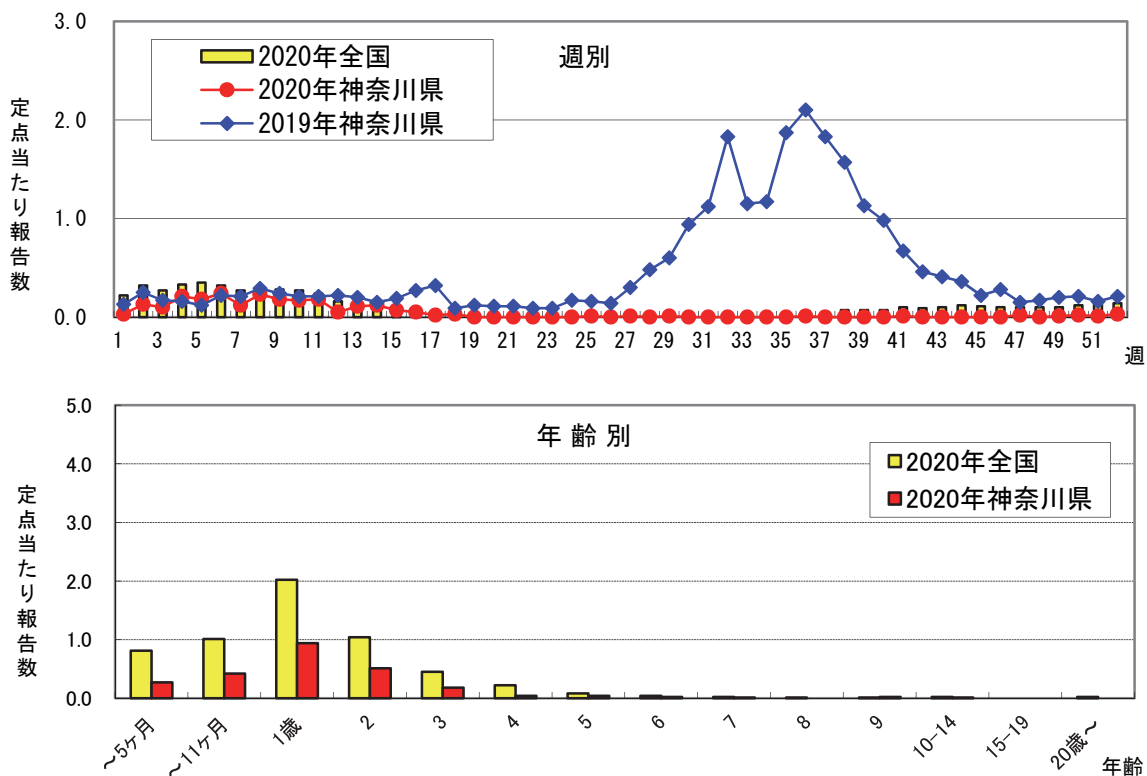
(2) 週報対象疾患（神奈川県全県） \*注意報・警報基準のある疾患に○は警報レベル、○は注意報レベルを示す  
インフルエンザ

2019/2020 シーズンは、2019年51週をピークに減少し、2020年6週には10を切り、警報レベル(30)を超えることはなかった。年齢別では、14歳以下で多く報告された。



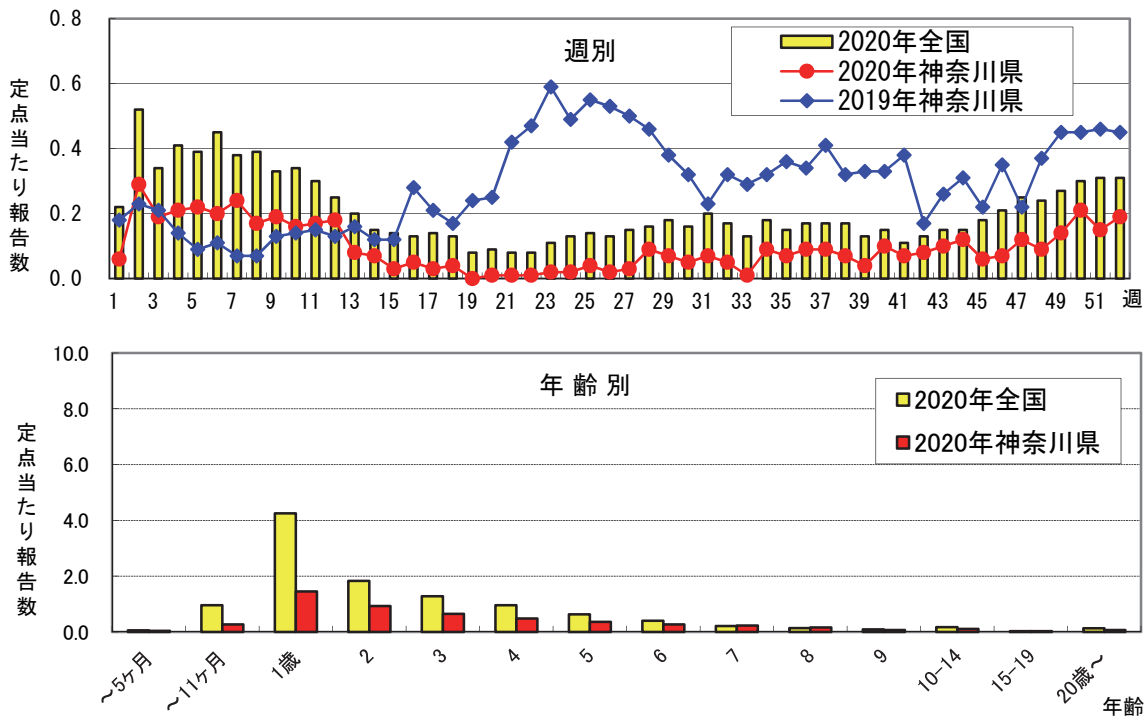
RS ウイルス感染症

2020年は1年をとおしてほとんど報告はなかった。年齢別では、1歳以下で多く報告された。



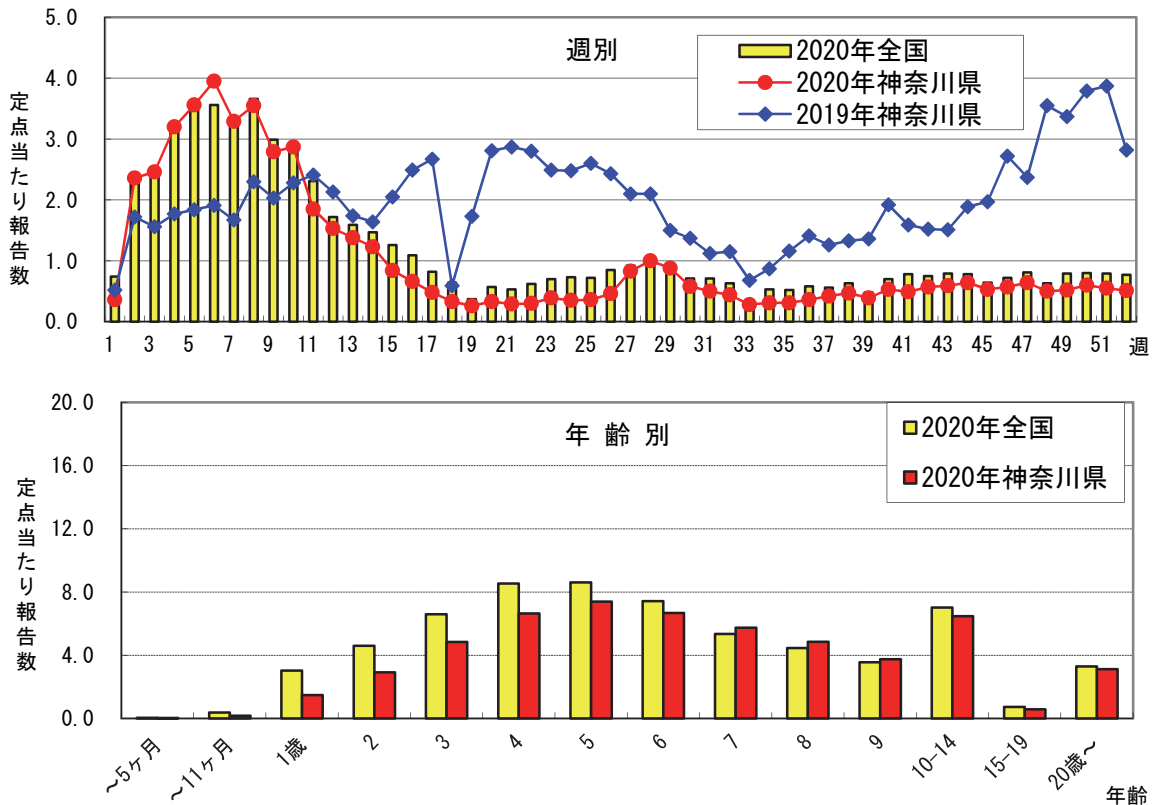
## 咽頭結膜熱

2020年は1年をとおしてほとんど報告はなかった。年齢別では、1歳で最も多く報告された。



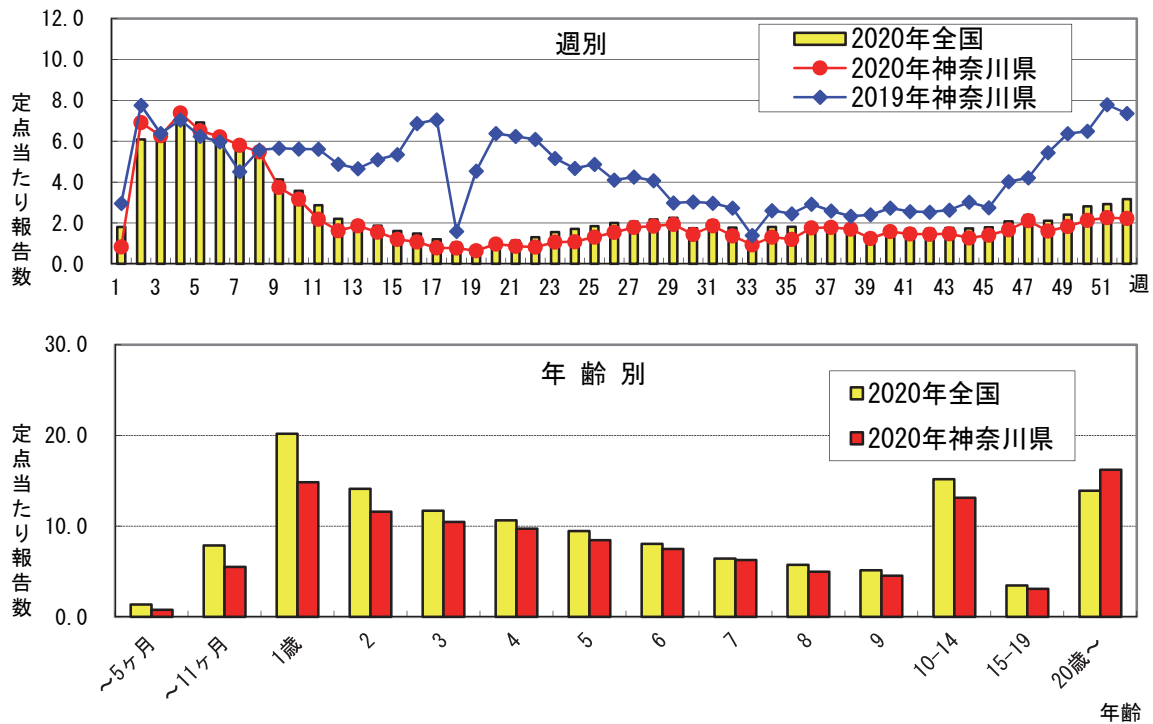
## A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2020年10週までは前年よりやや多く報告されたが、その後は減少し、前年と比較し、低い水準が続いた。年齢別では、5歳を中心に報告された。



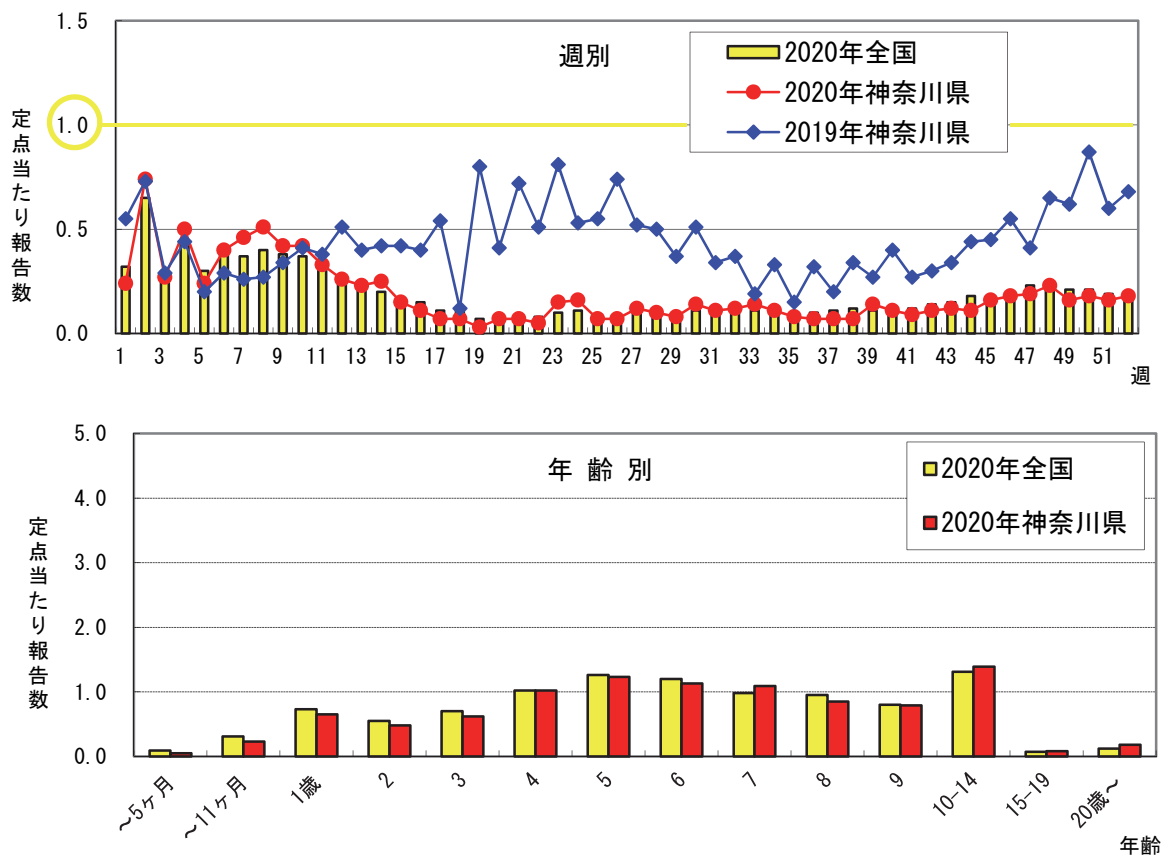
## 感染性胃腸炎

2020年8週までは前年と同程度の報告数だったが、その後は前年と比較し、低い水準が続いた。年齢別では、1歳で最も多く報告された。



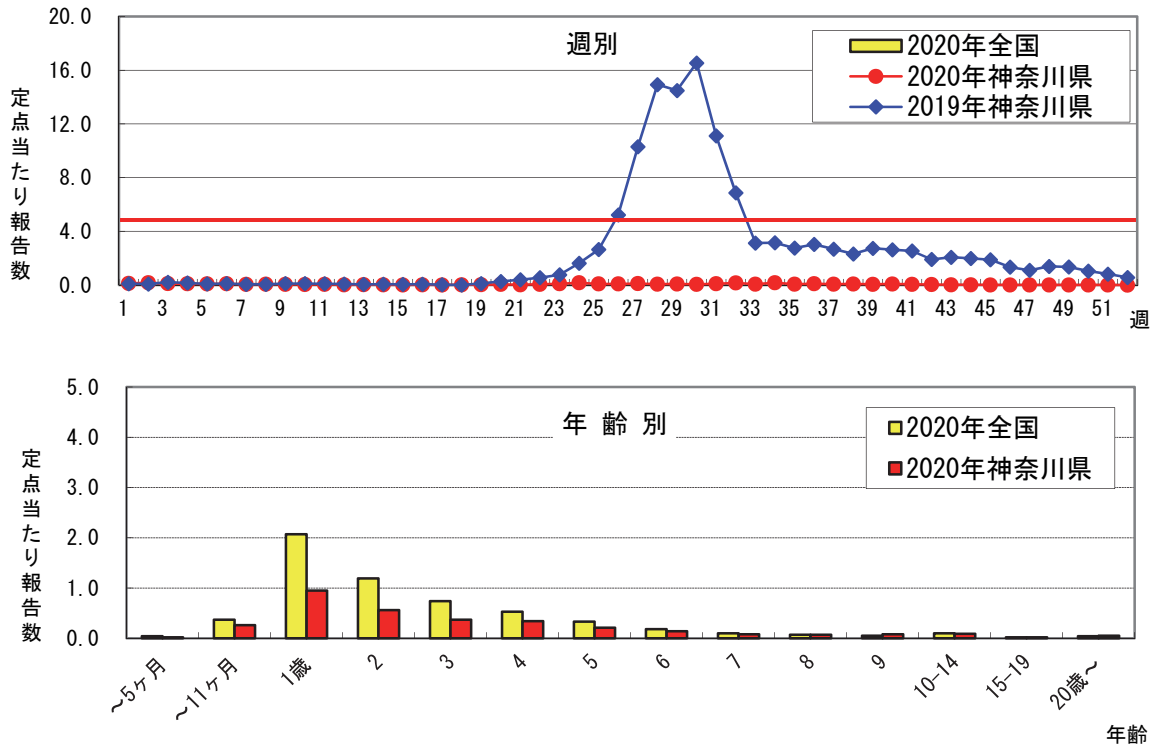
## 水痘

2020年10週までは前年と同程度の報告数だったが、その後は前年と比較し、低い水準が続いた。



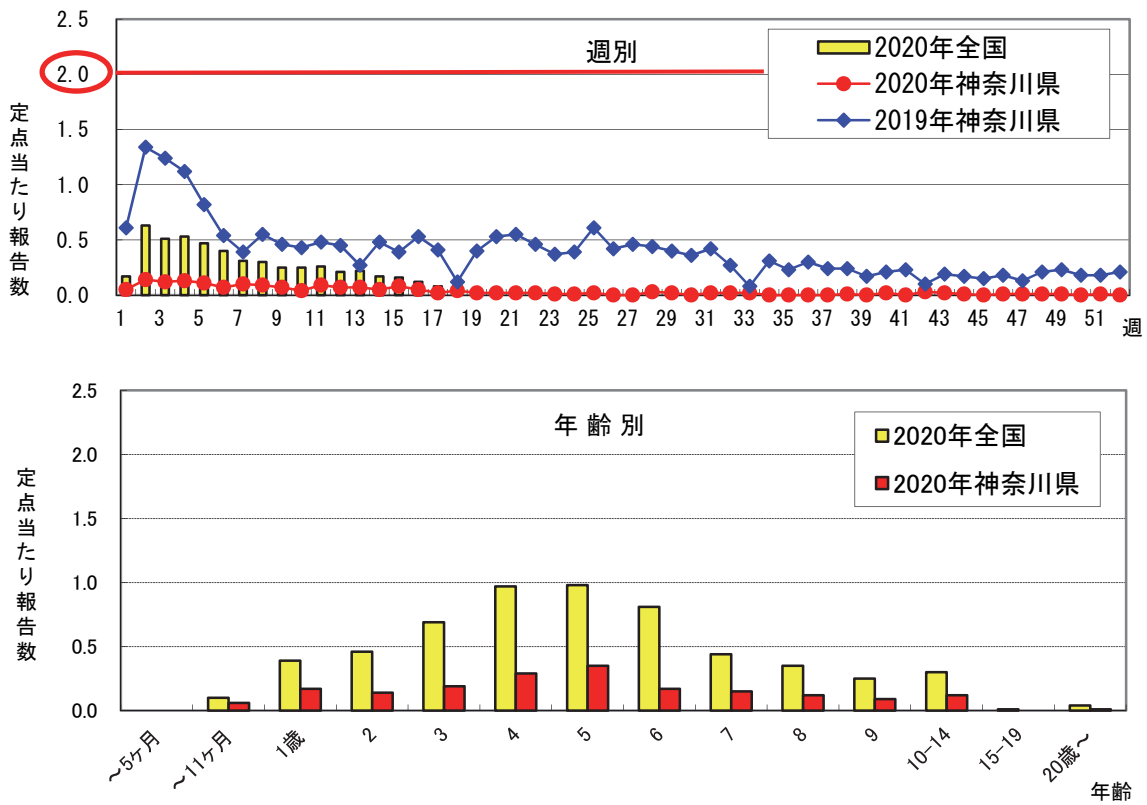
## 手足口病

2020年是一年を通して報告はほとんどなかった。年齢別では、1歳を中心に報告された。



## 伝染性紅斑

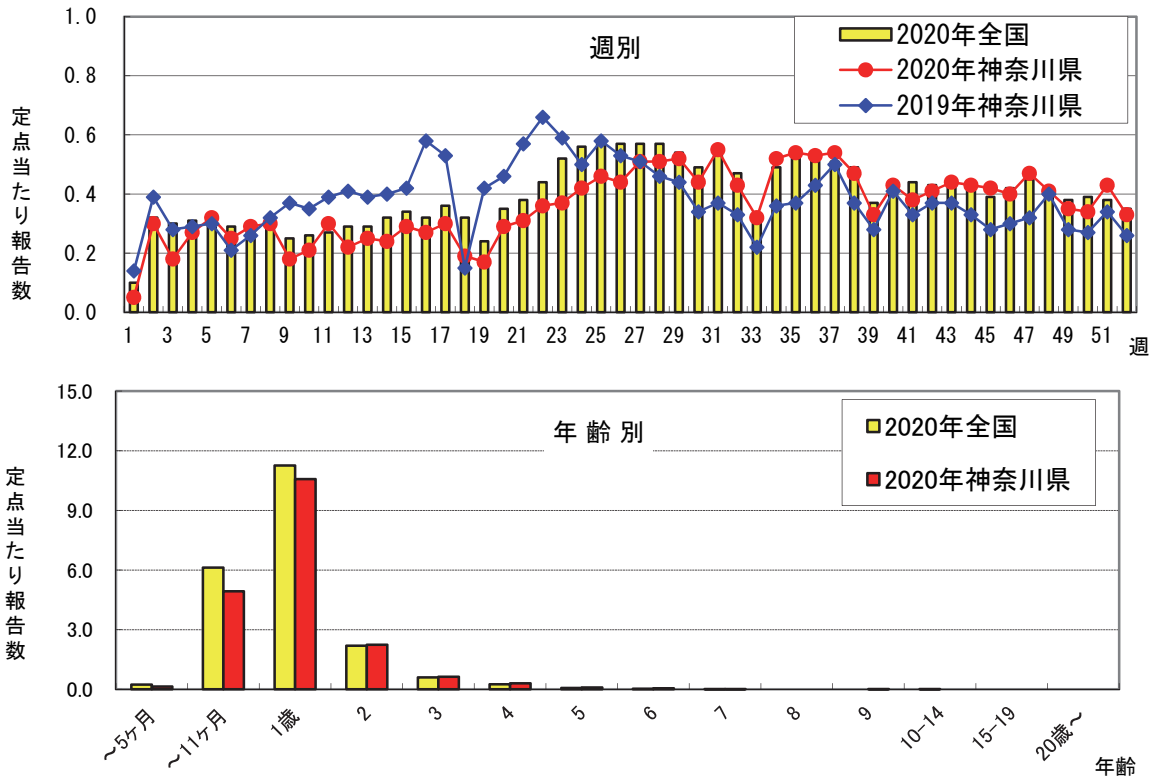
2020年是一年を通して報告はほとんどなかった。年齢別では、5歳を中心に報告された。





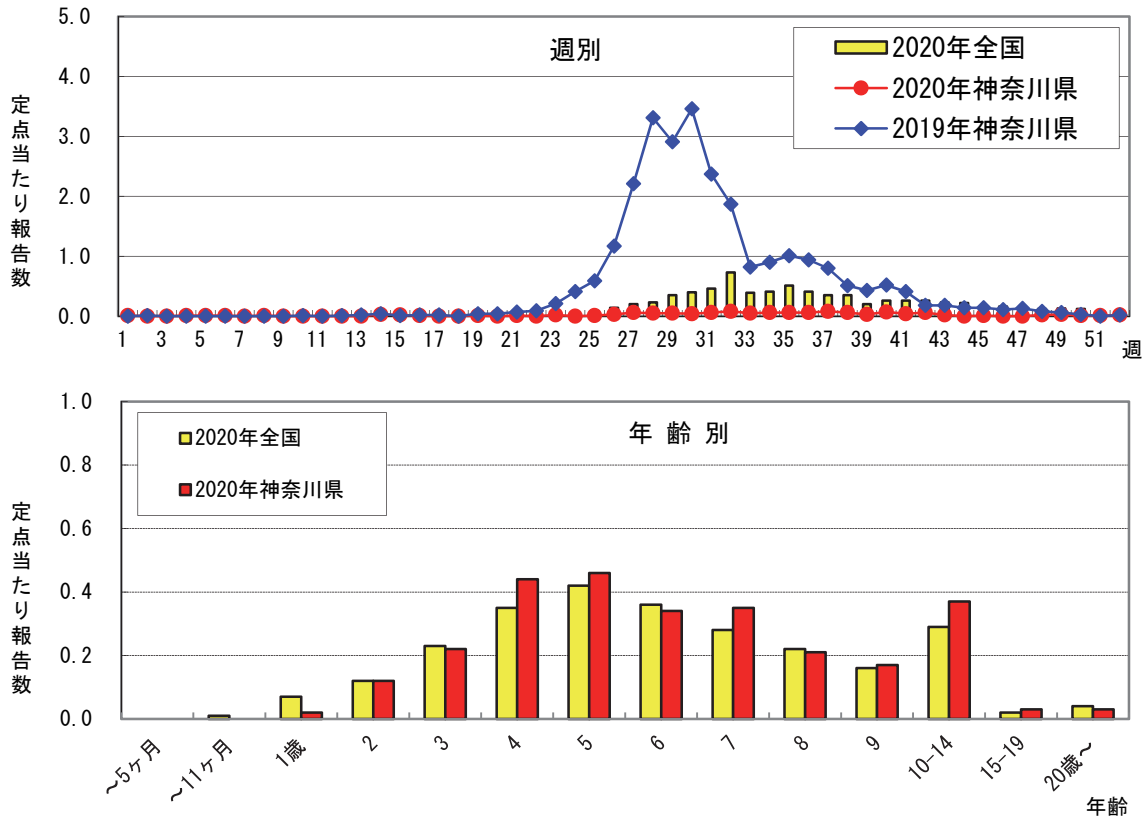
## 突発性発しん

前年とほぼ同様の流行であった。年齢別では、1歳で多く報告された。



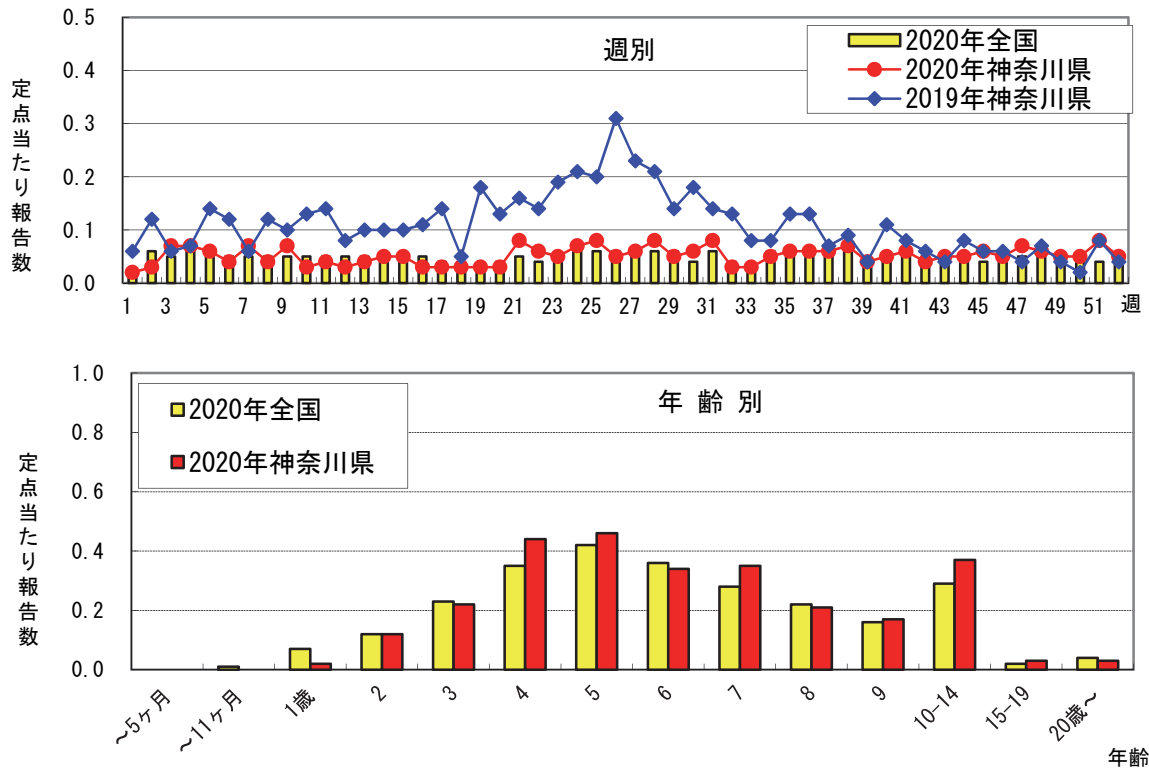
## ヘルパンギーナ

2020年は一年を通して報告はほとんどなかった。年齢別では、5歳を中心に報告された。



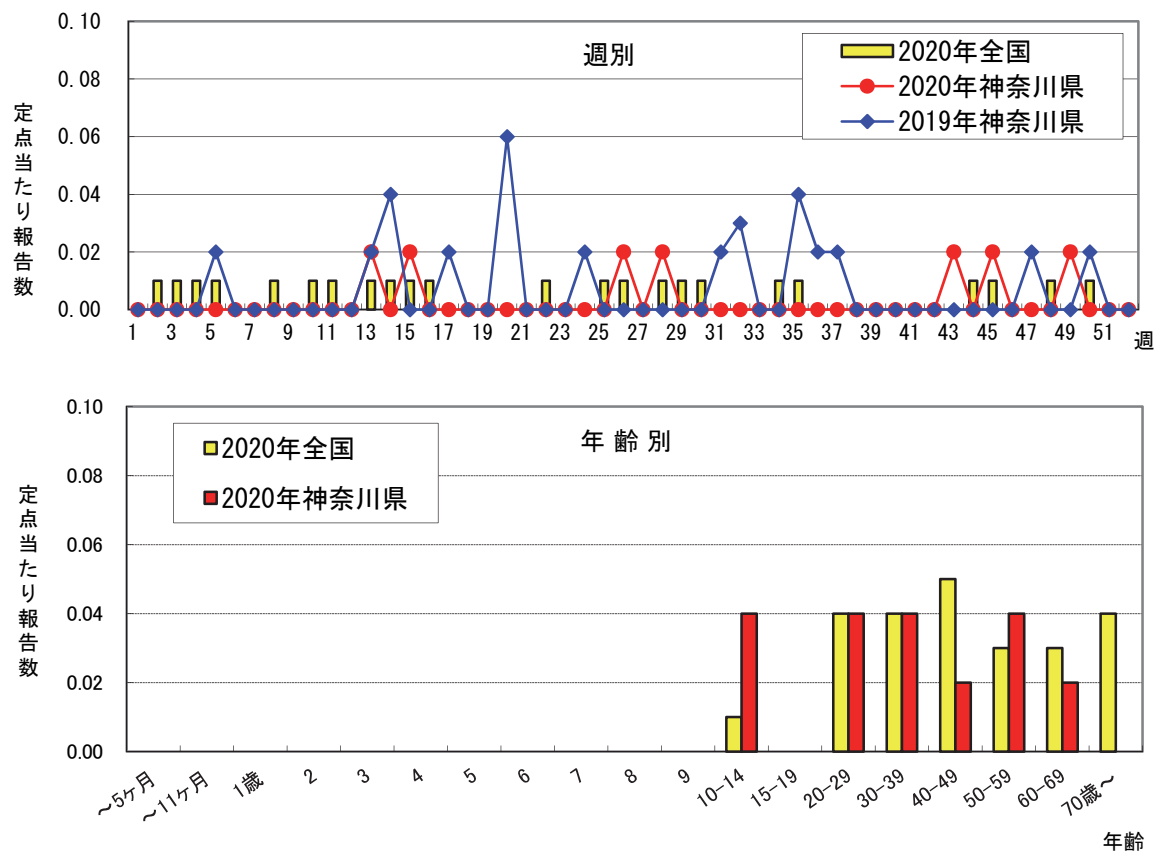
## 流行性耳下腺炎

年間を通して前年より報告は少なかった。年齢別では、5歳を中心に報告された。



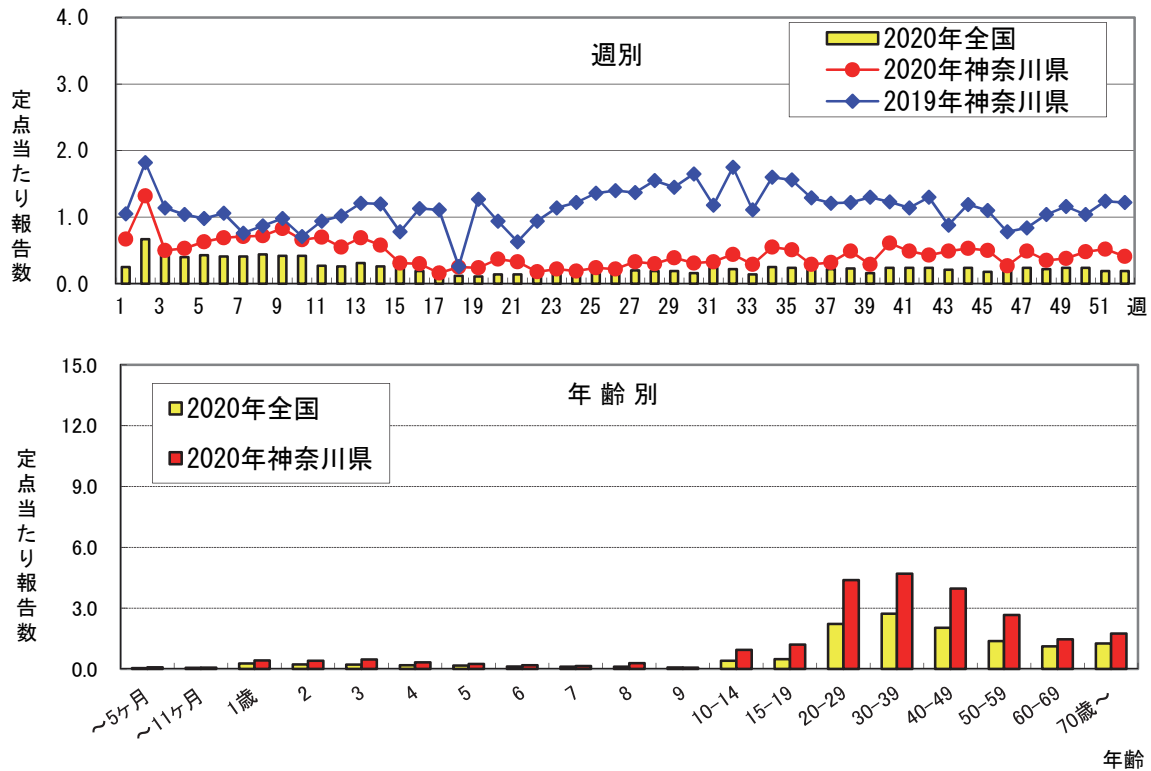
## 急性出血性結膜炎

前年同様、散発的な報告がみられた。



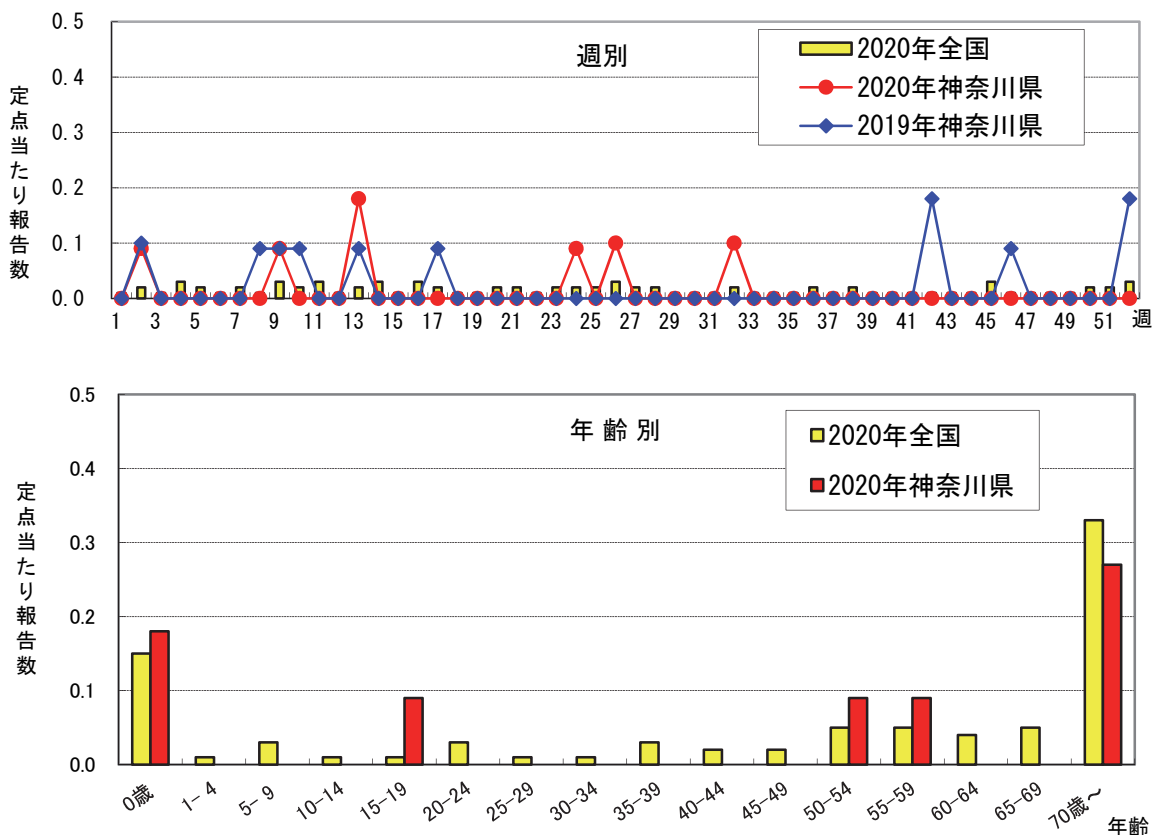
## 流行性角結膜炎

前年と比べて報告数は減少した。年齢別では、30歳代を中心に多く報告された。



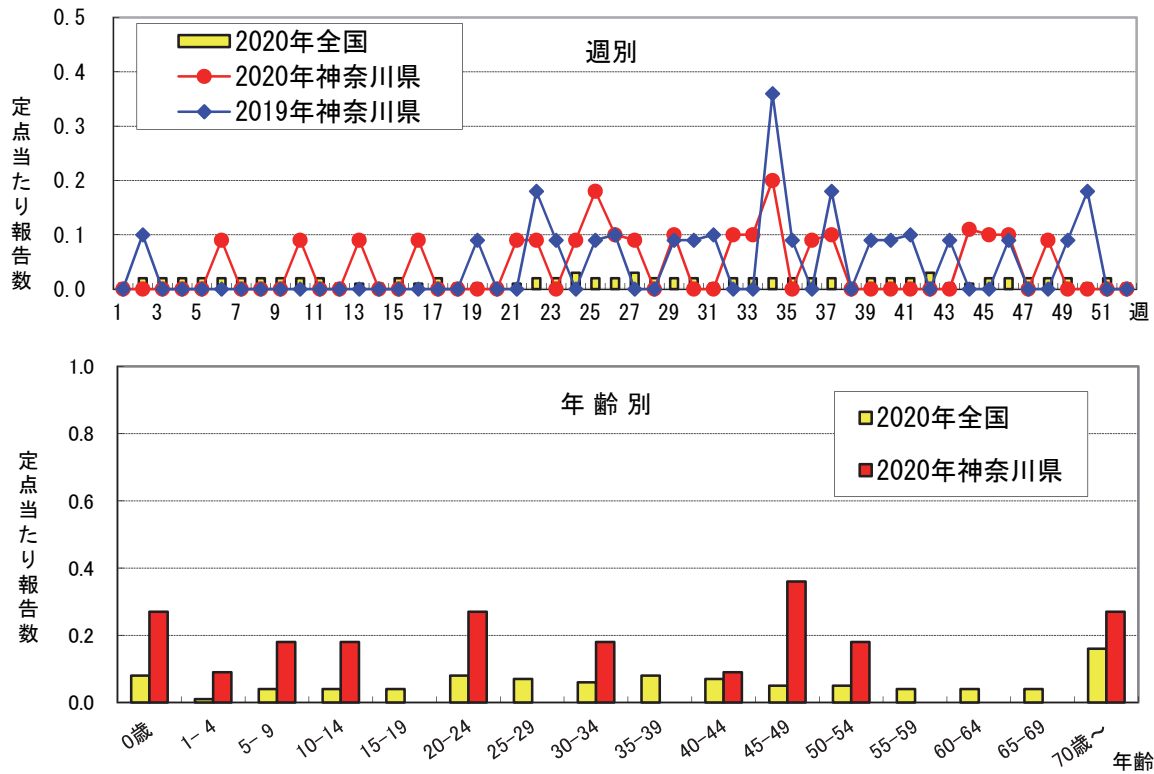
## 細菌性髄膜炎

前年同様、散発的な報告がみられた。年齢別では、70歳以上に多くみられた。



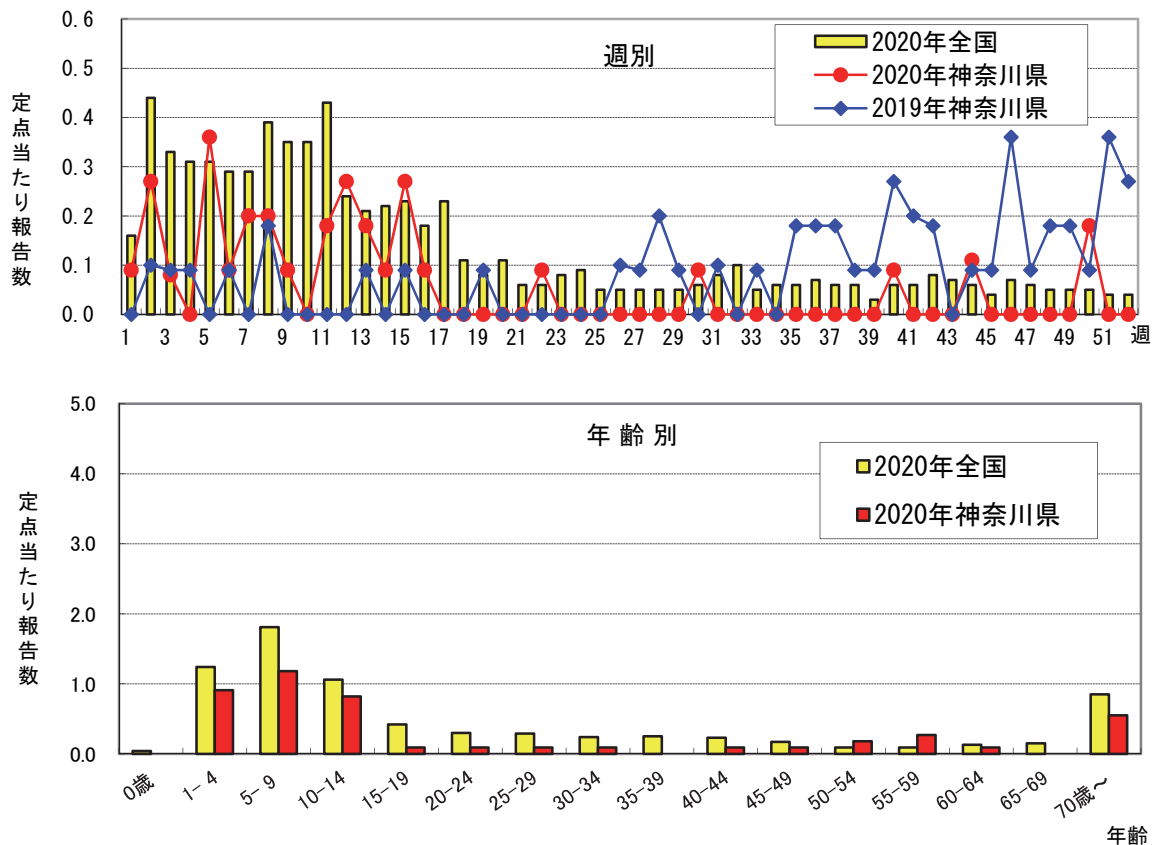
## 無菌性髄膜炎

前年同様、散発的な報告がみられた。年齢別では、4歳以下の乳幼児に多くみられた。



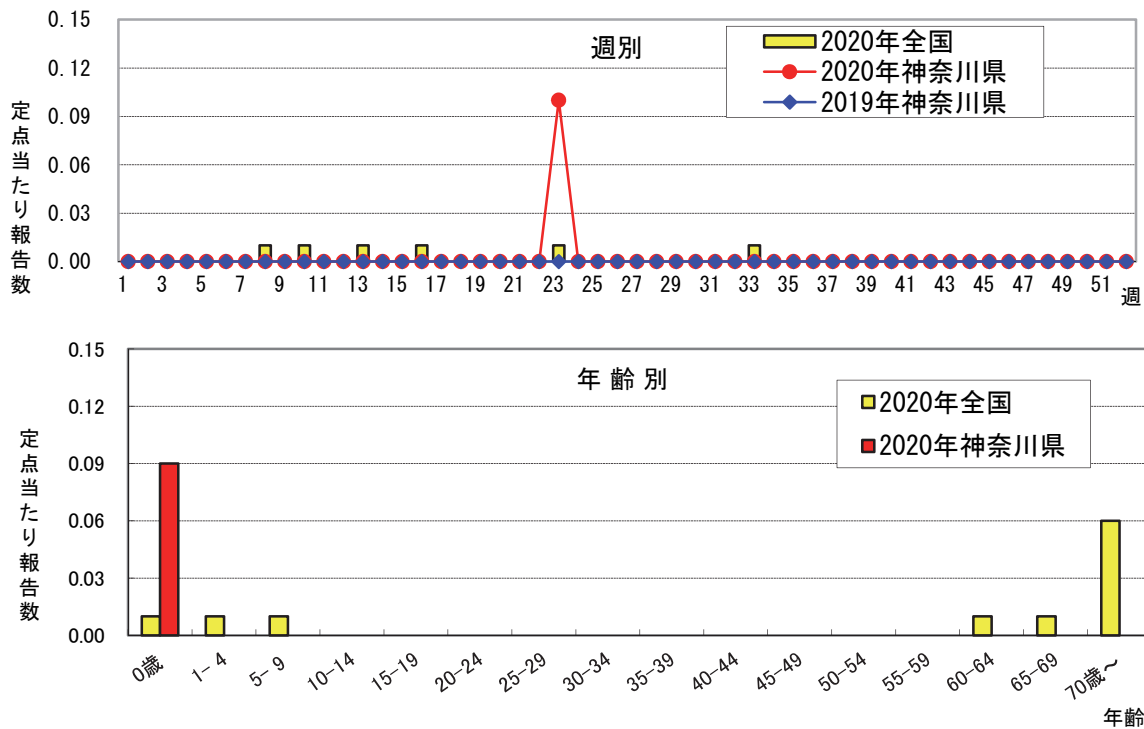
## マイコプラズマ肺炎

前年と比較し、報告数が減少した。年齢別では、5歳から9歳を中心に報告された。



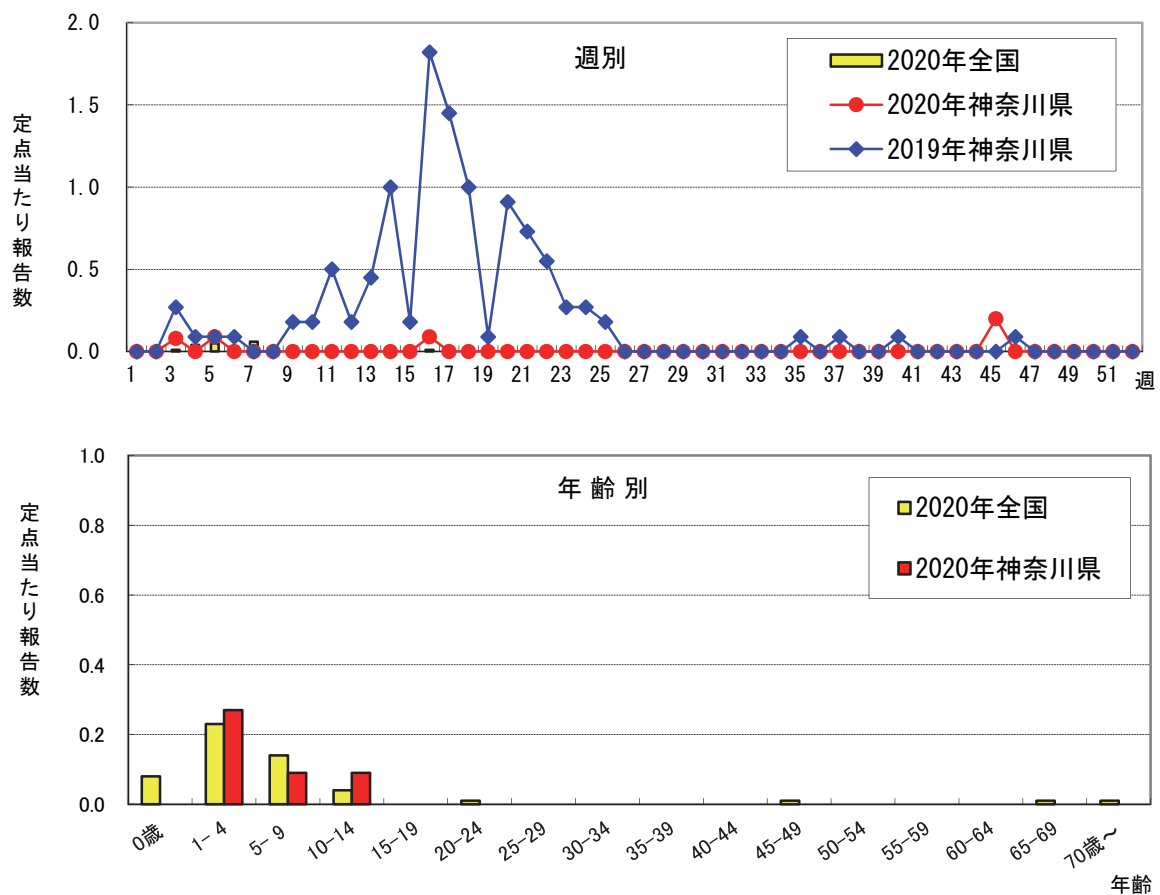
### クラミジア肺炎（オウム病を除く）

23週のみ報告があり、年齢別では0歳の乳児で報告がみられた。



### 感染性胃腸炎（ロタウイルス）

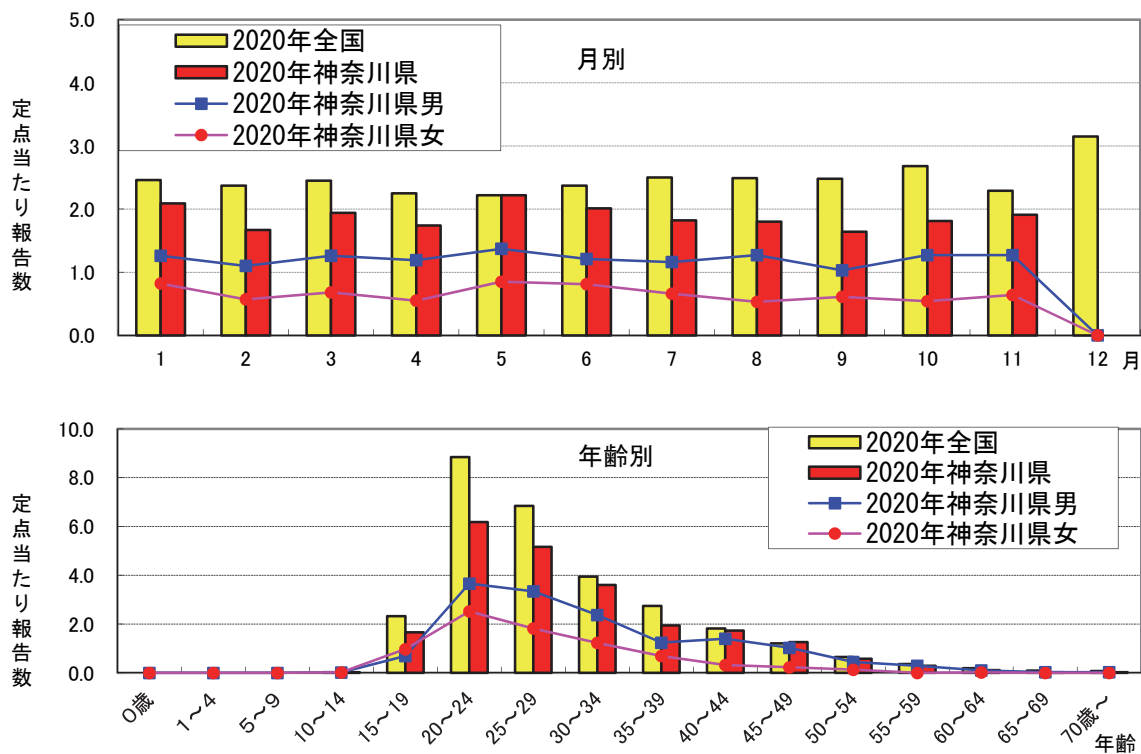
2020年は報告がほとんどなかった。年齢別では、9歳以下で多く報告された。



(3) 月報対象疾患（神奈川県全県）

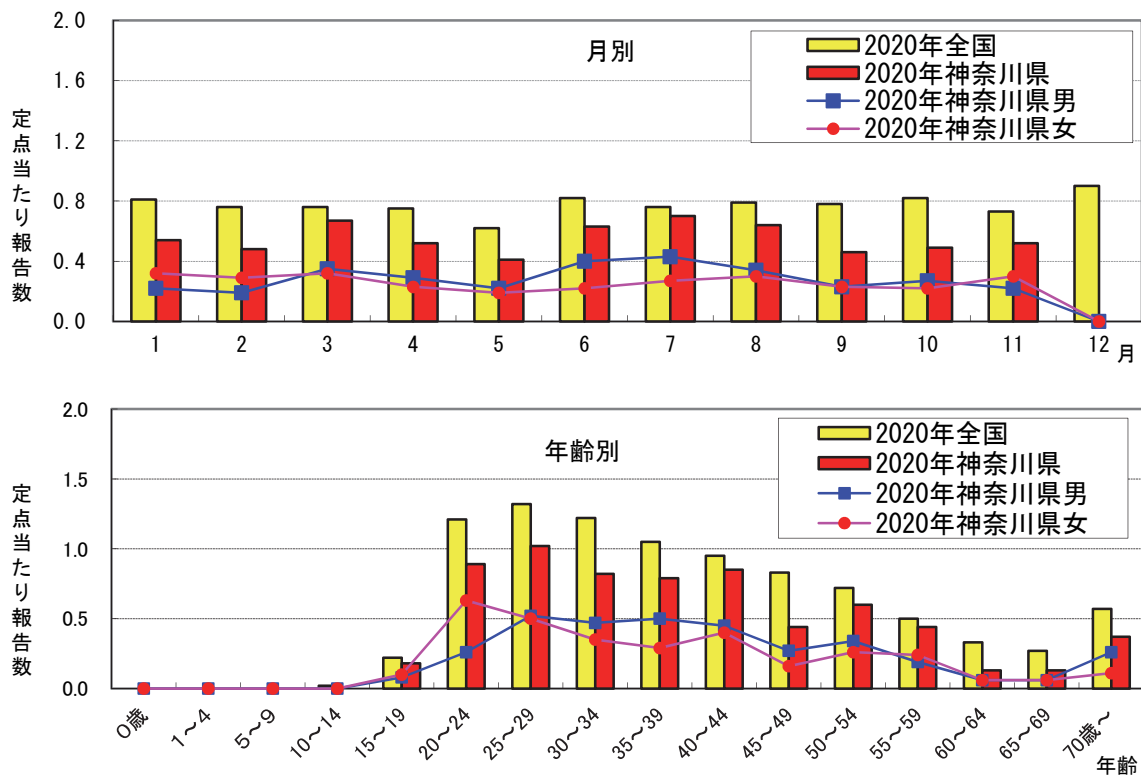
性器クラミジア感染症

男女ともに年間を通して報告がみられた。年齢別では、男女ともに 20 歳代を中心に報告がみられた。



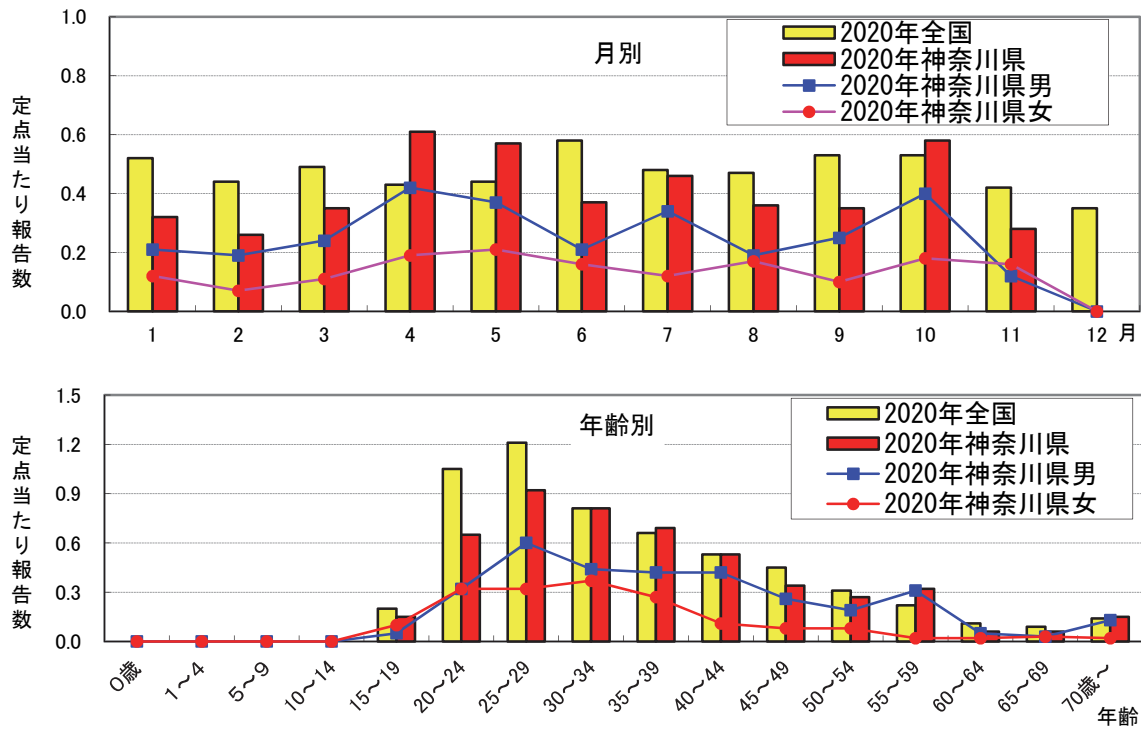
性器ヘルペスウイルス感染症

男女ともに年間を通して報告がみられた。年齢別では、男性は 20 歳代後半から 30 歳代にかけて、女性は 20 歳代後半を中心に、幅広い年齢層で報告された。



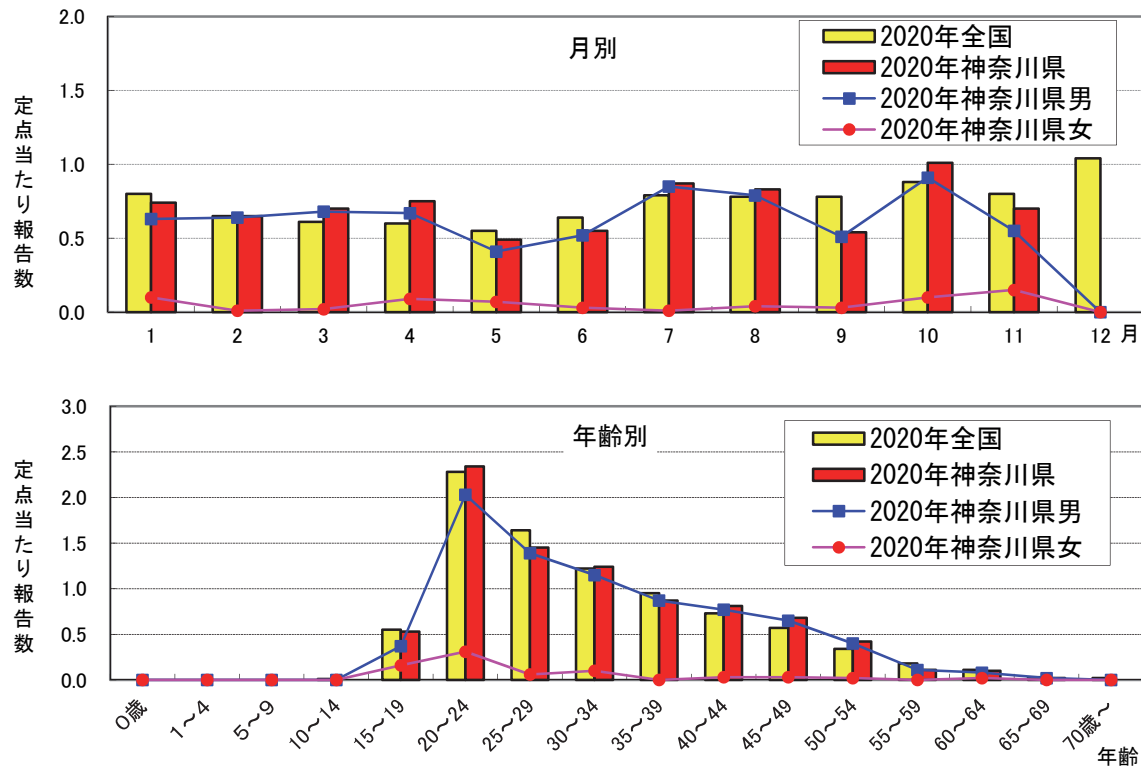
## 尖圭コンジローマ

男女ともに年間を通して報告がみられた。年齢別では、男性は20歳代後半を中心に、女性は20歳代から30歳代前半を中心に報告された。



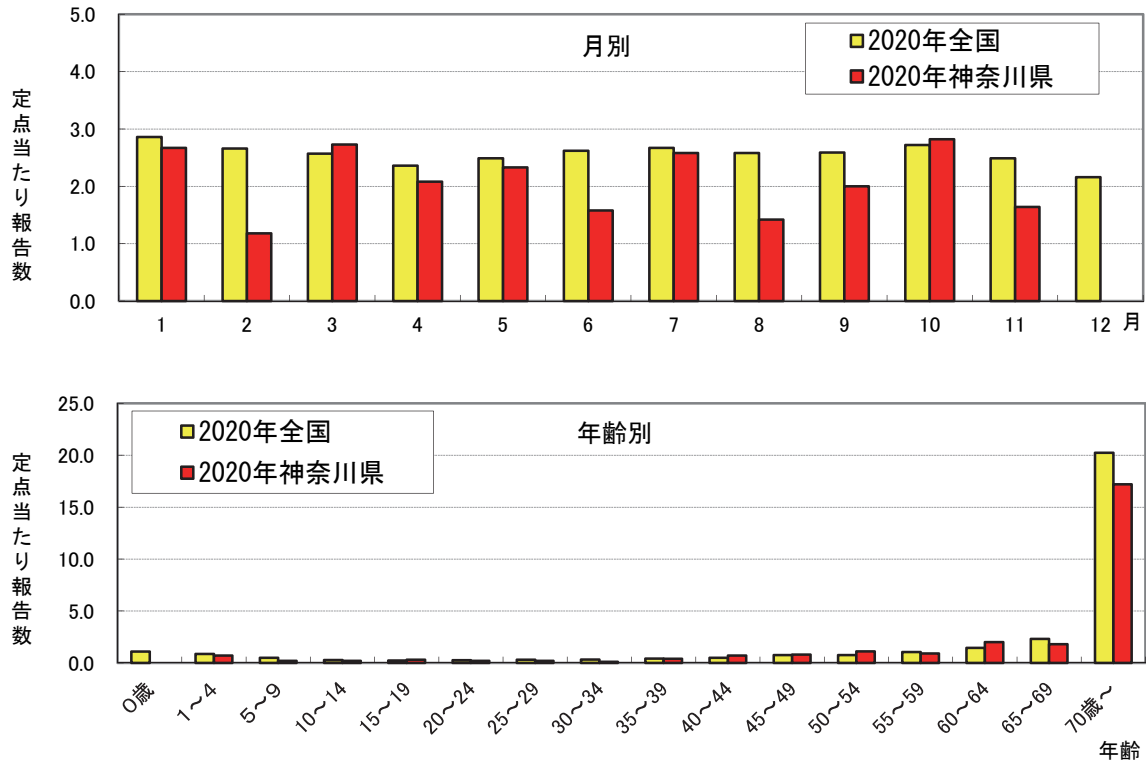
## 淋菌感染症

男性は年間を通して報告がみられたが、女性の報告は少なかった。年齢別では、男性が20歳代前半をピークに40歳代まで幅広く報告された。



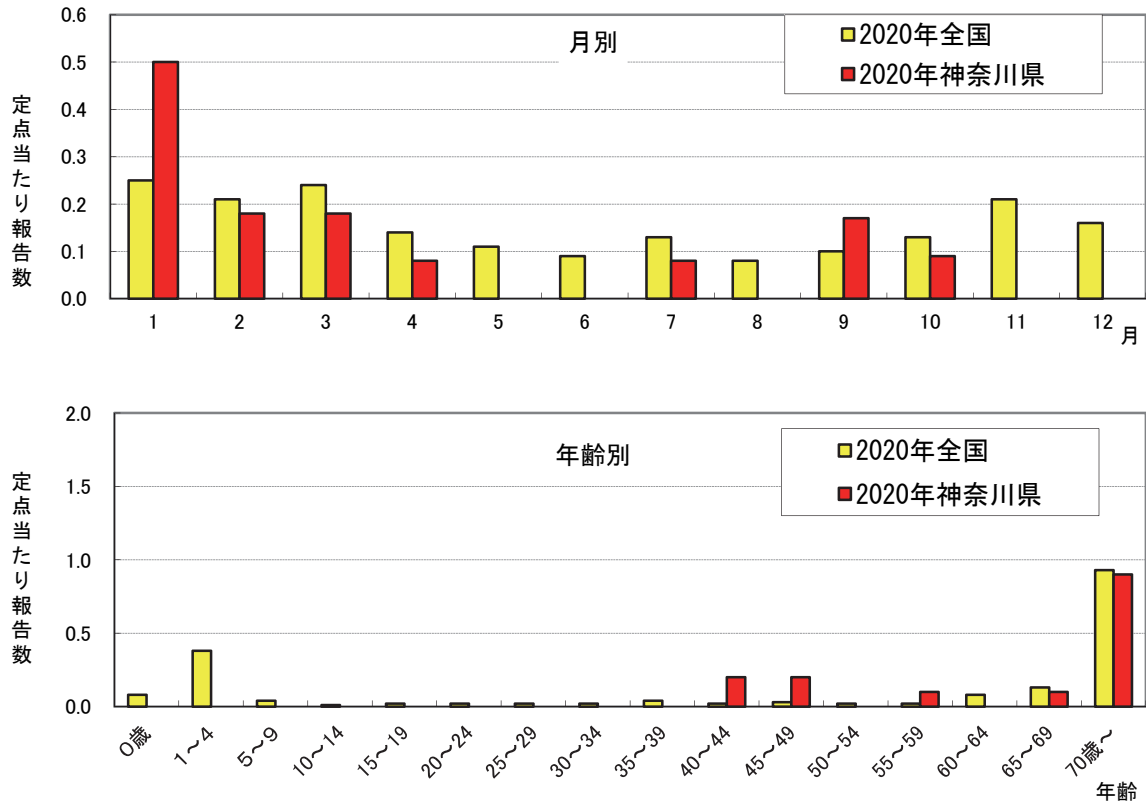
## メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

年間を通して報告がみられた。年齢別では、70歳以上に多く報告された。



## ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

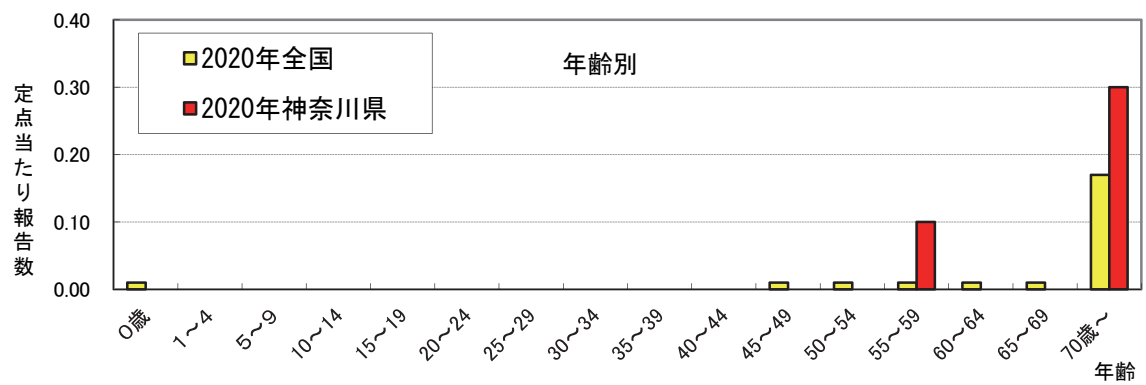
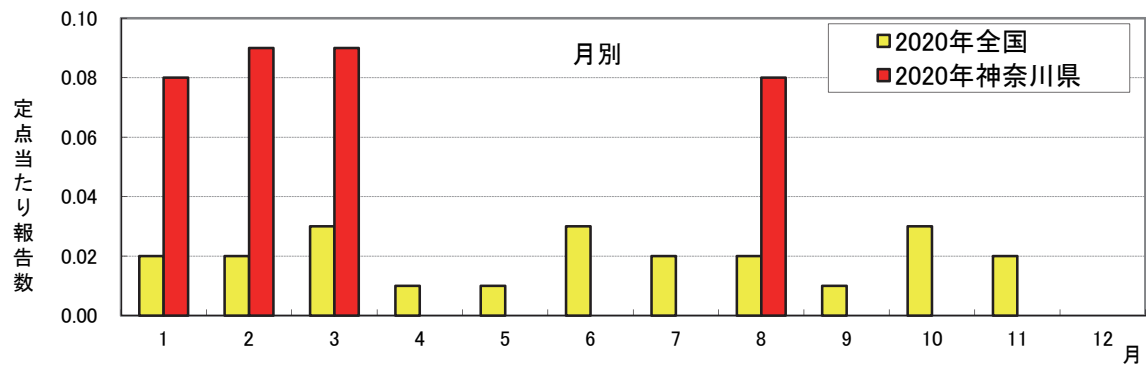
1月に多く報告されたが、その後は報告のない月もあった。年齢別では、70歳以上に多く報告され、40歳未満では報告がなかった。





## 薬剤耐性緑膿菌感染症

月別では1～3月と8月に報告があり、年齢別では、50歳代前半と70歳以上に報告があった。



### 3 トピックス

#### 新型コロナウイルス感染症について

(神奈川県公表資料より集計)

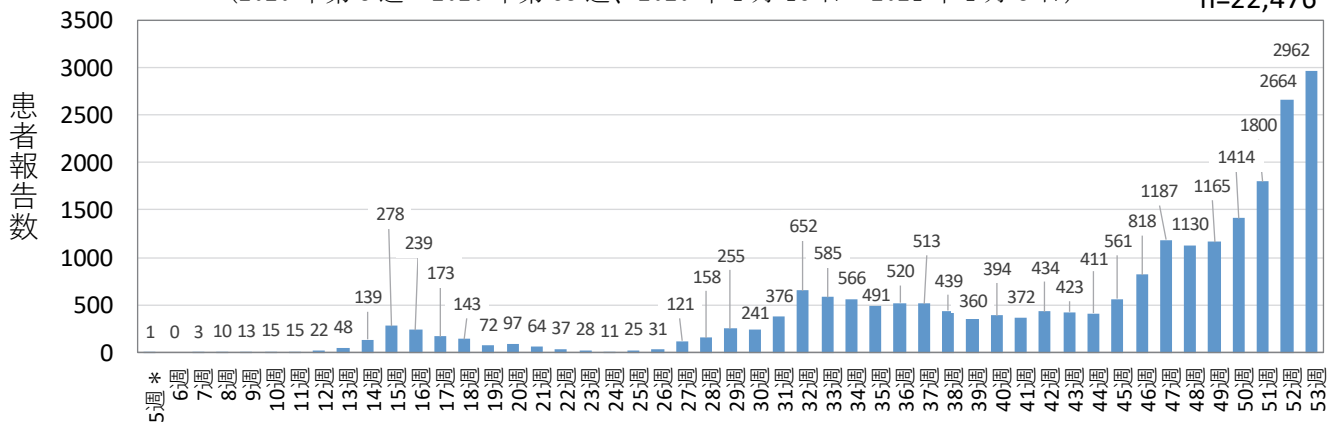
新型コロナウイルス感染症は、国内では2020年1月に初めて感染者が確認され、同年2月より感染症法に基づく指定感染症となった。

県内では、2020年1月16日に1例目の患者が確認された。保健所別報告数は、ほぼ人口比と同様の報告があり、年齢別では、20歳代が最も多く、30歳代から50歳代の働く世代で多くみられた。

#### (1) 神奈川県の新規新型コロナウイルス感染症患者の週別報告数

(2020年第3週～2020年第53週、2020年1月16日～2021年1月3日)

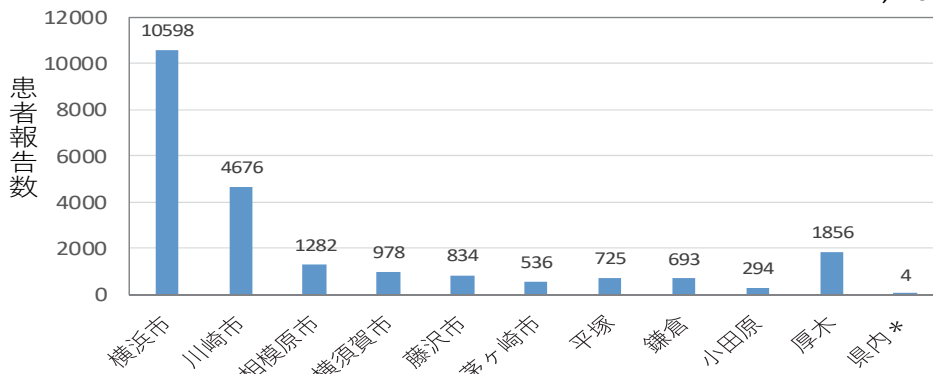
n=22,476



#### (2) 神奈川県の新規新型コロナウイルス感染症患者の保健所別報告数

(2020年第3週～2020年第53週、2020年1月16日～2021年1月3日)

n=22,476

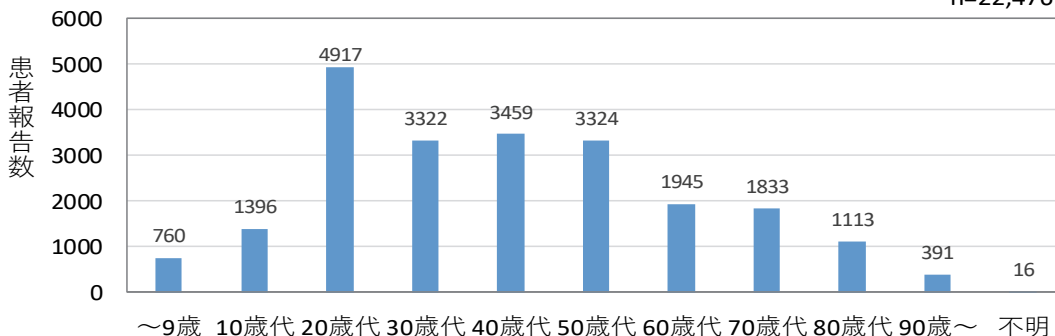


\*管轄保健所非公表の県内症例

#### (3) 神奈川県の新規新型コロナウイルス感染症患者の年齢群別報告数

(2020年第3週～2020年第53週、2020年1月16日～2021年1月3日)

n=22,476



資料

全数把握疾患保健所別累積報告数

【令和3（2021）年1月12日現在 感染症発生動向調査による】

	二類		三類感染症			四類感染症										五類感染症																						
	結核		コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス	オウム病	つが虫病	ツング熱	マラリア	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん		
2019年総数	1484	1	3	189	6	2	49	41	1	18	36	6	152	81	19	207	3	65	11	76	71	3	38	6	205	41	269	12	3	2	547	295	94					
2020年総数	2345	1153	3	173	1	1	39	7	1	27	1	3	112	54	17	122	2	32	4	51	65	2	22	102	26	219	5	5	7	79	8	1						
横浜市	943	460	1	82	1	1	18	3	1	1	38	1	25	10	45	7	21	30	7	40	11	108	2	4	3	20	3											
川崎市	507	247	1	34	1	1	10	1	1	2	20	8	6	24	2	18	7	17	1	3	26	2	48	1	1	22	4											
相模原市	176	94	1	9	1	2	2	2	2	14	3	14	3	14	2	2	2	9	1	5	1	12	1	2	2													
県域	719	352	48	9	3	24	1	40	18	1	39	5	3	21	9	11	31	12	51	2	1	35	1	1														
横須賀市	131	76	5	4	1	6	4	7	1	5	2	8	3	5	1																							
藤沢市	111	37	9	1	1	6	3	1	10	1	1	1	5	14																								
茅ヶ崎市	29	21	2	2	1	7	3	2	2	4	1	11	5	14																								
平塚	76	39	9	9	1	7	3	2	2	2	2	4	1	4																								
秦野市	75	36	6	6	3	2	2	5	1	9	2	1	4	1																								
鎌倉	59	39	5	5	1	4	1	1	1	1	1	2	4	4																								
三崎市	8	6	1	1	1	3	1	5	4	1	2	1	1	2																								
小田原	44	23	1	1	1	3	1	5	2	1	2	1	1	13																								
足柄上市	30	3	2	2	1	7	4	6	1	3	1	5	2	1																								
厚木	103	44	4	4	4	7	4	6	2	3	1	5	2	1																								
大和市	53	28	4	4	4	5	2	1	1	1	1	1	1	2																								

## < PART II > 2020年地域における感染症発生状況の概要

### I 病原微生物検出状況

#### 1 ウイルス検出概況

2016年～2020年のウイルス検出状況を図1に示した。2020年に県内で検出されたウイルスは6,445件で、5年間で最も多かった。検出ウイルスの大部分を SARS-CoV-2 が占めたため、月別検出状況は SARS-CoV-2 の流行状況を反映する形となり、例年とは異なる様相を呈した。

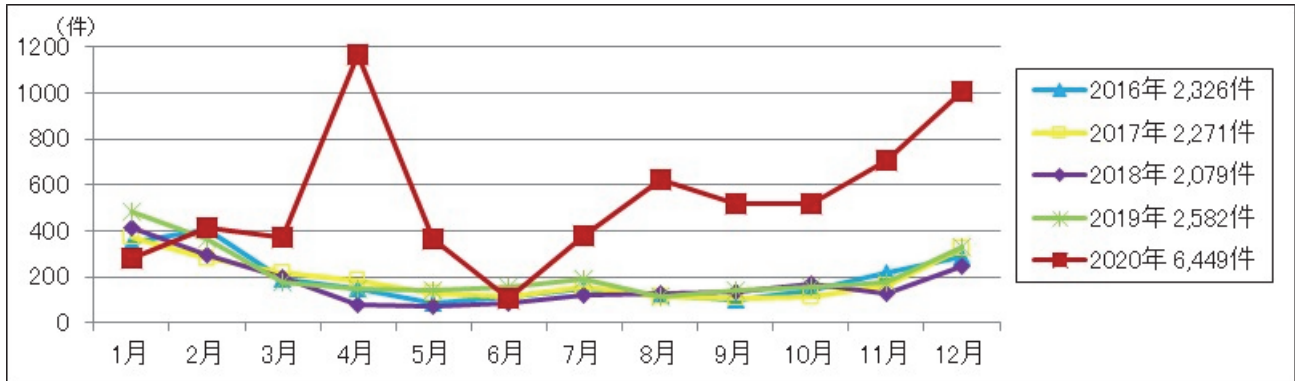


図1 ウイルス月別検出状況年別比

2020年に検出されたウイルスのうち、検出割合の多い上位10種について2016年～2020年の年別検出割合を図2に示した。最も多く検出されたウイルスは SARS-CoV-2 (90.0%)、次いでインフルエンザウイルス AH1pdm09 (4.2%)、インフルエンザウイルス B (1.3%) の順であり、大部分が SARS-CoV-2 であった。

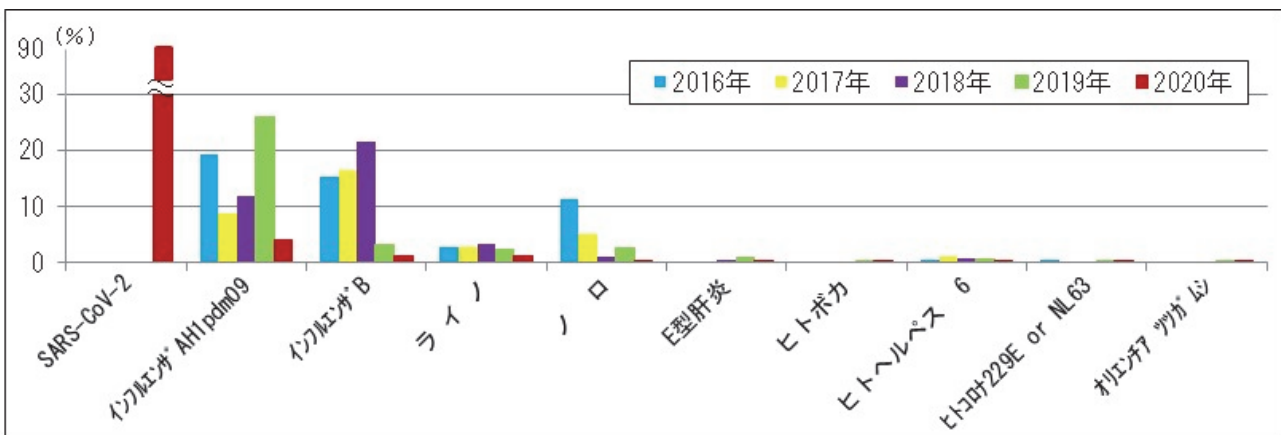


図2 主なウイルスの年別検出割合

神奈川県、神奈川県衛生研究所、横浜市衛生研究所、川崎市健康安全研究所、相模原市衛生研究所、横須賀市健康安全科学センター及び藤沢市保健所の各ウイルス検出状況は、ウイルス検出状況表 (p 29～ p 39) に記載する。

(木村睦未)

## 2 病原細菌検出概況

2016年～2020年の病原細菌検出状況を図1に示した。2020年に県内で検出された病原細菌は357件で、5年間で最も少なかった。月別検出状況は、年間を通してあまり変化が無かった。

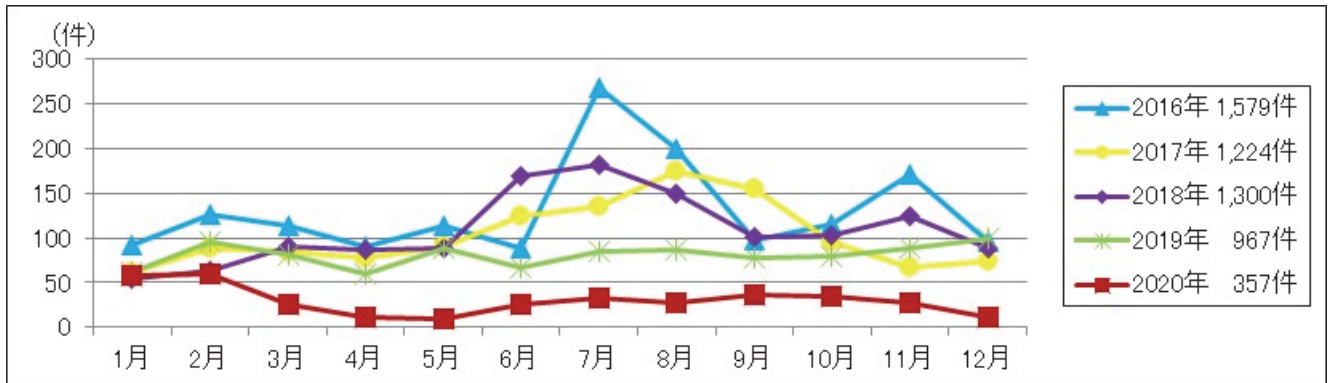


図1 病原細菌月別検出状況年別比較

2020年に検出された病原細菌のうち、検出割合の多い上位9種について2016年～2020年の年別検出割合を図2に示した。最も多く検出された病原細菌は腸管出血性大腸菌（EHEC）（25.5%）、次いでA群溶血性レンサ球菌（23.5%）、結核菌（10.6%）の順であった。

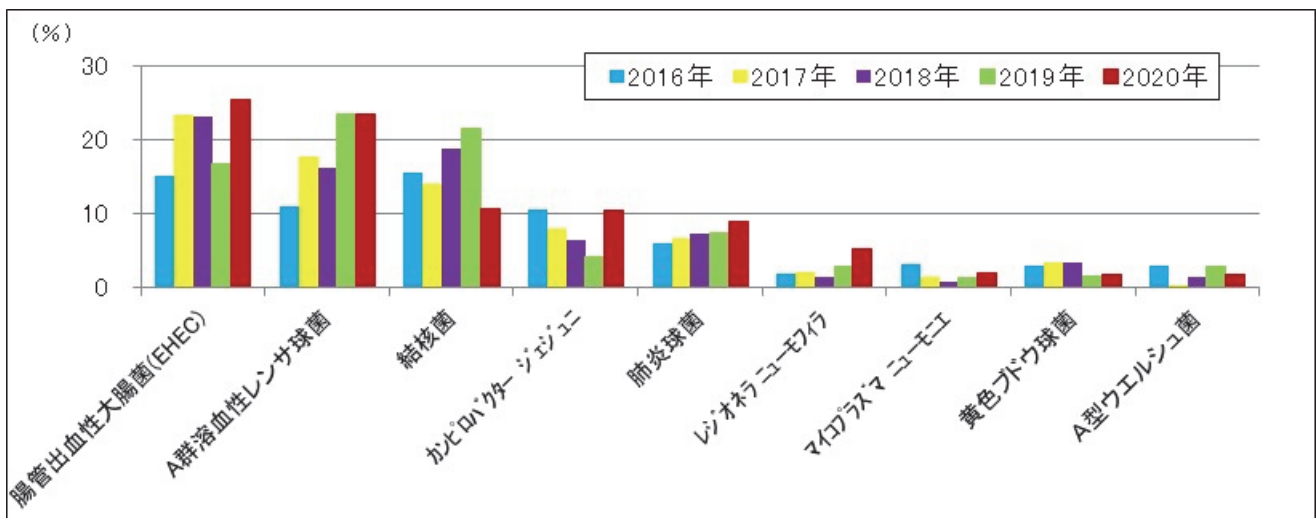


図2 主な病原細菌の年別検出割合

神奈川県、神奈川県衛生研究所、横浜市衛生研究所、川崎市健康安全研究所、相模原市衛生研究所、横須賀市健康安全科学センター及び藤沢市保健所の各病原細菌検出状況は、病原細菌検出状況表（p 40～p 43）に記載する。

（木村睦未）

### 3 ウイルス等の検出状況表（ヒト由来）

#### 3-1 神奈川県（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	全数把握対象疾患							定点把握対象疾患							新型コロナウイルス感染症	その他	合計	
	E型肝炎	A型肝炎	つつが虫病	デング熱	急性脳炎	風しん	麻しん※	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	インフルエンザ様	流行性角結膜炎				無菌性髄膜炎
インフルエンザ AH1pdm09												270		1		3	274	
インフルエンザ AH3												6					6	
インフルエンザ A(亜型不明)												2					2	
インフルエンザ B												83				2	85	
パラインフルエンザ 2																2	2	
パラインフルエンザ 4																3	3	
R S								3								1	4	
ヒトメタニューモ																9	9	
ヒトコロナ OC43																3	3	
ヒトコロナ 229E or NL63													2			9	11	
ヒトボカ																12	12	
コクサッキー A2												1					1	
コクサッキー A4																3	3	
コクサッキー A16											3					1	4	
エコー 11																1	1	
エンテロ（型未決定）																9	9	
ライノ					1					1				1		79	82	
ムンプス					1											1	2	
麻疹							1										1	
風疹						6											6	
アデノ 1									2							2	4	
アデノ 2									3	1						5	9	
アデノ 3									7							1	8	
アデノ 4									1								1	
アデノ 5									1								1	
アデノ 37														1			1	
アデノ 53														5			5	
アデノ（型未決定）																1	1	
単純ヘルペス 1																4	4	
水痘・帯状疱疹					1									3			4	
E B					1												1	
サイトメガロ					3									2			5	
ヒトヘルペス 6					9									1		2	12	
ヒトヘルペス 7					4									3		2	9	
A型肝炎		1															1	
E型肝炎	14																14	
ロタ										2							2	
ノロ										32							32	
デング				2													2	
SARS-CoV-2																5802	5802	
オリエンチア ツカムシ			11														11	
計	14	1	11	2	20	6	1	3	14	35	4	1	363	6	11	5802	155	6449

※麻しんを疑う患者検体からの検出

### 3-1 神奈川県 (月別)

年・月 検出ウイルス	2018年	2019年	2020年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm09	249	672	216	55	3											274
インフルエンザ AH3	398	514	4	1	1											6
インフルエンザ A(亜型不明)		3	2													2
インフルエンザ B	448	82	17	50	18											85
パラインフルエンザ 1	9	6														
パラインフルエンザ 2	4	13		2												2
パラインフルエンザ 3	8	11														
パラインフルエンザ 4	1	4				1					1			1		3
R S	52	61	2	1											1	4
ヒトメタニューモ	40	45	1	1	4	3										9
ヒトコロナ OC43	3	2		2	1											3
ヒトコロナ 229E or NL63	5	9	2	1	6	1		1								11
ヒトボカ	4	3										3	5	4		12
コクサッキー A2	10	1									1					1
コクサッキー A4	38	1									3					3
コクサッキー A5	16	7														
コクサッキー A6	6	150														
コクサッキー A9	8															
コクサッキー A10	6	3														
コクサッキー A16	37	85	3	1												4
コクサッキー B2	4															
コクサッキー B3		6														
コクサッキー B4	5	9														
コクサッキー B5	6	1														
エコー 3	5															
エコー 6	3															
エコー 11	4	5													1	1
エコー 18	1	1														
エコー 25		2														
エコー 30	3															
エンテロ D68	1															
エンテロ A71	39	1														
エンテロ (型未決定)				1	3	1	1		2	1						9
ヒトパレコ 1		4														
ヒトパレコ 2	2															
ヒトパレコ 3	4	19														
ヒトパレコ 4	7	2														
ライノ	71	63		2	1	5		2	17	9	8	17	10	11		82
ムンプス	2	6										1	1			2
麻疹	4	126						1								1
風疹	256	255	4		1						1					6
アデノ 1	9	21	1				1				1				1	4
アデノ 2	33	31	3	1		2			1	1					1	9
アデノ 3	57	51	3	2	3											8
アデノ 4	2	6	1													1
アデノ 5	6	6		1												1
アデノ 6		1														
アデノ 37		1			1											1
アデノ 41	7	3														
アデノ 53		3						1				2	1	1		5
アデノ 54	11	6														
アデノ 56	3	1														
アデノ 64	1															
アデノ 85	1															
アデノ (型未決定)	4	12			1											1
単純ヘルペス 1	7	15	1	3												4
単純ヘルペス 2		1														
水痘・帯状疱疹	7	11									1		3			4
E B	7	5											1			1
サイトメガロ	3	4	1					1	1	1					1	5
ヒトヘルペス 6	15	21		1	1		1	4	1				2	2		12
ヒトヘルペス 7	12	16	5				1	1	1			1				9
パルボウイルス B19	4															
A型肝炎	57	28	1													1
E型肝炎	12	24	2	1	3	1		1				3	1	2		14
ロタ	15	29	1							1						2
小型球形																
ノロ	21	68	7	7	3	1								14		32
サボ	6	6														
アストロ	3	7														
デング	10	27	2													2
SARS-CoV-2				279	322	1150	359	96	355	603	505	490	683	960		5802
オリエンチア ツツカムシ	7	6												3	8	11
計	2079	2582	279	412	372	1165	363	108	378	620	516	518	710	1008		6449

3-2 神奈川県衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	つつが虫病	デング熱	急性脳炎	風しん	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	インフルエンザ様	無菌性髄膜炎	新型コロナウイルス感染症	その他	合計
インフルエンザ AH1pdm09										111				111
インフルエンザ AH3										3				3
インフルエンザ B										19				19
R S					1									1
コクサッキー A2									1					1
コクサッキー A16								3					1	4
ライノ											1			1
ムンプス			1											1
風疹				2										2
アデノ 1						1								1
アデノ 2						1								1
アデノ 3						6								6
アデノ 4						1								1
アデノ 5						1								1
単純ヘルペス 1													2	2
水痘・带状疱疹											2			2
サイトメガロ											1			1
ヒトヘルペス 6			2								1		1	4
ヒトヘルペス 7			2								3		1	6
ノロ							17							17
デング		2												2
SARS-CoV-2												690		690
オリエンチア ツツガムシ	11													11
計	11	2	5	2	1	10	17	3	1	133	8	690	5	888



### 3-2 神奈川県衛生研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	2018年	2019年	2020年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm09	95	301	91	19	1											111
インフルエンザ AH3	170	219	2		1											3
インフルエンザ B	203	23	5	10	4											19
R S		2	1													1
コクサッキー A2	4	1									1					1
コクサッキー A4	21	1														
コクサッキー A5	15	5														
コクサッキー A6	4	103														
コクサッキー A9	2															
コクサッキー A10	5	1														
コクサッキー A16	27	59	3	1												4
コクサッキー B4		7														
コクサッキー B5	3															
エコー 3	3															
エコー 6	2															
エコー 11		1														
エコー 25		1														
エコー 30	3															
エンテロ A71	31															
ヒトパレコ 1		3														
ヒトパレコ 2	2															
ヒトパレコ 3		9														
ヒトパレコ 4	1															
ライノ	5	7											1			1
ムンプス	1	6											1			1
麻疹		73														
風疹	141	119	2													2
アデノ 1	3	14	1													1
アデノ 2	16	19	1													1
アデノ 3	19	30	3	2	1											6
アデノ 4		2	1													1
アデノ 5	5	5		1												1
アデノ 6		1														
アデノ 41	4															
アデノ 54	2	4														
アデノ 85	1															
アデノ（型未決定）	1	7														
単純ヘルペス 1	3	7		2												2
水痘・帯状疱疹														2		2
E B	3	1														
サイトメガロ	1		1													1
ヒトヘルペス 6	7	6		1				1	1						1	4
ヒトヘルペス 7	5	7	4					1				1				6
A型肝炎	16	3														
E型肝炎	5	6														
ロタ	4	3														
ノロ	4	18	3	4		1									9	17
サポ	4	1														
アストロ	1	5														
デング	5	6	2													2
SARS-CoV-2				120	115	169	90	12	16	38	33	33	7	57		690
ポリオ ツガムシ	7	6											3	8		11
計	854	1092	120	160	122	170	92	13	16	39	33	36	12	75		888

3-3 横浜市衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	疾患別										合計	
	E型肝炎	A型肝炎	風しん	麻しん※	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	新型コロナウイルス感染症		その他
インフルエンザ AH1pdm09							79		1		3	83
インフルエンザ AH3							2					2
インフルエンザ B							34				2	36
パラインフルエンザ 2											2	2
パラインフルエンザ 4											3	3
R S											1	1
ヒトメタニューモ											9	9
ヒトコロナ OC43											3	3
ヒトコロナ 229E or NL63							1				9	10
ヒトボカ											12	12
コクサッキー A4											3	3
エコー 11											1	1
エンテロ（型未決定）											9	9
ライノ											79	79
ムンプス											1	1
麻疹				1								1
風疹			3									3
アデノ 1											2	2
アデノ 2							1				5	6
アデノ 3					1						1	2
アデノ 53								1				1
アデノ（型未決定）											1	1
単純ヘルペス 1											2	2
A型肝炎		1										1
E型肝炎	10											10
ノロ						3						3
SARS-CoV-2										2128		2128
計	10	1	3	1	1	4	116	1	1	2128	148	2414

※麻しんを疑う患者検体からの検出

### 3-3 横浜市衛生研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	2018年	2019年	2020年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm09	59	158	57	25	1											83
インフルエンザ AH3	90	117	1	1												2
インフルエンザ B	87	19	4	22	10											36
パラインフルエンザ 1	9	6														
パラインフルエンザ 2	3	13		2												2
パラインフルエンザ 3	8	10														
パラインフルエンザ 4	1	4				1						1			1	3
R S	39	40													1	1
ヒトメタニューモ	39	45	1	1	4	3										9
ヒトコロナ OC43	3	2		2	1											3
ヒトコロナ 229E or NL63	5	9	2	1	5	1		1								10
ヒトボカ	4	3										3	5	4		12
コクサッキー A2	4															
コクサッキー A4	13									3						3
コクサッキー A6	1	35														
コクサッキー A9	6															
コクサッキー A10	1	2														
コクサッキー A16	4	11														
コクサッキー B2	4															
コクサッキー B3		5														
コクサッキー B4	5	1														
コクサッキー B5	1															
エコー 3	2															
エコー 6	1															
エコー 11	3	2													1	1
エコー 18	1	1														
エコー 25		1														
エンテロ A71	6															
エンテロ（型未決定）				1	3	1	1		2	1						9
ヒトパレコ 1		1														
ヒトパレコ 3	4	10														
ヒトパレコ 4	6	2														
ライノ	62	52		2	1	5		1	16	9	8	16	10	11		79
ムンプス														1		1
麻疹		39							1							1
風疹		84	1		1						1					3
アデノ 1	4	5					1								1	2
アデノ 2	12	11	2	1		2			1							6
アデノ 3	8	12			2											2
アデノ 4	1															
アデノ 5	1	1														
アデノ 41	1	3														
アデノ 53		2												1		1
アデノ 54	2															
アデノ 56	1	1														
アデノ（型未決定）	3	1			1											1
単純ヘルペス 1	4	6	1	1												2
単純ヘルペス 2		1														
水痘・帯状疱疹	2	1														
ヒトヘルペス 6	1															
ヒトヘルペス 7	1															
バルボウイルス B19	2															
A型肝炎		17	1													1
E型肝炎		9	1	1	2	1		1				3		1		10
ロタ	4	3														
ノロ	7	13	2		1											3
サポ	1	2														
アストロ	1	2														
デング		8														
SARS-CoV-2				89	99	472	176	44	124	223	210	179	239	273		2128
計	527	770	73	149	131	486	178	48	143	236	219	202	256	293		2414

3-4 川崎市健康安全研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	E型肝炎	急性脳炎	風しん	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	新型コロナウイルス感染症	その他	合計
インフルエンザ AH1pdm09								53					53
インフルエンザ AH3								1					1
インフルエンザ B								21					21
R S				2									2
ヒトコロナ 229E or NL63								1					1
ライノ		1					1						2
風疹			1										1
アデノ 1					1								1
アデノ 2					2								2
アデノ 37									1				1
アデノ 53									2				2
水痘・帯状疱疹		1								1			2
E B		1											1
サイトメガロ		3								1			4
ヒトヘルペス 6		7										1	8
ヒトヘルペス 7		2										1	3
E型肝炎	4												4
ロタ						2							2
SARS-CoV-2											1667		1667
計	4	15	1	2	3	2	1	76	3	2	1667	2	1778

### 3-4 川崎市健康安全研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	2018年	2019年	2020年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm09	59	137	47	5	1											53
インフルエンザ AH3	63	98	1													1
インフルエンザ B	93	21	6	12	3											21
パラインフルエンザ 2	1															
パラインフルエンザ 3		1														
R S	13	19	1	1												2
ヒトメタニューモ	1															
ヒトコロナ 229E or NL63					1											1
コクサッキー A2	1															
コクサッキー A4	3															
コクサッキー A6		12														
コクサッキー A16	6	14														
コクサッキー B3		1														
コクサッキー B4		1														
コクサッキー B5	2	1														
エコー 11	1	2														
エンテロ D68	1															
エンテロ A71	2	1														
ライノ	4	4							1	1						2
ムンプス	1															
麻疹	4	10														
風疹	79	38	1													1
アデノ 1	2	2										1				1
アデノ 2	5	1									1				1	2
アデノ 3	8	6														
アデノ 4		2														
アデノ 37		1			1											1
アデノ 41	2															
アデノ 53		1										1			1	2
アデノ 54	2															
アデノ 56	1															
アデノ 64	1															
単純ヘルペス 1		2														
水痘・帯状疱疹	5	10										1		1		2
E B	4	4												1		1
サイトメガロ	2	4							1	1	1					4
ヒトヘルペス 6	7	15			1				3	1				2	1	8
ヒトヘルペス 7	6	9	1						1	1						3
パルボウイルス B19	2															
A型肝炎	28	7														
E型肝炎	7	9	1		1									1	1	4
ロタ	5	21	1								1					2
ノロ	7	2														
アストロ	1															
デング	4	9														
SARS-CoV-2					9	215	29	15	140	235	195	129	264	436		1667
計	433	465	59	18	17	215	29	21	144	238	197	130	269	441		1778

### 3-5 相模原市衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	新型コロナウイルス感染症	合計
インフルエンザ AH1pdm09	13			13
インフルエンザ B	9			9
アデノ 53		2		2
SARS-CoV-2			1053	1053
計	22	2	1053	1077

### 3-5 相模原市衛生研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	2018年	2019年	2020年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm09	16	45	11	2												13
インフルエンザ AH3	26	34														
インフルエンザ B	41	17	2	6	1											9
コクサッキー A2	1															
コクサッキー A4	1															
コクサッキー A5	1	2														
コクサッキー A6	1															
コクサッキー A16		1														
麻疹		4														
風疹	15	8														
アデノ 3	2	2														
アデノ 4		2														
アデノ 53									1				1			2
アデノ 54	5	2														
アデノ 56	1															
ロタ	2															
サポ	1															
デング	1	4														
SARS-CoV-2				59	56	126	51	23	72	103	60	148	165	190		1053
計	114	121	13	67	57	126	51	24	72	103	60	149	165	190		1077

### 3-6 横須賀市健康安全科学センター（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	性器ヘルペス	新型コロナウイルス感染症	合計
インフルエンザ AH1pdm09					14						14
インフルエンザ A(亜型不明)					2						2
ノロ	2										2
SARS-CoV-2										155	155
計	2				16					155	173

### 3-6 横須賀市健康安全科学センター（月別）

年・月 検出ウイルス	2018年	2019年	2020年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm09	20	31	10	4												14
インフルエンザ AH3	49	46														
インフルエンザ A(亜型不明)		3	2													2
インフルエンザ B	24	2														
風疹	21	6														
アデノ 3	20	1														
アデノ 4	1															
ノロ	3				2											2
SARS-CoV-2				11	20	97	13			2	4	1	3	4		155
計	138	89	12	15	22	97	13			2	4	1	3	4		173

### 3-7 藤沢市保健所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	感染性胃腸炎	新型コロナウイルス感染症	合計
ノロ	10		10
SARS-CoV-2		109	109
計	10	109	119

### 3-7 藤沢市保健所（月別）

年・月 検出ウイルス	2018年	2019年	2020年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
アデノ（型未決定）		4														
A型肝炎	13	1														
ロタ		2														
ノロ		35	2	3											5	10
サポ		3														
SARS-CoV-2					23	71		2	3	2	3			5		109
リケッチア チフス																
計	13	45	2	3	23	71		2	3	2	3			5	5	119



## 4 病原細菌検出状況表（ヒト由来）

### 4-1 神奈川全県（月別）

年・月 菌種・菌型	2018年		2019年		2020年												合計	
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者		
腸管出血性大腸菌(EHEC)	302		162	1	1	6				10	14	13	23	17	5	2	91	
毒素原性大腸菌(ETEC)	22	12	8	7									1				1	
組織侵入性大腸菌(EIEC)	2																	
病原血清型大腸菌(EPEC)	28		14								2	1				1	4	
腸管凝集性大腸菌(EAggEC)	9	2	2	1						2					1		3	
他の下痢原性 E.coli	28		2		1					1	1			1			4	
チフス菌	1	1	4	4														
パラチフス A菌			4	4														
サルモネラ O4群	21	3	10	1			1				1	1			1		4	
サルモネラ O7群	12	1	6	3						1					1		2	
サルモネラ O8群	3		2															
サルモネラ O9群	5	3	6	4														
サルモネラ O3,10群	2		2	1														
サルモネラ O13群	1																	
サルモネラ 群不明	1		1															
コレラ菌 non-O1 & O139	2	2																
腸炎ビブリオ	19											2					2	
エロモナス ハイドロフィラ	2																	
エロモナス キヤピエ			1	1													1	
カンピロバクター ジェジュニ	84		41			5				2	3	7	7	7	4	2	37	
カンピロバクター コリ	12		4															
黄色ブドウ球菌	45		14				1			2	1				2		6	
A型ウエルシュ菌	20		27												6		6	
セレウス菌	9		1															
赤痢菌フレキシネル	1	1																
赤痢菌ボイド	2	1																
赤痢菌ソネ	13	11	1	1														
レンサ球菌A群	212		228	27	26	15	3	3	1	3	2	1		3			84	
レンサ球菌B群	5		9						1					1			2	
レンサ球菌C群																1	1	
レンサ球菌G群	13		17	2						2							4	
レンサ球菌 上記以外の群				1													1	
肺炎球菌	94		71	10	2		4	1		3	2	2	3	3	2		32	
エンテロкокカス フェシウム	10	1	1															
百日咳菌	1		2															
レジオネラ属菌			2							1					1		2	
レジオネラ ニューモフィラ	20		28	2	2	2	1	1		3		2	4	1	1		19	
緑膿菌	2																	
結核菌	245		209	12	8	4	4	3	3	2					2		38	
インフルエンザ菌	22		20		1	1							1				3	
クレブジエラ ニューモニエ			5															
髄膜炎菌	3		34	1														
淋菌	1		5	2														
クラミジア トラコマチス	12		12		2	1											3	
マイコプラズマ ニューモニエ	11		12	1	6												7	
クリプトкокカス	3																	
計	1300	38	967	30	57	59	25	12	9	25	33	28	36	34	28	11	357	

#### 4-2 神奈川県衛生研究所（月別）

年・月 菌種・菌型	2018年		2019年		2020年												合計	
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者
					うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数		
腸管出血性大腸菌(EHEC)	54		10									3	2		1			6
病原血清型大腸菌(EPEC)	3		1									1				1		2
腸管凝集性大腸菌(EAggEC)									2									2
他の下痢原性 E.coli	3		2		1				1	1				1				4
サルモネラ O4群	1										1							1
サルモネラ O7群															1			1
エロモナス キャビエ			1	1														1
カンピロバクター ジェジュニ	1		1		3													3
カンピロバクター コリ	1		1															
黄色ブドウ球菌	1		1															
A型ウエルシュ菌	2																	
赤痢菌ボイド	1																	
レンサ球菌A群	123		131	21	20	10		1				2	1		3		58	
レンサ球菌C群																1	1	
レンサ球菌G群									1								1	
レンサ球菌 上記以外の群				1													1	
レジオネラ属菌			2						1						1		2	
レジオネラ ニューモフィラ	7		11	2	1								2	2			7	
マイコプラズマ ニューモニエ	11		12	1	6												7	
計	208		173	26	31	10		1	5	2	6	5	3	6	2		97	

#### 4-3 横浜市衛生研究所（月別）

年・月 菌種・菌型	2018年		2019年		2020年												合計	
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者
					うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数		
腸管出血性大腸菌(EHEC)	159		126	1		6				10	11	6	16	14	1	2	66	
毒素原性大腸菌(ETEC)	20	10	8	7									1				1	
病原血清型大腸菌(EPEC)	13		11								2						2	
腸管凝集性大腸菌(EAggEC)	1	1	2	1											1		1	
チフス菌	1	1	4	4														
バラチフス A菌			4	4														
サルモネラ O4群	9	3	5	1		1											1	
サルモネラ O7群	5	1	5	3					1								1	
サルモネラ O9群	3	3	6	4														
サルモネラ O3,10群	2		1	1														
サルモネラ O13群	1																	
サルモネラ 群不明			1															
コレラ菌 non-O1 & O139	2	2																
腸炎ビブリオ	13										2						2	
エロモナス ハイドロフィラ	2																	
カンピロバクター ジェジュニ	47		39		2				2	3	7	7	7	4	2		34	
カンピロバクター コリ	7		3															
黄色ブドウ球菌	25		9			1			2	1				2			6	
A型ウエルシュ菌	11		27											6			6	
セラウス菌	1		1															
赤痢菌フレキシネル	1	1																
赤痢菌ボイド	1	1																
赤痢菌ゾンネ	8	8	1	1														
レンサ球菌A群	48		64		3	4	4	2	2	1	3						19	
レンサ球菌B群	4		9															
レンサ球菌C群	9		6															
肺炎球菌	30		23															
エンテロкокカス フェンウム	8	1	1															
百日咳菌	1		2															
レジオネラ ニューモフィラ	9		8		1		1			3			2	1			8	
緑膿菌	2																	
結核菌	152		141															
インフルエンザ菌	17		14															
クレブジエラ ニューモニエ			5															
髄膜炎菌	2		32	1														
淋菌			2	2														
クリプトкокカス	1																	
計	615	32	560	30	3	13	6	3	2	16	23	15	24	23	15	4	147	

4-4 川崎市健康安全研究所（月別）

年・月 菌種・菌型	2018年		2019年		2020年												合計												
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者											
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者							
腸管出血性大腸菌(EHEC)	76		23		1							1		4		2		2		2							12		
病原血清型大腸菌(EPEC)	5																												
腸管凝集性大腸菌(EAggEC)	7																												
他の下痢原性 E.coli	19																												
サルモネラ O4群	4																												
サルモネラ O7群	1																												
サルモネラ O8群	1																												
腸炎ビブリオ	5																												
カンピロバクター ジェジュニ	24																												
カンピロバクター コリ	2																												
黄色ブドウ球菌	15																												
A型ウエルシュ菌	7																												
セレウス菌	8																												
赤痢菌ゾンネ	3	3																											
レンサ球菌A群	24		25		3		2		1		1																		7
レンサ球菌B群	1									1																			2
レンサ球菌C群	4		11		2						1																		3
肺炎球菌	64		48		10		2			4		1		3		2		2		3		3		2		2		32	
レジオネラ ニューモフィラ	4		9						2		1																1	4	
結核菌	93		68		12		8		4		4		3		3		2									2		38	
インフルエンザ菌	5		6				1		1																	1		3	
髄膜炎菌	1		2																										
クリプトコッカス	2																												
計	375	3	192		28		13		8		9		6		4		6		6		4		7		5		5		101

4-5 相模原市衛生研究所（月別）

年・月 菌種・菌型	2018年		2019年		2020年												合計												
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者											
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者							
腸管出血性大腸菌(EHEC)	7		1											1															2
組織侵入性大腸菌(EIEC)	2																												
病原血清型大腸菌(EPEC)	2																												
他の下痢原性 E.coli	5																												
サルモネラ O8群	1																												
カンピロバクター ジェジュニ	5																												
カンピロバクター コリ	1																												
黄色ブドウ球菌	3																												
赤痢菌ゾンネ	2																												
レンサ球菌A群	17		6																										
計	45		7											1												1			2

#### 4-6 横須賀市健康安全科学センター（月別）

年・月 菌種・菌型	2018年		2019年		2020年												合計	
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者		
腸管出血性大腸菌(EHEC)	4		1										2					2
毒素原性大腸菌(ETEC)	2	2																
腸管凝集性大腸菌(EAggEC)	1	1																
サルモネラ O4群	4		4									1			1			2
サルモネラ O7群	6		1															
サルモネラ O8群			2															
サルモネラ O9群	2																	
サルモネラ 群不明	1																	
レンサ球菌A群			2															
エンテロコッカス フェンウム	2																	
淋菌	1		3															
クラミジア トロコマチス	12		12		2		1											3
計	35	3	25		2		1					1	2			1		7

#### 4-7 藤沢市保健所（月別）

年・月 菌種・菌型	2018年		2019年		2020年												合計	
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者		
腸管出血性大腸菌(EHEC)	2		1								2			1				3
病原血清型大腸菌(EPEC)	5		2															
他の下痢原性 E.coli	1																	
サルモネラ O4群	3		1															
サルモネラ O8群	1																	
サルモネラ O3,10群			1															
腸炎ピブリオ	1																	
カンピロバクター ジェジュニ	7		1															
カンピロバクター コリ	1																	
黄色ブドウ球菌	1		4															
計	22		10								2			1				3

## Ⅱ 地域における感染症発生状況の分析

### 1 ウイルス性感染症

#### (1) ウイルス検査状況（発生動向調査）

##### ア 5類感染症（定点把握疾患）

##### (ア) インフルエンザ

#### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）

神奈川県衛生研究所

昨シーズン（2019/2020 シーズン、2019 年 36 週～2020 年 35 週）の横浜市・川崎市及び相模原市を除く神奈川県域（以下、県域）におけるインフルエンザ患者報告数は、2019 年 11 週（2020 年 3/9～15）に定点あたり 1.0 人を下回った後は再び 1.0 人を超えることのないまま本シーズン（2020/2021 シーズン、2020 年 36 週～2021 年 35 週）を迎えた。本シーズンに入っても患者報告数が少ない状況は続き、4 月末の時点でインフルエンザの流行は確認されていない。また、患者報告数の少なさを反映して、感染症発生動向調査（藤沢市および茅ヶ崎市からの一般依頼を含む）、入院サーベイランスおよび集団かぜの検査依頼は無かった。

（渡邊寿美、近藤真規子、佐野貴子、稲田貴嗣、古川一郎、櫻木淳一）

## ② 横浜市

横浜市衛生研究所

横浜市感染症発生動向調査において、2020/2021 シーズン（2020年9月第37週～2021年8月第35週）のうち2021年3月第13週まで（以下、「今シーズン」）のインフルエンザ様疾患患者数は19人（定点あたり患者数最大0.02人）であり、昨シーズン同期間の27430人（定点あたり患者数最大23.8人）及び一昨シーズン同期間の44564人（定点あたり患者数最大66.9人）を大幅に下回った。「今シーズン」の定点あたり患者数はシーズンを通して流行の目安となる1.0人を超えず、インフルエンザは流行しなかった（下図）。

「今シーズン」のインフルエンザ検査は、病原体定点調査185件及び入院サーベイランス（その他依頼検査を含む）29件の計214件を調査し、インフルエンザウイルス（AH1pdm09ウイルス、A香港（H3）型ウイルス、B型ウイルス）は分離・検出されなかった。集団発生を監視するインフルエンザ施設別発生状況調査は集団発生が報告されなかったため、検査は実施されなかった。

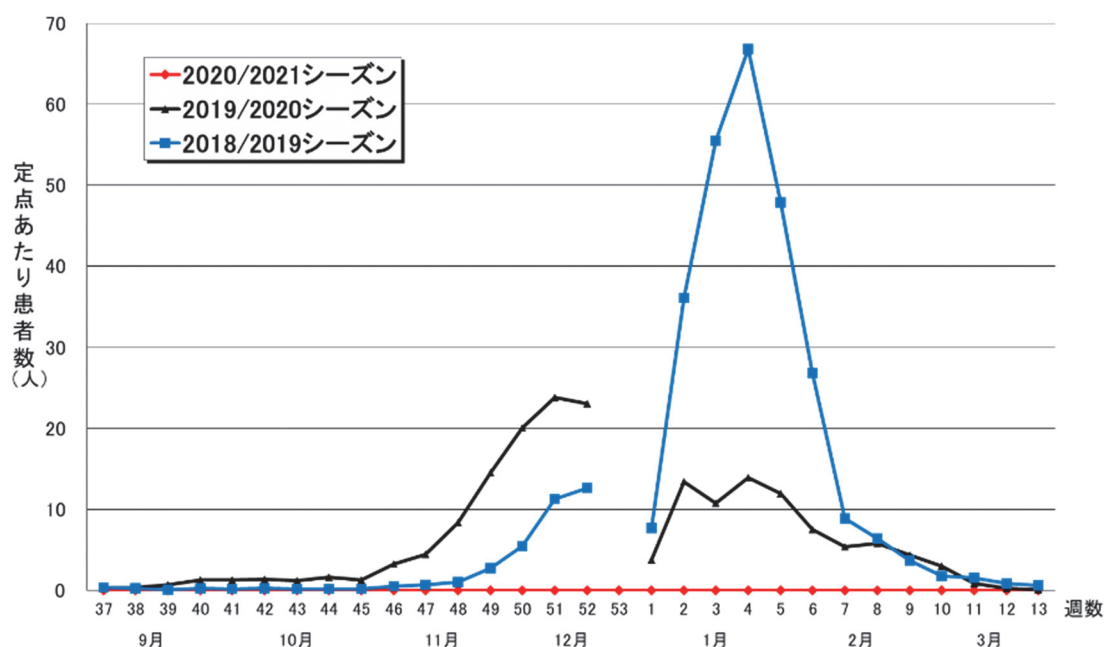


図 横浜市におけるインフルエンザ定点あたり患者数

（清水耕平、小澤広規、川上千春）

### ③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

本市の感染症発生動向調査におけるインフルエンザ様患者の発生状況（図）によると、患者数が流行時期になっても増加せず、患者がみられたのは10月の第3週（42週）、1月の第2週（2週）・3週（3週）、2月の第1週（5週）、3月の第3週（11週）のみで、定点あたりの患者数は0.02から0.03で低調に推移した。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で、川崎市においてはインフルエンザの流行はなかったと言える。

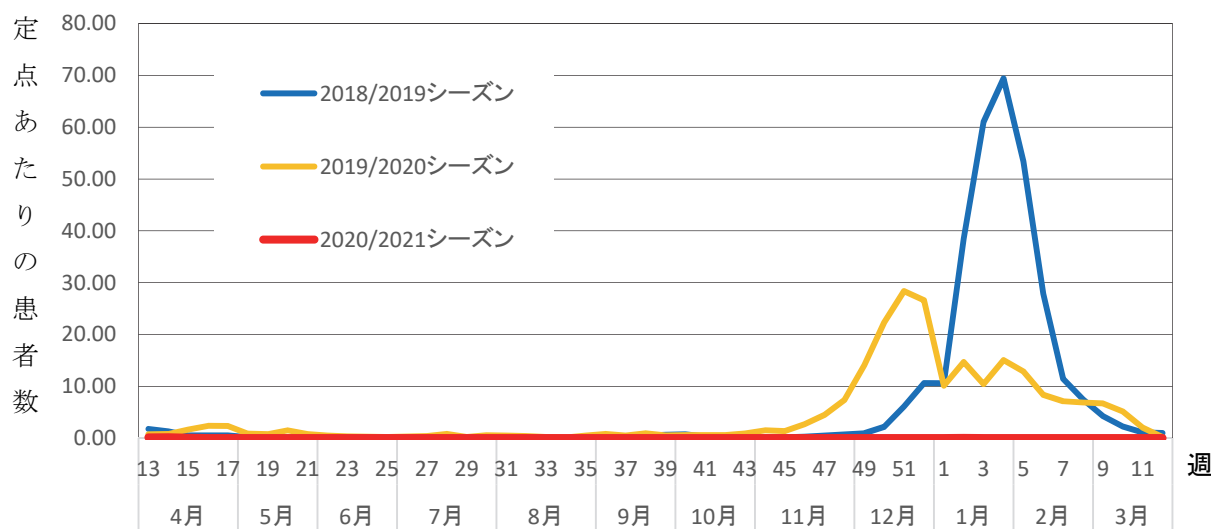


図 川崎市の週別インフルエンザ患者報告数の推移

なお、2020/2021 シーズンは、インフルエンザウイルスの流行が抑えられた影響もあるが、当研究所への検体搬入はなかった。

(駒根綾子、清水英明)

④ 相模原市

相模原市衛生研究所

今シーズン（2020/2021シーズン、2020年36週～2021年35週）は、流行開始の目安となる定点あたり1.0人を超えることなく、52週の定点あたり0.06人が最も高かった。なお、定点医療機関から検体の搬入はなく、型別等の詳細については不明である。

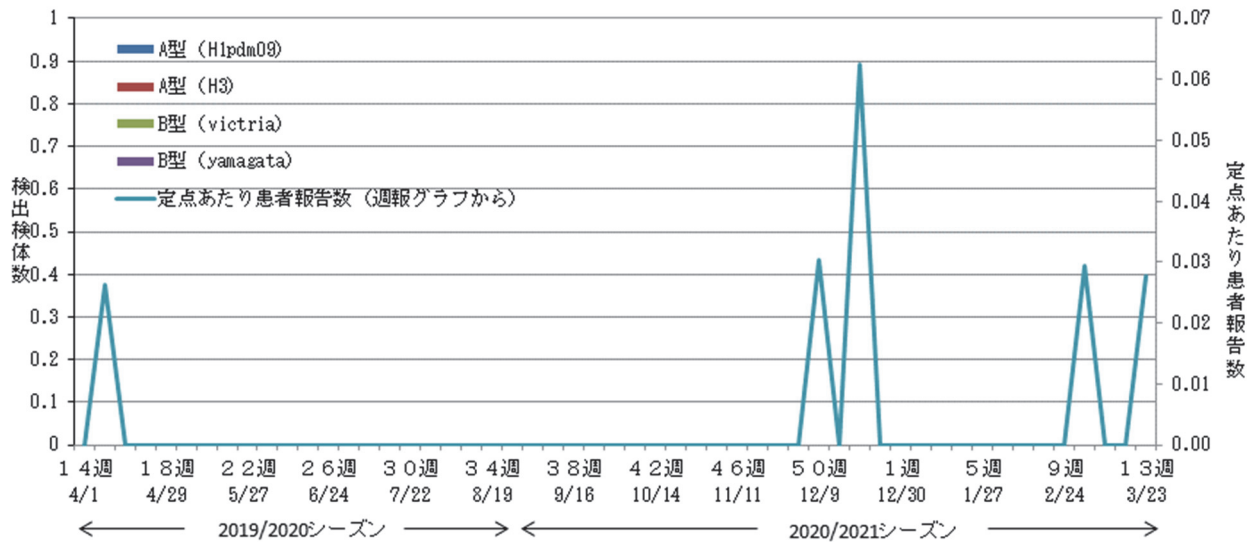


図 相模原市のインフルエンザウイルス検出状況

(吉川聡一、井村香織、金沢聡子)



## (イ) ウイルス性感染性胃腸炎

### a 感染性胃腸炎患者からの原因ウイルス検査状況

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く） 神奈川県衛生研究所

感染症予測監視事業の一環として、感染性胃腸炎の原因ウイルスを把握する目的で、神奈川県域（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の各小児科定点医療機関から得られた感染性胃腸炎患者の検体 24 例について原因ウイルスの検索を行った。検索対象ウイルスは、ノロウイルス、サポウイルス、アストロウイルス、A群ロタウイルス、アデノウイルスおよびC群ロタウイルスとした。24 検体中 9 検体からノロウイルスが検出され、例年、サポウイルス、アストロウイルス等の検出もあるが、本年はノロウイルス以外のウイルスは検出されなかった。ノロウイルスの検出時期は1月3件、2月4件、4月及び12月に1件、Genotype はG II 8 検体、G I 1 検体であった。

（鈴木理恵子、高橋淳子、日紫喜隆行、櫻木淳一）

### b 集団感染性胃腸炎事例からの原因ウイルス検査状況

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く） 神奈川県衛生研究所

神奈川県（横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く）ではウイルスを原因とする感染性胃腸炎の集団発生が2事例あり、ノロウイルスG IIが検出された。ノロウイルス以外の集団発生は2009年にC群ロタウイルス、2010年にA群ロタウイルス（G 1）、2011年にはA群ロタウイルス（G 3）による集団事例があったが、2020年はノロウイルス以外の下痢症ウイルスを原因とした事例の発生はなかった。

表 神奈川県のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

No.	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス
1	2020.12	福祉施設	不明	5	3	ノロウイルス G II
2	2020.12	保育園	不明	6	5	ノロウイルス G II

（鈴木理恵子、高橋淳子、日紫喜隆行、櫻木淳一）

## ② 横浜市

横浜市衛生研究所

横浜市内で発生した感染症としてのウイルス性集団胃腸炎の取扱事例数は 29 事例であった。ノロウイルスが 28 事例から検出され、その遺伝子群は GII が 23 事例、GI が 5 事例であった。その他にサポウイルスが 1 事例あった。

表 横浜市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

No.	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	2020.1	保育園	11	3	3	ノロウイルス	GII
2	2020.1	高齢者施設	15	3	3	ノロウイルス	GII
3	2020.1	保育園	13	4	4	ノロウイルス	GII
4	2020.1	保育園	16	2	1	サポウイルス	
5	2020.1	保育園	11	3	2	ノロウイルス	GII
6	2020.1	小学校	16	2	2	ノロウイルス	GI
7	2020.1	保育園	18	2	2	ノロウイルス	GII
8	2020.1	小学校	9	3	3	ノロウイルス	GII
9	2020.1	保育園	22	3	2	ノロウイルス	GII
10	2020.1	高齢者施設	19	3	3	ノロウイルス	GII
11	2020.1	保育園	16	3	3	ノロウイルス	GII
12	2020.1	高齢者施設	21	3	2	ノロウイルス	GII
13	2020.1	小学校	不明	1	1	ノロウイルス	GI
14	2020.2	小学校	12	2	2	ノロウイルス	GII
15	2020.2	保育園	14	3	1	ノロウイルス	GII
16	2020.2	小学校	18	3	2	ノロウイルス	GII
17	2020.2	高齢者施設	7	2	2	ノロウイルス	GII
18	2020.2	小学校	9	2	1	ノロウイルス	GII
19	2020.2	小学校	17	3	3	ノロウイルス	GII
20	2020.2	保育園	10	2	2	ノロウイルス	GII
21	2020.2	小学校	10	3	3	ノロウイルス	GI
22	2020.2	保育園	26	4	4	ノロウイルス	GII
23	2020.3	小学校	26	3	3	ノロウイルス	GI
24	2020.3	保育園	25	2	2	ノロウイルス	GII
25	2020.3	保育園	17	3	3	ノロウイルス	GII
26	2020.4	幼稚園	不明	3	3	ノロウイルス	GI
27	2020.4	保育園	24	3	2	ノロウイルス	GII
28	2020.9	高齢者施設	13	3	3	ノロウイルス	GII
29	2020.12	保育園	21	4	4	ノロウイルス	GII

80 71

(熊崎真琴、宇宿秀三)

③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

川崎市ではウイルスを原因とする感染性胃腸炎の集団発生がなかった。

(若菜愛澄、清水英明)

④ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

横須賀市ではウイルスを原因とする感染性胃腸炎の集団発生が1事例確認された。この事例から検出されたノロウイルス2件の遺伝子群はGⅡであった。

表 横須賀市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

No.	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群/遺伝子型
1	2020.3	小学校	不明	3	2	ノロウイルス	GⅡ

(竹内 恵美)

⑤ 藤沢市

藤沢市保健所

藤沢市ではウイルスを原因とする集団胃腸炎が3事例確認され、すべてノロウイルスによるものであった。

表 藤沢市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

No.	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群/遺伝子型
1	2020.1	高齢者福祉施設	26	2	2	ノロウイルス	GⅡ.4
2	2020.2	高齢者福祉施設	17	4	3	ノロウイルス	GⅡ.4
3	2020.12	保育園	42	10	5	ノロウイルス	GⅡ.4

(平井有紀、松葉友美、水上稚子、佐藤健)

## (ウ) 手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、流行性耳下腺炎、無菌性髄膜炎、 流行性角結膜炎

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）

神奈川県衛生研究所

### <手足口病>

病原体定点医療機関で採取された手足口病患者検体 8 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、3 例からコクサッキーウイルス（CV）CV-A16 型が検出された。

### <ヘルパンギーナ>

病原体定点医療機関で採取されたヘルパンギーナ患者検体 1 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、CV-A2 型が検出された。

### <咽頭結膜熱>

病原体定点医療機関で採取された咽頭結膜熱患者検体 13 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、10 例から 10 株のウイルスが検出された。その内訳は、ヒトアデノウイルス（HAdV）1 型 1 株、HAdV-2 型 1 株、HAdV-3 型 6 株、HAdV-4 型 1 株、HAdV-5 型 1 株であった。

（稲田貴嗣、佐野貴子、渡邊寿美、近藤真規子、櫻木淳一）

### <流行性耳下腺炎>

病原体定点医療機関で採取された流行性耳下腺炎患者検体 1 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、ムンプスウイルスは検出されなかった。

### <無菌性髄膜炎>

病原体定点医療機関あるいは医療機関より保健所に届け出があった無菌性髄膜炎患者 9 症例 28 検体についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、4 症例 7 検体から 8 株のウイルスが検出された。その内訳は、1 例目は咽頭ぬぐい液からサイトメガロウイルス（CMV）とヒトヘルペスウイルス（HHV）7、便と尿から HHV-7、2 例目は血清から HHV-6、3 例目は咽頭ぬぐい液からヒトライノウイルス（HRV）、4 例目は髄液と咽頭ぬぐい液から水痘帯状疱疹ウイルス（VZV）であった。

表 無菌性髄膜炎患者からのウイルス検出結果

No.	採取月	検体名	結果
1	1月	髄液	陰性
		咽頭ぬぐい液	CMV HHV-7
		便	HHV-7
		尿	HHV-7
2	6月	髄液	陰性
		血清	HHV-6
3	9月	咽頭ぬぐい液	HRV
		便	陰性
		血清	陰性
4	11月	髄液	VZV
		咽頭ぬぐい液	VZV
		便	陰性

(佐野貴子、稲田貴嗣、渡邊寿美、近藤真規子、櫻木淳一)

② 川崎市

川崎市健康安全研究所

<手足口病>

病原体定点医療機関で採取された手足口病患者 1 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、ライノウイルスが検出された。

<ヘルパンギーナ>

病原体定点医療機関においてヘルパンギーナの患者検体は搬入されなかった。

<咽頭結膜熱>

病原体定点医療機関で採取された咽頭結膜熱患者検体 3 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、HAdV-1 型 1 株、HAdV-2 型 2 株が検出された。

<流行性角結膜炎>

病原体定点医療機関で採取された流行性角結膜炎患者検体 4 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、HAdV-37 型 1 株、HAdV-53 型 2 株が検出された。

(駒根綾子、清水英明)

③ 相模原市

相模原市衛生研究所

<流行性角結膜炎>

病原体定点医療機関で採取された流行性角結膜炎患者検体 2 例について、遺伝子検査を実施したところ、2 例すべてからウイルスが検出された。その内訳は、HAdV-53 型が 2 株であった。

(吉川聡一、木内郁代、井村香織、金沢聡子)

## イ 4類感染症（全数把握疾患）

### （ア）蚊媒介感染症

#### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）

神奈川県衛生研究所

##### < Dengue Virus >

神奈川県域では、デング熱、ジカ熱、チクングニア熱疑い症例について、ウイルス遺伝子検査、デングウイルス NS1 抗原検査および抗体検査等を実施している。2020 年に当所に搬入されたのは、チクングニア熱疑い症例 1 例（海外渡航歴 有）であった。チクングニアウイルスは検出されず、デングウイルス、ジカウイルス遺伝子検査も実施したが、遺伝子は検出されなかった。

（日紫喜隆行、鈴木理恵子、高橋淳子、櫻木淳一）

#### ② 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

##### < Dengue Virus >

横須賀市では、ハイチへの渡航歴があるジカ熱、チクングニア熱、デング熱疑いの患者 1 例に対し、デングウイルス、ジカウイルス、チクングニアウイルス、ウエストナイルウイルスの遺伝子検査及びデングウイルス NS1 抗原 IgG/IgM 抗体検査を行ったがいずれも陰性だった。

（天野肇、竹内恵美、長澤由美子）

## ウ 5類感染症（全数把握疾患）

### （ア） 麻しん・風しん

#### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）

神奈川県衛生研究所

神奈川県域では麻しん・風しん特定感染症予防指針に基づき、麻しん及び風しん疑い例報告について遺伝子検査を実施している。

2020年は、麻しん疑い症例12例、風しん疑い症例4例（計48検体）について麻疹及び風疹ウイルス遺伝子の検査を実施したところ、1例から風疹ウイルスが検出された。

風疹ウイルス NS 遺伝子領域（736bp）について系統樹解析を行ったところ、遺伝子型は1E型であった。風疹ウイルスは、2018年6月末に東京都での検出報告を発端に、首都圏を中心に1E型による流行が起こったが、2020年1月以降、神奈川県域では検出されていない。

（鈴木理恵子、高橋淳子、日紫喜隆行、櫻木淳一）

#### ② 横浜市

横浜市衛生研究所

##### <麻しん>

2020年に横浜市内の医療機関にて探知され届出又は相談のあった麻しん疑い症例8例について麻疹ウイルス遺伝子の検査を実施し、1例から麻疹ウイルスが検出された。

また、風しん疑い症例で風疹ウイルス遺伝子が検出されなかった11例について、麻疹ウイルス遺伝子検査を行ったが麻疹ウイルスは検出されなかった。

これらのうち、麻疹ウイルス陽性であった1例について遺伝子解析を実施した結果、A型（ワクチン株）であった。A型検出例は発病7日前に麻しんワクチンの接種歴があった。

##### <風しん>

2020年に横浜市内の医療機関にて探知され届出又は相談のあった風しん疑い症例14例について風疹ウイルス遺伝子の検査を実施したところ、3例から風疹ウイルスが検出された。

また、麻しん疑い症例で麻疹ウイルス遺伝子が検出されなかった7例について、風疹ウイルス遺伝子検査を行ったが風疹ウイルス検出されなかった。

これらのうち、風疹ウイルス陽性1例について遺伝子解析を実施した結果、1a型（ワクチン株）であった。1a型検出例は発病9日前に風しんワクチンの接種歴があった。

（宇宿秀三、清水耕平、小澤広規、七種美和子）

#### ③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

2020年に川崎市内の医療機関において診断された麻しん疑い例9例、風しん疑い例8例、麻しん+風しん疑い例1例について麻疹ウイルスならびに風疹ウイルスの遺伝子検査を実施したところ、麻疹ウイルスは検出されず、風疹ウイルスは1E型が1例検出された。

（駒根綾子、清水英明）

④ 相模原市

相模原市衛生研究所

2020年に相模原市内の医療機関において麻疹疑い症例5例、風しん疑い症例1例、麻疹及び風しん疑い症例1例について麻疹ウイルス並びに風疹ウイルス遺伝子検査を実施した。その結果、麻疹ウイルス及び風疹ウイルスともに検出される事例は認められなかった。

(吉川聡一、井村香織、金沢聡子)

⑤ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

2020年に横須賀市内の医療機関において風しんと臨床診断された1例について、麻疹ウイルス及び風疹ウイルスの遺伝子検査を実施した。結果は麻疹ウイルス風疹ウイルスともに陰性であった。

(天野肇、竹内恵美、長澤由美子)



(イ) 急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）

神奈川県衛生研究所

病原体定点医療機関あるいは医療機関より保健所に届け出があった急性脳炎患者 6 症例 26 検体についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、4 症例 5 検体からウイルスが検出された。その内訳は、1 例目は髄液からヒトヘルペスウイルス（HHV）6、咽頭ぬぐい液から HHV-7、2 例目は髄液からムンプスウイルス（MuV、ワクチン鳥居株）、3 例目は咽頭ぬぐい液から HHV-7、4 例目は尿から HHV-6 であった。

表 急性脳炎患者からのウイルス検出結果

No.	採取月	検体名	結果
1	5月	髄液	HHV-6
		咽頭ぬぐい液	HHV-7
		血清	陰性
2	9月	髄液	MuV（鳥居株）
		咽頭ぬぐい液	陰性
		便	陰性
		尿	陰性
		血清	陰性
3	10月	髄液	陰性
		咽頭ぬぐい液	HHV-7
		便	陰性
4	12月	髄液	陰性
		咽頭ぬぐい液	陰性
		便	陰性
		尿	HHV-6
		血漿	陰性

（佐野貴子、稲田貴嗣、渡邊寿美、近藤真規子、櫻木淳一）

## (ウ) HIV/エイズ

### a 神奈川県におけるHIV/エイズの概要

医療危機対策本部室

2020年の神奈川県における新規登録HIV感染者・エイズ患者数は、総数で65人であった(表1)。

表1 新規登録HIV感染者・エイズ患者の性別年次推移(神奈川県)(人)

		2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
男性	総数	69	75	92	115	94	81	72	74	71	69	58
	感染者	49	51	60	87	67	50	48	52	48	41	27
	患者	20	24	32	28	27	31	24	22	23	28	31
女性	総数	8	8	8	4	3	6	10	8	4	2	7
	感染者	6	7	6	2	1	4	8	5	2	2	6
	患者	2	1	2	2	2	2	2	3	2	0	1
合計	総数	77	83	100	119	97	87	82	82	75	71	65
	感染者	55	58	66	89	68	54	56	57	50	43	33
	患者	22	25	34	30	29	33	26	25	25	28	32

2020年のHIV検査実施件数は、4,254件であった(表2)。

表2 HIV検査実施件数年次推移(件)

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
県域	2,585	2,409	2,208	1,983	1,818	1,588	1,364	1,237	1,301	1,618	933
横浜市	4,031	4,169	4,057	4,312	4,360	3,354	2,888	2,977	2,863	2,870	1,483
川崎市	1,831	1,789	1,753	1,710	1,972	1,758	1,520	1,589	1,948	2,114	1,409
相模原市	486	491	499	538	522	480	471	525	506	526	85
横須賀市	340	262	262	227	260	202	201	174	201	230	69
藤沢市	383	436	430	447	460	364	339	359	458	514	250
茅ヶ崎市	-	-	-	-	-	-	-	50	56	65	25
合計	9,656	9,556	9,209	9,217	9,392	7,746	6,783	6,911	7,327	7,937	4,254

\*自治体が実施する保健所以外の検査を含みます。

## b HIV 検査の実施状況

### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市・藤沢市及び茅ヶ崎市を除く）

神奈川県衛生研究所

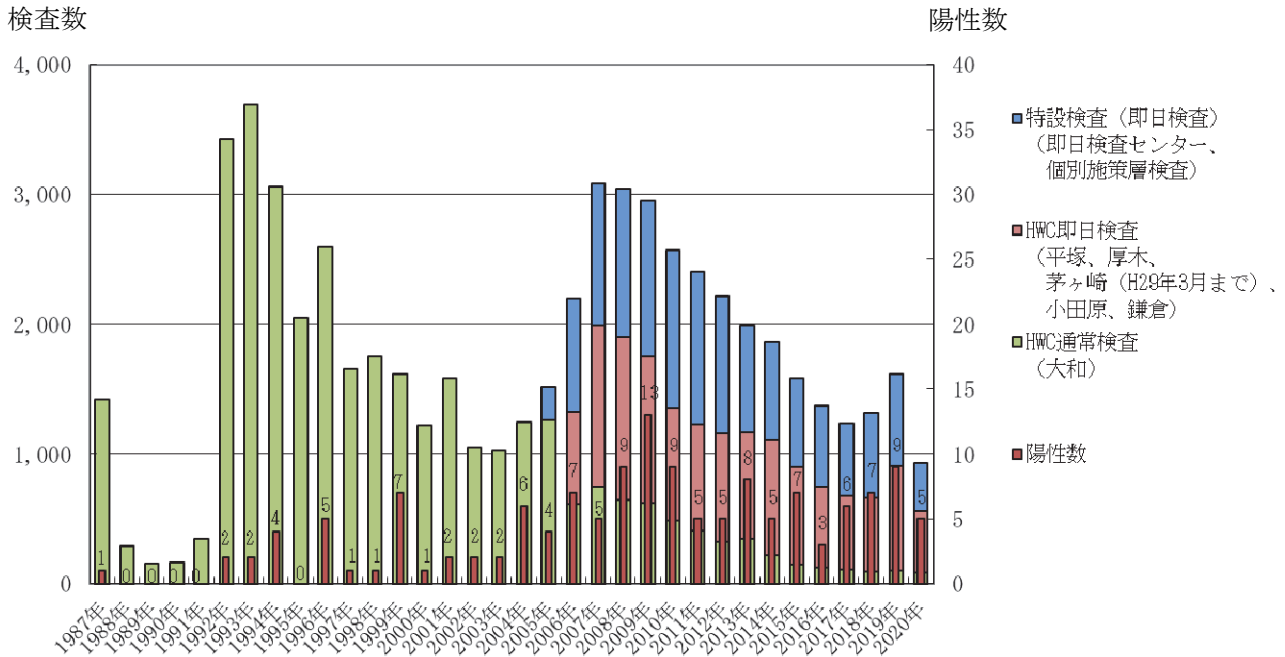
神奈川県（横浜市・川崎市・横須賀市を除く）では、1987年2月より保健所においてHIV抗体検査の受付が開始され、当所で検査を担当している。1993年4月からはHIV抗体検査が無料化され、同年8月からはHIV-1抗体検査に加え、HIV-2抗体検査も実施可能となった。2000年4月には相模原市、2006年4月には藤沢市、2017年には茅ヶ崎市が保健所設置市となり、各市にHIV検査が移管された。

県域の保健福祉事務所（以下、HWC）では、2006年4月から平塚HWC、6月から厚木、茅ヶ崎及び小田原HWC、2014年4月からは鎌倉HWCにおいてHIV即日検査が開始された。2019年度のHWCでのHIV検査体制は、平塚、鎌倉、小田原および厚木HWCで即日検査（以下、HWC即日検査）、厚木HWC大和センターで通常検査（以下、HWC通常検査）となっている。HIV検査と同時に受検可能な性感染症検査としては、2014年4月から厚木HWC大和センターで通常検査による梅毒抗体検査、2018年3月からは平塚、鎌倉及び小田原HWC、4月からは厚木HWCで即日検査による梅毒抗体検査が開始された。HWC以外の特設検査（以下、特設検査）では、2005年8月からHIV即日検査施設として横浜YMCA（厚木）に日曜検査会場である「神奈川県即日検査センター」が開設された。また、2014年からは個別施策層の男性同性間性的接触者（以下、MSM）と日本語に不慣れな受検者に配慮した対象者限定の即日検査会がかながわ県民センターで隔月日曜日に実施されている。

HIV検査数は、検査が無料化された直後の1993年をピークに年々減少傾向を示したが、全国的に即日検査の導入が始まった2004年以降、当県でも検査数が増加し始め、2005年の即日検査センターの設置、2006年のHWCへの即日検査の導入により、検査数が急激に増加した（図）。2007年に検査数が3,080件とピークを迎え、その後2017年まで減少が続いたが、2018年に全HWCで梅毒抗体検査が開始されたことから検査数が増加に転じた。しかしながら、2020年は新型コロナウイルス感染症流行による緊急事態宣言発令や特設検査の休止等により検査数が931件となり、1992年以降で最小となった。2020年の検査種類別による検査数は、HWC即日検査475件、HWC通常検査83件、特設検査373件であり、前年と比較して、HWC即日検査は41%減、HWC通常検査は16%減、特設検査は47%減で、全体としては42%の減少となった（表）。

2020年のHIV陽性数は5例（陽性率0.5%）で、その内訳はHWC即日検査で1例（0.2%）、HWC通常検査で1例（1.2%）、特設検査で3例（0.8%）であった。5例の性別はすべて男性で、国籍は日本国籍が4名、外国籍が1名であった。陽性例はすべてHIV-1であり、遺伝子型別は、サブタイプBが3例（日本国籍3例）、CRF01\_AEが2例（日本国籍1例、外国籍1例）であった。サブタイプBは1980年代中頃に欧米から日本に流入後、非加熱血液製剤による感染例や男性同性間の性的接触等による感染で拡大し、国内での主流株となっている。CRF01\_AEは1980年代中頃にタイで感染爆発が起こり、その後東南アジアに拡がり、日本では1990年代始めから異性間の性的接触で流行が確認された。

新型コロナウイルス感染症の流行が続いている中、検査数のさらなる減少が危惧されるが、陽性率は前年と同程度で推移していることから、潜在的なHIV感染者は減少していないことが想定される。検査希望者が検査を受けられる体制を維持すること、また、男性同性間性的接触者および外国籍者等の個別施策層への検査普及啓発活動を積極的に行う必要があると考える。



- \* 相模原市は平成12年4月、藤沢市は平成18年4月、茅ヶ崎市は平成29年4月から保健所設置市となった。
- \* 津久井HWCの業務は平成19年3月に相模原市へ移譲した。
- \* 即日検査センターは平成17年8月、平塚HWCは平成18年4月、小田原HWC、茅ヶ崎HWC及び小田原HWCは平成18年6月、鎌倉HWCは平成26年4月から即日検査を開始した。
- \* 対象者限定の即日検査会（個別施策層検査）を平成26年から開始した。

図 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市・藤沢市及び茅ヶ崎市を除く）でのHIV検査数、陽性数の年次推移（1987-2020年）

表 HIV検査種類別による検査数及び陽性数（2006-2020年）

	HWC即日検査*			HWC通常検査**			特設検査（即日検査） （即日検査センターおよび個別施策層検査）			合計		
	検査数	陽性数	陽性率（%）	検査数	陽性数	陽性率（%）	検査数	陽性数	陽性率（%）	検査数	陽性数	陽性率（%）
2006年	712	2	0.3%	615	1	0.2%	874	4	0.5%	2,201	7	0.3%
2007年	1,237	2	0.2%	750	1	0.1%	1,093	2	0.2%	3,080	5	0.2%
2008年	1,258	2	0.2%	643	3	0.5%	1,146	4	0.3%	3,047	9	0.3%
2009年	1,132	2	0.2%	621	5	0.8%	1,198	6	0.5%	2,951	13	0.4%
2010年	872	4	0.5%	484	0	0.0%	1,216	5	0.4%	2,572	9	0.3%
2011年	824	2	0.2%	405	1	0.2%	1,176	2	0.2%	2,405	5	0.2%
2012年	838	3	0.4%	323	0	0.0%	1,051	2	0.2%	2,212	5	0.2%
2013年	817	2	0.2%	347	0	0.0%	819	6	0.7%	1,983	8	0.4%
2014年	897	0	0.0%	216	0	0.0%	748	5	0.7%	1,816	5	0.3%
2015年	752	1	0.1%	144	2	1.4%	691	4	0.6%	1,587	7	0.4%
2016年	625	0	0.0%	121	0	0.0%	627	3	0.5%	1,373	3	0.2%
2017年	568	0	0.0%	105	3	2.9%	563	3	0.5%	1,236	6	0.5%
2018年	569	1	0.2%	95	1	1.1%	652	5	0.8%	1,316	7	0.5%
2019年	809	2	0.2%	99	0	0.0%	708	7	1.0%	1,616	9	0.6%
2020年	475	1	0.2%	83	1	1.2%	373	3	0.8%	931	5	0.5%

\* 平成18年4月から平塚HWC、平成18年6月から小田原HWC、茅ヶ崎HWC及び厚木HWC、平成26年4月から鎌倉HWCで即日検査を実施、平成29年4月から茅ヶ崎HWCは茅ヶ崎市に移管。

\*\* 平成26年3月まで鎌倉HWC、三崎HWC、秦野HWC、大和HWC、足柄上HWC、平成26年4月から大和センターのみ

（佐野貴子、近藤真規子、稲田貴嗣、渡邊寿美、鈴木理恵子、櫻木淳一）

② 相模原市

相模原市衛生研究所

原則毎週火曜日及び隔週で土曜日に通常検査を実施し、6月、9月、12月及び2月の計4回、即日検査を実施する予定であったが、2020年は新型コロナウイルスの影響により、4月以降の事業が中止となった。

検査は第四世代試薬（IC法）を使用して行い、本法で陽性が疑われた検体については第四世代試薬で追加試験を行いウエスタンブロット、NAT検査にて確認検査を行った。

2020年の検査数は、通常検査が76件、即日検査が9件の合計85件実施し、陽性が0件（陽性率が0.0%）であった。

表 HIV検査種別による検査数、陽性数（2018-2020年）

	通常検査				即日検査			
	検査数	判定保留	陽性数	陽性率 (%)	検査数	判定保留	陽性数	陽性率 (%)
2018年	472	0	2	0.4%	34	0	0	0.0%
2019年	458	0	1	0.2%	51	0	0	0.0%
2020年	76	0	0	0.0%	9	0	0	0.0%
合計	1,006	0	3	0.3%	94	0	0	0.0%

（吉川聡一、井村香織、金沢聡子）

③ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

通常検査について、1月から3月は例年通りの対応であったが、4月から9月は1回あたりの検査数を減らしての対応となった。また10月以降は通常検査が休止となった。即日検査は12月の平日に1回実施したが予約人数を抑えた。検査は1次検査でイムノクロマト法により陽性が疑われた検体について、追加検査を行い陽性であった検体については2次検査でウエスタンブロット法等により確認検査を行った。

2020年の検査数は69件で、内訳は通常検査が66件、即日検査が3件であり、結果は陽性が0件（陽性率0.0%）であった。

表 横須賀市のHIV検査数

	検査数	陽性数	陽性率
通常検査	66	0	0.0%
平日即日検査	3	0	0.0%
合計	69	0	0.0%

（竹内恵美）

#### ④ 藤沢市

藤沢市保健所

月 1 回から 4 回、木曜日の午前中に即日検査を実施した。平日夜間即日検査および休日即日検査については、新型コロナウイルス感染症の流行により行うことができなかった。

検査は血中抗 HIV-1 抗体、抗 HIV-2 抗体および HIV-1p24 抗原を検出する免疫クロマト法で行った。本法で陽性または判定が困難であった検体については結果を判定保留とし、神奈川県衛生研究所に当該検体の精密検査を依頼した。

2020 年の検査数は 250 件で、判定保留は 3 件あり、県衛生研究所の精密検査において 2 件が陽性と判定された。

(平井有紀、松葉友美、水上稚子、佐藤健)

## エ 新型インフルエンザ等感染症

### (ア) 新型コロナウイルス感染症

#### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）

神奈川県衛生研究所

新型コロナウイルスは、2019年12月以降、中華人民共和国湖北省武漢市において発生した原因不明の肺炎患者から検出された新種のコロナウイルスである。2020年1月中旬には、武漢への渡航歴のある神奈川県在住者から、新型コロナウイルスが検出され、日本国内での第1例目として報告された。

神奈川県域では、1月にはRT-PCR法、2月からはリアルタイムPCR法による新型コロナウイルスの検査体制を整え、新型コロナウイルスの患者発生時の検査対応を行っている。2020年は、保健福祉事務所及び検疫所等から依頼を受け、新型コロナウイルス疑似症患者、患者濃厚接触者、院内感染、陰性確認等の計7555検体について、新型コロナウイルス遺伝子検査を実施し、680検体から新型コロナウイルス遺伝子が検出された。

表 神奈川県域（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）  
の新型コロナウイルス感染症疑い例のPCR検査状況-2020年-

月	検体数	検出数
1月	2	0
2月	503	120
3月	1,018	115
4月	1,283	169
5月	717	86
6月	323	12
7月	721	16
8月	1,192	38
9月	550	33
10月	349	33
11月	190	7
12月	707	51
計	7,555	680

（鈴木理恵子、古川一郎、佐野貴子、日紫喜隆行、近藤真規子、高橋淳子、渡邊寿美、稲田貴嗣、政岡智佳、中嶋直樹、櫻木淳一）

② 横浜市

横浜市衛生研究所

2019年12月に中華人民共和国湖北省武漢市で流行が確認された後、2020年1月30日に世界保健機関（WHO）は、新型コロナウイルス感染症について、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」を宣言した。当所においても1月23日厚生労働省の通知「新型コロナウイルスに関する検査対応について」を受けてPCR検査系を立ち上げ、1月30日にコンベンショナルRT-PCRを、2月1日にリアルタイムRT-PCR検査を開始した。

2020年は9,877例の10,321件について検査を実施し、2,128例2,202件からSARS-CoV-2が検出された。月別の検査数を表に示す。

表 横浜市衛生研究所で実施した新型コロナウイルス感染症のPCR検査結果

2020年	検査 症例数	検査 検体数	陽性 症例数	陽性 検体数
1月	1	1	0	0
2月	242	310	89	108
3月	511	679	99	120
4月	1,176	1,309	472	501
5月	770	816	176	179
6月	353	373	44	45
7月	1,221	1,228	124	125
8月	1,312	1,313	223	223
9月	1,094	1,094	210	210
10月	818	819	179	179
11月	1,168	1,168	239	239
12月	1,211	1,211	273	273
総計	9,877	10,321	2,128	2,202

(宇宿秀三、小澤広規、川上千春、田中伸子)



### ③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

当研究所で検査を開始したのは2月12日からで、横浜港に着岸したクルーズ船ダイヤモンドプリンセス号の新型コロナウイルス検査を依頼され、その対応を行ったものであった。川崎市内で陽性患者がみられたのは3月になってからで、市外陽性患者と接触あるいは海外渡航で感染した者に限られていた。4月に入り市中感染が広がると共に、検査依頼数は増加し、緊急事態宣言等で6月は検査数がいったん減少したものの、その後は増加に転じ、12月冬季に検体数は大幅に増加した。2020年は、計22,476検体の検査を実施し、うち陽性は2,074検体であった（陰性確認を含む）。

表 川崎市の新型コロナウイルス感染症のPCR検査結果

	検査数	陽性数
2月	255	55
3月	279	39
4月	1,978	283
5月	1,423	131
6月	811	28
7月	2,600	197
8月	2,967	254
9月	2,582	222
10月	2,321	147
11月	2,502	267
12月	4,758	451
総計	22,476	2,074

(佐々木国玄、駒根綾子、清水英明)

## ④ 相模原市

相模原市衛生研究所

新型コロナウイルス感染症のPCR検査は、国立感染症研究所の病原体検出マニュアルに従い、2020年2月から開始し12月までの間、検査総数は13,788検体、うち陽性総数は1,053検体であった（陰性化確認を含む）。

2月にクラスター2件を経験した後、3月下旬から5月にかけて全国的に陽性者が増加した第1波、7月から9月にかけての第2波、10月下旬から続く第3波と全国の流行曲線と同様の患者数の増減が見られた。年間を通じての陽性率は、3～11%であった。

検査対象者を分類すると2月はクラスター関連の接触者調査の影響から接触者の割合が65%を占めた。第1波、第2波（4月～7月）の期間は、患者数の増加から疑似症の割合が69%から85%となった。民間検査機関の市内検査が4月から始まり、7月には衛生研究所の検査数を超えた。その頃から市衛生研究所における疑似症の検査数は減り、12月には接触者割合が79%となった。

表1 相模原市における新型コロナウイルス感染症のPCR検査結果

	検査数	陰性	検査不可	陽性数	陽性率 (%)
2月	541	482	—	59	10.91
3月	751	695	—	56	7.46
4月	1,126	999	1	126	11.19
5月	848	797	—	51	6.01
6月	739	716	—	23	3.11
7月	1,129	1,055	2	72	6.38
8月	1,728	1,619	6	103	5.96
9月	1,429	1,369	—	60	4.20
10月	1,640	1,487	5	148	9.02
11月	1,774	1,606	3	165	9.30
12月	2,083	1,886	7	190	9.12
総計	13,788	12,711	24	1,053	

表 2 検査対象者の分類

	総計	疑似症	接触者	陰性化確認
2月	541	104	355	82
3月	751	308	348	95
4月	1,126	780	196	150
5月	848	714	20	114
6月	739	630	91	18
7月	1,129	865	230	34
8月	1,728	919	778	31
9月	1,429	609	789	31
10月	1,640	462	1,145	33
11月	1,774	469	1,260	45
12月	2,083	437	1,646	—
総計	13,788	6,297	6,858	633

(吉川聡一、矢島理志、木内郁代、井村香織、坂扶美子、金沢聡子、播磨由利子)

⑤ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

当センターは1月下旬に検査体制を整備し、2月に厚生労働省（ダイヤモンドプリンセス号）、2月～12月に保健所、医療機関等からの依頼で新型コロナウイルス検査を実施した。

ダイヤモンドプリンセス号から2月14～16日に乗客20検体ずつ、22日に乗員20検体、計80検体が搬入され検査を実施した結果、14日は3件、15日は5件、22日は2件が陽性であった。

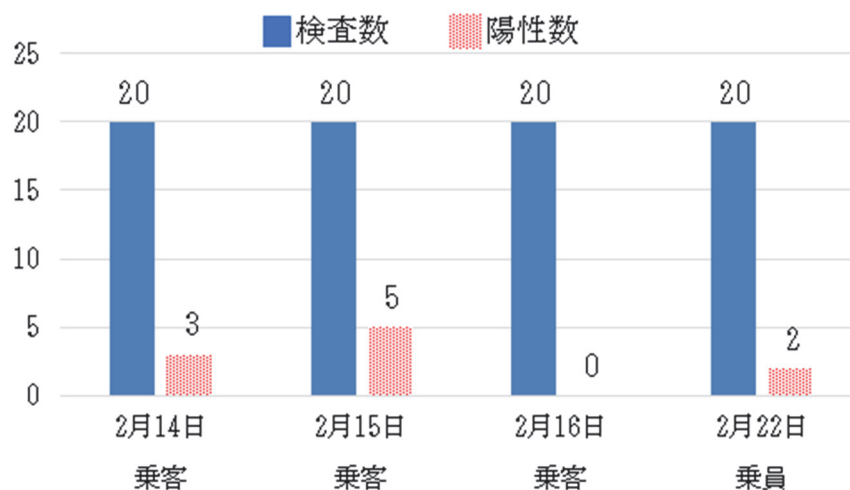


図 ダイヤモンドプリンセス号 検査結果

保健所、医療機関等からの依頼について、第一波の2～5月は検査数・陽性数共に多く、4月が最多で検査数864件、陽性数97件であった。5月から民間検査機関によるPCR検査が開始し、当センターはクラスター感染事例等の検査が主となり、6、7月の検査数は大幅に減少した。

表 横須賀市健康安全科学センターの新型コロナウイルス感染症のPCR検査結果

	検査数	陽性数
2月	149	11
3月	470	20
4月	864	97
5月	322	13
6月	22	0
7月	5	0
8月	118	2
9月	143	4
10月	123	1
11月	180	3
12月	241	4
総計	2,637	155

(天野 肇、長澤由美子)

発生当初、新型コロナウイルスのPCR検査は衛生研究所に限られていたが、2020年2月中旬、国より検査が可能な施設には陽性コントロール等を配布する旨の通知を受け、検討を行い翌3月初旬から検査を開始した。

当初は、帰国者接触者外来を設置した4病院を中心に市内の医療機関等から、疑い患者および陽性者の同居家族等の検体を回収し検査を行った。7月頃から民間検査機関における検査体制が整い、医療機関における検査は委託もしくは自前での実施が主流となった。それ以降、当保健所における検査対象は接触者が主体となり、クラスターが懸念される学校や施設での発生にかかわる集団検査が多くなった。2020年は、延べ2,372検体の検査を実施し、うち陽性は109検体であった（陰性化確認を含む）。

表 藤沢市の新型コロナウイルス感染症のPCR検査結果

	検査数	陽性数
3月	141	23
4月	394	71
5月	84	0
6月	92	2
7月	118	3
8月	52	2
9月	478	3
10月	264	0
11月	322	5
12月	427	0
総計	2,372	109

(平井有紀、松葉友美、水上稚子、佐藤健)

## (2) 感染症流行予測調査

### ア 感染源調査

#### (ア) 日本脳炎

神奈川県衛生研究所

わが国の日本脳炎患者数は、1950年代には年間数千人の発生があったが、1967年から1976年に実施された積極的なワクチン接種により患者は急速に減少し、1980年代には年間数十人となった。1992年以降は毎年10名以下の患者発生に留まり、患者発生地域は西日本に集中している。ブタは日本脳炎ウイルスに対する感受性が高く、ブタ体内で増殖したウイルスは、蚊を介してヒトや他の動物へ感染する。日本脳炎ウイルスの侵淫状況を把握し、ヒトへの感染予防の注意を促すため県内産の豚について日本脳炎ウイルスの抗体保有状況を調査した。

神奈川食肉センターに持ち込まれた生後5～8ヵ月齢の県内産の豚を対象に、2020年7月から9月までの期間に、8回、10頭ずつ、計80頭について、血中のJaGAR01株に対する抗体調査を実施した。その結果、今年度は血球凝集抑制抗体および2-メルカプトエタノール感受性抗体は検出されず、県内における日本脳炎ウイルスの活動は確認されなかった。県内では、2020年も日本脳炎患者の発生はなかった。例年、ブタの日本脳炎感染源調査では、東日本の抗体保有率は低く、西日本が高い傾向がある。また、患者発生は東日本でほとんどみられず、西日本で数例の報告があり、ブタの日本脳炎ウイルスの抗体保有状況は、日本脳炎ウイルスの侵淫状況を反映するとされており、今後も継続して調査をする必要がある。

(日紫喜隆行、鈴木理恵子、高橋淳子、櫻木淳一)

### (3) 感染症媒介蚊のサーベイランス

#### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

神奈川県では、デングウイルス等の感染症を媒介する蚊の生息状況調査を10カ所の公園で毎年6月から10月まで、各公園内に2カ所ずつCO<sub>2</sub>トラップを24時間設置し蚊を採取していたが、2020年はSARS-CoV-2の流行拡大により本事業は中止となった。

（鈴木理恵子、日紫喜隆行、高橋淳子、櫻木淳一）

#### ② 横浜市

横浜市衛生研究所

デングウイルス、ジカウイルス、日本脳炎ウイルス、ウエストナイルウイルスなどを含むフラビウイルス属や、チクングニアウイルス等による感染症を媒介する蚊の2020年度サーベイランス事業は、新型コロナウイルス感染症の流行対応のため、規模を縮小して実施した。

蚊の捕集は、2021年開催予定の東京オリンピック・パラリンピックにおける危機管理対策の一環として、開催地周辺を含めた市内8か所にライトトラップを設置、さらに、人囮法による捕集を開催地とイベントや観光客の多い公園（4か所12ポイント）で行った。ライトトラップの設置、回収、人囮法の実施、当所への搬送に関しては、主として（公社）神奈川県ペストコントロール協会（PCO）に委託した。

ライトトラップ法の捕集は、7か所で5月12日から10月13日までの期間で、二週に1回計12回、1か所で6月11日から10月13日までの期間、二週に1回計10回、人囮法は5月13日から10月14日までの期間で、二週に1回計12回実施した。捕集した蚊類の匹数は表1、表4、種別は表2、表5に示した。

ウイルス検査は、蚊雌成虫をライトトラップ法による捕集で2,526匹、人囮法でヒトスジシマカとコガタアカイエカのみ477匹、計3,003匹を種別に50匹までを上限としてプール検体を115プール作成、フラビウイルス属遺伝子について共通プライマーを使用したコンベンショナルRT-PCR、チクングニアウイルス遺伝子について特異的プライマー・プローブを使用したリアルタイムPCRを実施した。その結果、ライトトラップ法、人囮法共にすべての検体でいずれのウイルス遺伝子も不検出であった（表3、表6）。

表1 ライトトラップ法による蚊雌成虫捕集匹数（横浜市）

区名	回数 設置月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総計	
		5月	5月	6月	6月	7月	7月	8月	8月	9月	9月	9月	10月		
1	西	臨港パーク	8	13	38	109	68	86	73	123	164	151	294	123	1,250
2	中	山下公園	38	25	10	39	10	19	45	5	41	25	9	19	285
3		横浜公園	9	9	10	19	2	9	17	24	6	5	3	15	128
4		港の見える 丘公園	10	31	4	30	0	4	11	145	8	67	8	37	355
5		シンボル タワー	実施せず		29	45	11	23	14	5	26	30	16	27	226
6	港北	新横浜 駅前公園	0	6	9	34	1	0	9	22	14	17	6	9	127
7		新横浜公園 (東ゲート)	21	21	11	18	1	3	3	4	7	4	3	6	102
8		新横浜公園 (西ゲート)	5	4	2	6	0	1	0	6	10	5	3	11	53
総計			91	109	113	300	93	145	172	334	276	304	342	247	2,526

表2 蚊雌成虫の種類別匹数

回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総計
アカイエカ群	88	100	89	224	15	31	28	58	40	39	42	61	815
ヒトスジシマカ	0	4	22	60	76	99	132	267	227	244	293	183	1,607
コガタアカイエカ	0	0	0	2	2	11	7	5	5	20	6	3	61
ヤマトヤブカ	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	3
オオクロヤブカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
キンパラナガハシカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
その他（*1）	3	5	2	13	0	3	4	4	4	0	1	0	39
総計	91	109	113	300	93	145	172	334	276	304	342	247	2,526

（\*1）その他は、カラツイエカ、ハマダラナガスネカ、破損の激しいものを含む

表3 ウイルス遺伝子検査結果（\*2）

回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
フラビウイルス属	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
チクングニアウイルス	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

（\*2）アカイエカ群のジカウイルス、チクングニアウイルス遺伝子検査は実施せず



表4 人囀法による蚊雌成虫捕集匹数（横浜市）

実施公園	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総計
		設置月	5月	5月	6月	6月	7月	7月	8月	8月	9月	9月	9月	
1 中区 2 山下公園	①	1	1	1	0	4	2	2	4	8	29	7	3	62
	②	0	1	0	0	0	2	1	1	4	6	7	15	37
	③	0	4	4	10	5	17	13	4	29	22	10	18	136
4 中区 5 横浜公園	④	0	0	0	0	3	1	3	1	6	8	4	4	30
	⑤	0	0	0	3	0	0	7	0	4	3	11	4	32
	⑥	0	0	0	0	4	1	12	3	10	14	9	6	59
7 港北区 8 新横浜公園	⑦	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	1	6
	⑧	0	0	0	1	1	1	0	1	1	1	1	3	10
	⑨	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
10 中区 11 大通り公園	⑩	0	1	0	1	2	2	1	0	2	2	3	1	15
	⑪	0	0	0	3	0	3	2	1	11	8	8	11	47
	⑫	0	0	0	3	1	1	1	0	13	8	10	10	47
総計		1	7	5	21	20	30	42	15	89	105	71	76	482

表5 蚊雌成虫の種類別匹数

回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総計
アカイエカ群	0	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	4
ヒトスジシマカ	1	6	5	20	19	30	42	15	88	104	71	75	476
コガタアカイエカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
その他（*3）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
総計	1	7	5	21	20	30	42	15	89	105	71	76	482

（\*3）その他は破損の激しいもの

表6 ウイルス遺伝子検査結果（\*4）

回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
フラビウイルス属	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
チクングニアウイルス	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

（\*4）ヒトスジシマカ、コガタアカイエカのみ実施

（林 宏子、伊藤真弓、小曾根恵子、宇宿秀三、田中伸子）

③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

川崎市では毎年5月から10月まで市内7箇所の保健所支所にライトトラップを設置し、蚊の捕集と蚊媒介感染症のウイルス調査を行っているが、2020年はSARS-CoV-2の流行により本事業を行わなかった。

（駒根綾子、清水英明）

## ④ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

ウエストナイル熱等媒介蚊の調査として2020年6月より10月まで計5回実施した。設置場所は三笠公園敷地内、動物愛護センター敷地内、くりはま花の国敷地内およびソレイユの丘敷地内とし、BGセンチネルトラップを使用し蚊を捕獲、分類した後、ウエストナイルウイルス遺伝子、デングウイルス遺伝子、チクングニアウイルス遺伝子及びジカウイルス遺伝子についてRT-PCRを実施した。その結果、いずれの遺伝子も不検出であった。

表 横須賀市のウエストナイル熱等媒介蚊（雌）検査結果

採集月	6月	7月	8月	9月	10月	総計
三笠公園	37	6	36	12	5	96
動物愛護センター	16	3		11	25	55
くりはま花の国	8	2	7	2	4	23
ソレイユの丘	2	3	11	9	11	36
総計	63	14	54	34	45	210

蚊（雌）の種類	6月	7月	8月	9月	10月	総計
アカイエカ	32	1	4	1		38
コガタアカイエカ						
ヒトスジシマカ	27	12	46	31	34	150
ヤマトヤブカ		1	1		1	3
オオクロヤブカ						
キンパラナガハシカ	4		3			7
ハマダラナガスネカ						
イエカ類					1	1
ヤブカ類				2	9	11
分類不能						
総計	63	14	54	34	45	210

## ウイルス遺伝子検査結果

ウエストナイルウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
デングウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
チクングニアウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
ジカウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

(天野 肇、長澤由美子)

## ⑤ 藤沢市

藤沢市保健所

デングウイルス等媒介蚊の調査のため、2020年6月から10月まで、市内の公園等4カ所で、ヒトスジシマカ雌のウイルス保有状況を調査した。蚊の採取方法は人囮法で実施し、採取後の蚊を分類した後、デングウイルス、チクングニアウイルス及びジカウイルスの遺伝子検査を実施したが、いずれも陰性だった。

表 藤沢市のデング熱等媒介蚊検査結果

採取月	6月	7月	8月	9月	10月	総計
江の島(サムエルコッキング苑)	3	13	16	18	0	50
江の島(中津宮)	0	3	0	1	0	4
奥田公園	9	12	13	53	33	120
円行公園	3	10	5	27	0	45
総計	15	38	34	99	33	219

## ウイルス遺伝子検査結果

デングウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
チクングニアウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
ジカウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

(平井有紀、松葉友美、水上稚子、佐藤健)

## 2 細菌性感染症

### (1) 細菌性腸管系感染症検査状況

#### ア 3類感染症

##### (ア) 腸管出血性大腸菌感染症

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

2020年1月から12月までにおける腸管出血性大腸菌（Enterohemorrhagic *Escherichia coli*: EHEC）の検査状況を以下の表に示した。その血清型と毒素型は表のとおりであり、0157が18株と一番多く、026が2株、0103が2株、0111が1株、0145が2株及び0型別不能が1株の計26株であった。

表 神奈川県の腸管出血性大腸菌の血清型及び毒素型

(単位：株)

所管保健福祉事務所 センター等	血清型・毒素型							合計
	0157		026	0103	0111	0145	OUT	
	VT1&2	VT2						
平塚保健福祉事務所	3	1	1				1	6
平塚保健福祉事務所秦野センター	3	2	1					6
鎌倉保健福祉事務所		1				2		3
鎌倉保健福祉事務所三崎センター		1						1
小田原保健福祉事務所	1							1
小田原保健福祉事務所足柄上センター	2							2
厚木保健福祉事務所	1			2				3
厚木保健福祉事務所大和センター	1	2						3
茅ヶ崎市保健所					1			1
合計	11	7	2	2	1	2	1	26

(政岡智佳、小松祐子、鈴木美雪、森口真理子、古川一郎)

## ① 横浜市

横浜市衛生研究所

2020年1月から12月までに横浜市内の病院等で分離され当所に搬入された菌株及び当所で検便から分離した腸管出血性大腸菌は140株であった。その血清型と毒素型は表のとおりであり、O群別では0157が一番多く66株(47.1%)であった。次いで026が17株、0111が12株、0103が7株、それ以外の血清群が11血清群38株となり、これまでで最も0157の割合が低く50%以下となり、血清型の種類に富む年であった。

表 横浜市の腸管出血性大腸菌の血清型及び毒素型

血清型	毒素型	菌株数
0157 : H7	VT1&2	50
0157 : H7	VT2	16
026 : H11	VT1	15
026 : H-	VT1	1
026 : H-	VT2	1
0111 : H-	VT1	10
0111 : H-	VT1&2	1
0111 : H8	VT1&2	1
0103 : H2	VT1	6
0103 : H11	VT1	1
0115 : H10	VT1	6
0128 : H2	VT1&2	6
0177 : H-	VT2	6
0145 : H-	VT2	5
091 : H21	VT1&2	2
091 : H-	VT1	2
0174 : H-	VT1	2
0174 : H21	VT2	1
084 : H-	VT1	2
08 : H-	VT2	1
0113 : H-	VT1&2	1
OUT : H45	VT2	2
OUT : H-	VT2	2
計		140

(小泉充正、松本裕子、小川敦子、後藤千恵子、酒井敬介)

③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

2020年1月から12月までに川崎市内の医療機関等で分離され当所に搬入された菌株及び当所で検便から分離した腸管出血性大腸菌は39株であった。その血清型及び毒素型は表のとおりで、最も多い血清型は0157の32株(82.1%)であった。

表 川崎市の腸管出血性大腸菌の血清型及び毒素型

血清型	毒素型	菌株数
0157	VT1&2	20
0157	VT2	12
05	VT1	1
08	VT2	1
055	VT1	1
0103	VT1	2
0111	VT1	1
0145	VT2	1
計		39

(浅井威一郎、三亀美津穂、阿部光一朗、福島和弥)

④ 相模原市

相模原市衛生研究所

2020年1月から12月までに相模原市内の医療機関等で分離され当所に搬入された菌株及び当所で検便から分離した腸管出血性大腸菌は10株であった。その血清型及び毒素型は表のとおりで、最も多い血清型は0157の4株(40.0%)であった。

表 相模原市の腸管出血性大腸菌の血清型及び毒素型

血清型	毒素型	菌株数
0157 : H7	VT2	1
0157 : H7	VT1&2	3
0111 : H21	VT1	1
0103 : H2	VT1	1
0121 : H19	VT2	1
026 : H11	VT1	1
OUT : H19	VT1	1
OUT : HNM	VT2	1
計		10

(矢島理志、坂扶美子)

⑤ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

2020年1月から12月までに、医療機関等で分離され当所に搬入された菌株及び横須賀市保健所から提出された、感染症法に基づく発症者・発症者家族及び接触者の検便は44件で、分離された腸管出血性大腸菌は2株であった。その血清型及び毒素型を表に示す。

表 横須賀市の腸管出血性大腸菌の血清型及び毒素型

血清型	毒素型	菌株数
0157 : H7	VT1&2	2

(片倉孝子、宍戸みずほ、金川治義)

⑥ 藤沢市

藤沢市保健所

2020年1月から12月までに感染症法に基づく感染症病原菌検査として当所で検便から分離した腸管出血性大腸菌は3株であった。その血清型及び毒素型は表のとおりで、すべて0157であった。

表 藤沢市の腸管出血性大腸菌の血清型及び毒素型

血清型	毒素型	菌株数
0157 : H7	VT2	1
0157 : H7	VT1&2	1
0157 : HNM	VT1&2	1
計		3

(平井有紀、松葉友美、水上稚子、佐藤健)

## (イ) 細菌性赤痢・コレラ

### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

#### <赤痢菌>

2020年1月から12月までに神奈川県内（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）において赤痢菌株が検出された事例は認められなかった。

#### <コレラ菌>

2020年1月から12月までに神奈川県内（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）においてコレラ菌株が検出された事例は認められなかった。

（政岡智佳、小松祐子、鈴木美雪、森口真理子、古川一郎）

### ② 横浜市

横浜市衛生研究所

#### <赤痢菌>

2020年1月から12月までに横浜市内の病院等で分離され当所に搬入された菌株及び、当所で検便から分離した赤痢菌は1事例1株であり、その菌種は表のとおりであった。

表 横浜市の赤痢菌の菌株情報

No.	分離月日	性別	年齢	菌種	渡航歴
1	2020. 1. 4	男	20	<i>S. sonnei</i>	無し

#### <コレラ菌>

2020年1月から12月までに横浜市内ではコレラ菌が分離された事例は認められなかった。

（松本裕子、酒井敬介）



### ③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

#### <赤痢菌>

2020年1月から12月までに川崎市内の医療機関等で分離され当所に搬入された赤痢菌は1株であった。渡航歴及びその他の情報は表に示した。

表 川崎市の赤痢菌の菌株情報

No.	分離月日	性別	年齢	菌種	渡航歴
1	2020. 2. 29	女	33	<i>S. sonnei</i>	フィリピン

#### <コレラ菌>

2020年1月から12月までに川崎市においてコレラ菌が分離された事例は認められなかった。

(浅井威一郎、三亀美津穂、阿部光一郎、福島和弥)

### ④ 相模原市

相模原市衛生研究所

#### <赤痢菌>

2020年1月から12月までに相模原市内の医療機関等で分離され当所に搬入された赤痢菌は1株であった。渡航歴及びその他の情報は表に示した。

表 赤痢菌の血清型及び患者渡航歴

No.	性別	年齢	菌種	血清型	渡航歴
1	男	30	<i>S. flexneri</i>	4	不明

#### <コレラ菌>

2020年1月から12月までに相模原市内においてコレラ菌が検出された事例は認められなかった。

(矢島理志、坂扶美子)

### ⑤ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

#### <赤痢菌>

2020年1月から12月までに横須賀市において赤痢菌が検出された事例は認められなかった。

#### <コレラ菌>

2020年1月から12月までに横須賀市においてコレラ菌が検出された事例は認められなかった。

(片倉孝子、宍戸みずほ、金川治義)

## (ウ) 腸チフス・パラチフス

### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く） 神奈川県衛生研究所

2020年1月から12月までに神奈川県内（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）において腸チフス・パラチフス菌株が検出された事例は認められなかった。

（政岡智佳、古川一郎）

### ② 横浜市 横浜市衛生研究所

2020年1月から12月までの間に横浜市内で分離された腸チフス菌は0株、パラチフスA菌は2株であった。カンボジアへの海外渡航歴があり、2株は同一患者由来でNo.1は糞便由来、No.2は膿瘍由来であった。その他の情報は表に示した。

表 横浜市の腸チフス菌の菌株情報

No.	分離月日	性別	年齢	疾病名	フェージ型	渡航歴
1	2020. 3. 17	女	62	パラチフス	2	カンボジア
2	2020. 3. 17	同上	同上	同上	2	同上

（松本裕子、酒井敬介）

### ③ 川崎市 川崎市健康安全研究所

2020年1月から12月までに川崎市内で分離されたチフス菌は1株、パラチフスA菌は0株であった。その他の情報は表に示した。

表 川崎市のチフス菌の菌株情報

No.	分離月日	性別	年齢	フェージ型	渡航歴
1	2020. 3. 12	男	47	M1	バングラデシュ

（浅井威一郎、三亀美津穂、阿部光一郎、福島和弥）

### ④ 横須賀市 横須賀市健康安全科学センター

2020年1月から12月までに横須賀市内においてチフス菌、パラチフスA菌が検出された事例は認められなかった。

（片倉孝子、宍戸みずほ、金川治義）

## イ 5類感染症

### (ア) 細菌性感染性胃腸炎

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

2020年1月から12月までの間に、神奈川県の小児科定点医療機関から依頼された散発下痢症患者便について腸管系病原菌検査を行った。病原菌の分離・同定は常法により行った。病原菌の検出数は27件中9件（33.3%）であり、その内訳は下痢原性大腸菌9件（うち2種の下痢原性大腸菌を検出した検体及び下痢原性大腸菌とともにサルモネラ属菌も検出した検体が1件ずつあった）及びエロモナス属菌1件であった。

表 神奈川県の細菌性感染性胃腸炎検査状況

（単位：件）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
検体数	3	5	3	2	1	2	2	1	2	1	0	5	27
陽性検体数	1	1	0	0	0	2	1	1	1	0	0	2	9
陽性率（%）	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	100.0	50.0	100.0	50.0	0.0	0.0	40.0	33.3
下痢原性大腸菌		1				2	1	1	1			2	8
サルモネラ属菌							1						1
エロモナス属菌	1												1
不検出	2	4	3	2	1	0	1	0	1	1	0	3	18

（鈴木美雪、政岡智佳、古川一郎）

## ウ 薬剤耐性菌

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

2020年1月から12月までに神奈川県内（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）で分離され当所に送付された薬剤耐性菌は、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）26株であった。このうち6株からカルバペネマーゼ遺伝子が検出され、その全てがIMP型であった。菌種別の搬入数は *Enterobacter cloacae* が11株と一番多く、次いで *Klebsiella aerogenes* の9株であった。

表 神奈川県のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の検査結果

（単位：株）

菌種	株数	カルバペネマーゼ遺伝子	カルバペネマーゼ遺伝子
		陽性株数	内訳(株数)
<i>Enterobacter cloacae</i>	11	6	IMP(6)
<i>Enterobacter asburiae</i>	1		
<i>Escherichia coli</i>	1		
<i>Klebsiella aerogenes</i>	9		
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	3		
<i>Serratia marsescens</i>	1		
	26	6	

（政岡智佳、鈴木美雪、古川一郎）

## ② 横浜市

横浜市衛生研究所

2020年1月から12月までに横浜市で分離され当所に送付された薬剤耐性菌は、バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）3株、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）84株（届出対象46株、届出対象外38株）、多剤耐性緑膿菌（MDRP）3株であった。VREは*vanA* 遺伝子を保有する*Enterococcus faecium*、*vanB* 遺伝子を保有する*Enterococcus faecium*、*vanB* 遺伝子を保有する*Enterococcus faecalis*であった。MDRP 3株のうち、2株は*bla*<sub>IMP-14</sub> 遺伝子を保有していた。CREの詳細は表のとおりである。

表1 横浜市のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の検査結果（届出対象患者）

菌種	株数	カルバペネマーゼ陽性数	カルバペネマーゼ内訳
<i>Citrobacter braakii</i>	2	0	
<i>Enterobacter cloacae</i> complex	19	11	IMP-1
<i>Escherichia coli</i>	4	1	IMP-1
<i>Klebsiella aerogenes</i>	13	0	
<i>Klebsiella oxytoca</i>	2	2	IMP-1
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	4	2	IMP-1
<i>Serratia marcescens</i>	2	0	
計	46	16	

表2 横浜市のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の検査結果（届出対象外患者）

菌種	株数	カルバペネマーゼ陽性数	カルバペネマーゼ内訳
<i>Enterobacter cloacae</i> complex	17	15	IMP-1
<i>Escherichia coli</i>	7	1	IMP-1
<i>Klebsiella aerogenes</i>	3	0	
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	9	0	
<i>Raoultella ornithinolytica</i>	1	1	IMP-1
<i>Serratia marcescens</i>	1	0	
計	38	17	

(松本裕子、小泉充正、酒井敬介)

③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

2020年1月から12月までに川崎市内の医療機関等で分離され当所に搬入された薬剤耐性菌は、バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）が1株、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）が38株（発生届出対象患者由来22株、届出対象外16株）であった。VREは *vanB* 遺伝子を保有する *Enterococcus faecium* であり、CREの詳細は表に示した。

表1 川崎市のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の検査結果（発生届出対象患者）

菌種	株数	カルバペネマーゼ遺伝子 陽性数	カルバペネマーゼ 遺伝子内訳(株数)
<i>Klebsiella aerogenes</i>	13	0	-
<i>Enterobacter cloacae</i> complex	7	5	IMP-1 (5)
<i>Escherichia coli</i>	1	0	-
<i>Serratia marcescens</i>	1	0	-
計	22	5	

表2 川崎市のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の検査結果（届出対象外）

菌種	株数	カルバペネマーゼ遺伝子 陽性数	カルバペネマーゼ 遺伝子内訳(株数)
<i>Enterobacter cloacae</i> complex	16	14	IMP-1 (14)

(浅井威一郎、三亀美津穂、阿部光一郎、福島和弥)

④ 相模原市

相模原市衛生研究所

2020年1月から12月までに相模原市内の医療機関等で分離され当所に搬入された薬剤耐性菌は、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）が18株、バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）が2株であった。VREは *vanB* 遺伝子を保有する *Enterococcus faecium* が2株であり、CREの詳細は表に示した。

表 相模原市のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の検査結果

(単位：株)

菌種	株数	カルバペネマーゼ遺伝子陽性株数	カルバペネマーゼ 遺伝子内訳(株数)
<i>Klebsiella aerogenes</i>	7	0	-
<i>Enterobacter cloacae</i>	9	5	IMP-1 (5)
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	1	0	-
<i>Enterobacter cancerogenus</i>	1	0	-
計	18	5	

(矢島理志、金沢聡子)

## ⑤ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

2020年1月から12月までに横須賀市内の医療機関等で分離され当所に搬入された薬剤耐性菌は、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）が8株、バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）が3株であった。詳細は表に示した。

表1 横須賀市のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の検査結果

菌種	株数	カルバペネマーゼ遺伝子陽性数	カルバペネマーゼ遺伝子
<i>Klebsiella aerogenes</i>	3	1	IMI
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	1	1	IMP-1
<i>Citrobacter freundii</i>	1	1	IMP-1
<i>Escherichia coli</i>	2	2	NDM-9, TMB-1
<i>Enterobacter hormachei</i>	1	0	
計	8	5	

表2 横須賀市のバンコマイシン耐性腸球菌（VRE）の検査結果

菌種	株数	バンコマイシン耐性遺伝子
<i>Enterococcus faecium</i>	2	<i>vanA</i>
<i>Enterococcus raffinosus</i>	1	<i>vanD</i>
計	3	

(片倉孝子、宍戸みずほ、金川治義)

## ⑥ 藤沢市

藤沢市保健所

2020年1月から12月までに藤沢市内の医療機関等で分離され当所に搬入された薬剤耐性菌は、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）が7株であった。カルバペネマーゼ遺伝子が陽性と判定された菌株はなかった。

表 藤沢市のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の検査結果

菌種	株数	カルバペネマーゼ遺伝子陽性数	カルバペネマーゼ遺伝子
<i>Klebsiella aerogenes</i>	5	0	
<i>Enterobacter cloacae</i>	2	0	
計	7	0	

(平井有紀、松葉友美、水上稚子、佐藤健)

## (2) 細菌性呼吸器系感染症検査状況

### ア 2類感染症

#### (ア) 結核

##### a 感染診断検査

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

結核感染診断法として Interferon-gamma release assay (IGRA) が開発され、現在国内ではクオンティフェロン®TB-ゴールド：QFT-4G（以下 QFT とする）と T-スポット®.TB (T-SPOT) が使用されている。これらは、従来のツベルクリン反応検査よりも信頼性が高く、結核予防対策上の有用性が期待されており、「結核に関する特定感染症予防指針（2016年11月改正）」においても、IGRA を積極的に活用することが重要であるとされている。当所では、各保健福祉事務所及びセンターの結核接触者健康診断（健診）に対応するため、QFT 検査を実施している。

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）における 2020 年の検査検体数は 580 検体であった。検査結果は、陽性が 36 検体（6.2%）、陰性が 543 検体（93.6%）、判定不可が 1 検体（0.2%）であった（表）。

表 結核接触者検診における QFT 検査結果（2018 年～2020 年）

年	事例数	検体数	陽性		判定保留		陰性		判定不可	
			検体数	( % )	検体数	( % )	検体数	( % )	検体数	( % )
2018	250	1,081	89	( 8.2 )	80	( 7.4 )	907	( 83.9 )	5	( 0.5 )
2019	271	1,242	88	( 7.1 )	25	( 2.0 )	1,128	( 90.8 )	1	( 0.1 )
2020	202	580	36	( 6.2 )	—	( — )	543	( 93.6 )	1	( 0.2 )

※2019 年 1～3 月の 341 検体およびそれ以前の検体については QFT-3G を使用したため判定保留の結果が含まれており、同年 4 月以降の 901 検体及び 2020 年の検体については QFT-4G を使用したため、判定保留の結果はない。

2018 年から 2020 年の被験者と患者の接触場所別事例数を図に示した。2020 年の事例数を接触場所別にみると延べ 202 事例となり、その内訳は、前年同様に家庭が 103 事例と最も多く、職場が 19 事例、医療機関が 16 事例であった。1 事例あたりの検体数は、職場が 4.2 検体と最も多く、医療機関が 2.0 検体、家庭が 2.2 検体であった。接触場所別の陽性率は、家庭が 7.1%（16 検体/225 検体）と最も高く、職場が 6.3%（5 検体/79 検体）、医療機関は 32 検体全て陰性だった。



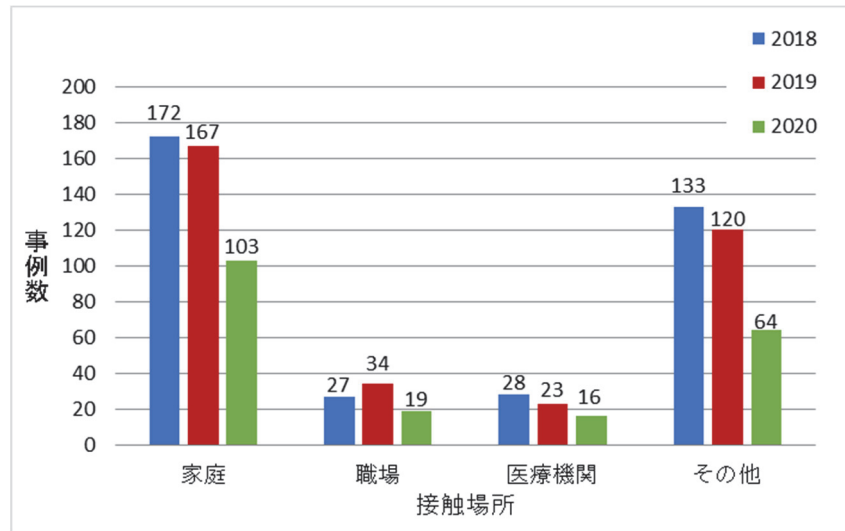


図 被験者と患者の接触場所別事例数 (2018～2020年)

(中嶋直樹、三谷詠里子、鈴木美雪、陳内理生、伊達佳美、大屋日登美、稲田貴嗣、櫻木淳一)

② 川崎市

川崎市健康安全研究所

川崎市では2007年から結核接触者健診におけるQFT検査を実施していたが、2013年12月からはT-SPOT.TB検査に変更した。2020年は、検査件数518件、陽性32件(6.2%)、陽性判定保留16件(3.1%)、陰性判定保留16件(3.1%)、陰性446件(86.1%)、判定不可8件(1.5%)であった。

表 川崎市の結核接触者健診におけるT-SPOT.TB検査結果(2020年)

検体数	陽性		陽性判定保留		陰性判定保留		陰性		判定不可	
	検体数	(%)	検体数	(%)	検体数	(%)	検体数	(%)	検体数	(%)
518	32	(6.2)	16	(3.1)	16	(3.1)	446	(86.1)	8	(1.5)

(小嶋由香、淀谷雄亮、原俊吉)

③ 相模原市

相模原市衛生研究所

相模原市では2009年から結核接触者健診におけるQFT検査を実施している。2020年は、検査件数171件、陽性17件(9.9%)であった。

表 相模原市の結核接触者健診におけるQFT検査結果(2018～2020年)

年	検体数	陽性		判定保留		陰性		判定不可	
		検体数	(%)	検体数	(%)	検体数	(%)	検体数	(%)
2018年	186	9	(4.8)	8	(4.3)	169	(90.9)	0	(0.0)
2019年	188	9	(4.8)	0	(0.0)	179	(95.2)	0	(0.0)
2020年	171	17	(9.9)	0	(0.0)	154	(90.1)	0	(0.0)
合計	545	35	6.4	8	1.5	502	92.1	0	0.0

(吉川聡一、井村香織、金沢聡子)

## b 遺伝子型別検査

### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

神奈川県では、結核菌分子疫学調査事業に基づき、所管保健福祉事務所等に登録された結核患者から分離された結核菌株を収集し、VNTR 法（24 解析領域）による遺伝子型別検査を実施している。2020 年は 57 株を検査し、結果を得た。結果をミニマム・スパニング・ツリー（MST）で図示した。

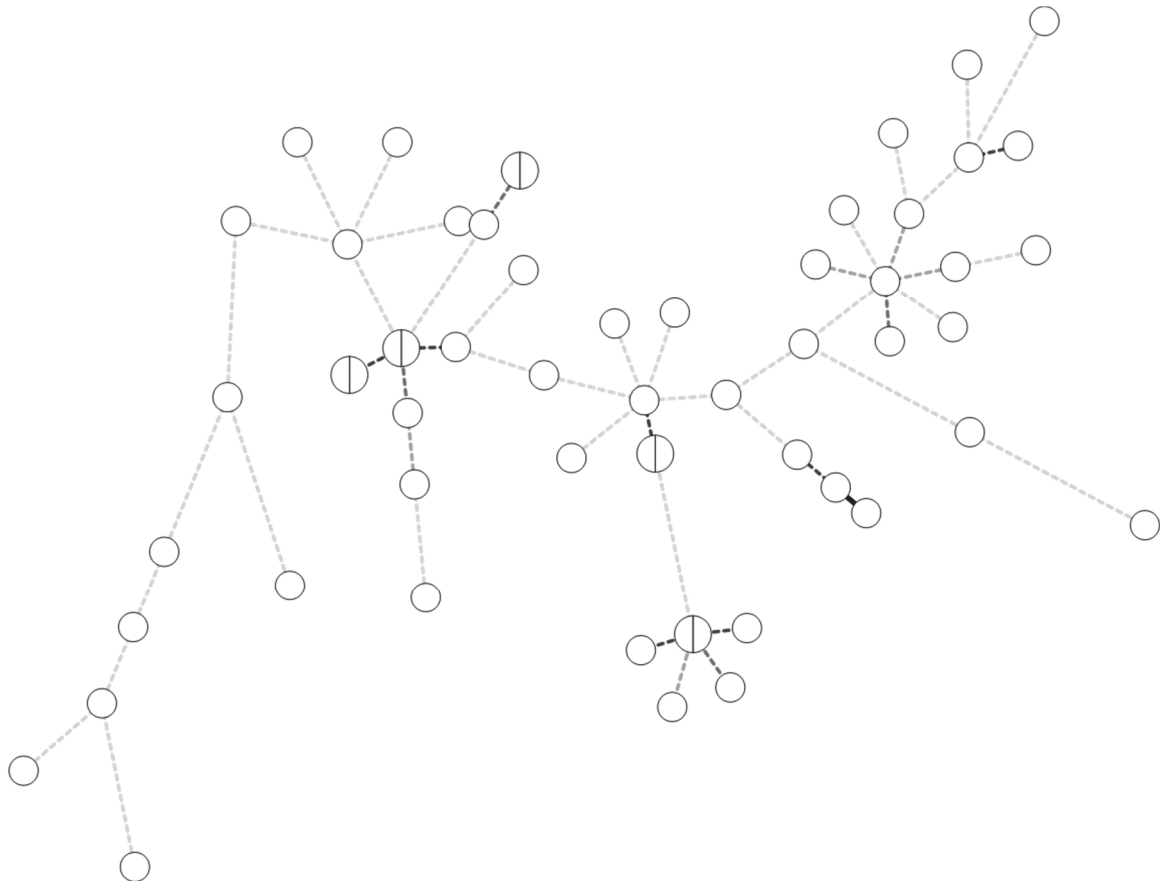


図 2020 年に収集した結核菌の VNTR 法による MST

（中嶋直樹、三谷詠里子、陳内理生、伊達佳美、大屋日登美、櫻木淳一）

### ② 横浜市

横浜市衛生研究所

横浜市では、横浜市結核分子疫学調査実施要領に基づき、市内で登録された結核患者から分離された結核菌株を収集し、VNTR 法による遺伝子型別検査を実施している。2020 年 1 月から 12 月までに 108 株を検査し、そのうち重複検体を除いた 101 株について、瀬戸らの方法（Seto J, Wada T, et al. Infect Genet Evol. 2015 35:82-88）を用いて遺伝系統の推定を実施した結果、北京型株 72.3%（73 株）、非北京型株 27.7%（28 株）であった。

（小川敦子、後藤千恵子、酒井敬介）

### ③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

川崎市では、結核菌分子疫学調査事業に基づき、各区保健所支所に登録された結核患者等から分離された結核菌株を収集し、VNTR法による遺伝子型別検査を実施している。2020年は68株について検査を行った。VNTR型別結果から、瀬戸らの方法（Seto J, Wada T, et al. Infect Genet Evol. 2015 35:82-88）を用いて遺伝系統の推定を実施した結果、北京型株83.8%（57株）、非北京型株16.2%（11株）であった。

（小嶋由香、淀谷雄亮、原俊吉）

### ④ 相模原市

相模原市衛生研究所

相模原市では2020年から結核対策事業に基づき、市内で登録された結核患者等から分離された結核菌株を収集し、VNTR法による遺伝子型別検査を実施している。2020年は22株について検査を行った。VNTR型別結果から、瀬戸らの方法（Seto J, Wada T, et al. Infect Genet Evol. 2015 35:82-88）を用いて遺伝系統の推定を実施した結果、北京型株81.8%（18株）、非北京型株18.2%（4株）であった。

（矢島理志、坂扶美子、金沢聡子）

## イ 4類感染症

### (ア) レジオネラ症

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く） 神奈川県衛生研究所

レジオネラ症の発生届があった神奈川県域の医療機関の患者検体（喀痰等）について、培養法およびLAMP法（必要に応じて）による検査を実施している。2020年は、23検体を培養法で検査し、8検体（34.8%）が陽性だった。このうち19検体をLAMP法で検査し、5検体（26.3%）が陽性であった。培養法により検出されたレジオネラ属菌8株は、6株がレジオネラニューモフィラ血清群1、1株がレジオネラニューモフィラ血清群2、1株がレジオネラボゼマニイであった。

（中嶋直樹、三谷詠里子、陳内理生、伊達佳美、大屋日登美、櫻木淳一）

② 横浜市 横浜市衛生研究所

レジオネラ症の発生届があった横浜市内の医療機関の患者検体について、喀痰等呼吸器検体については、培養法による検査を実施している。2020年は、26検体を検査し、8検体（30.8%）が陽性であった。検出されたレジオネラ属菌8株は、全てレジオネラニューモフィラ血清群1であった。

（松本裕子、酒井敬介）

③ 川崎市 川崎市健康安全研究所

レジオネラ症の発生届があった川崎市内の医療機関の患者検体（喀痰等）について、培養法およびLAMP法による検査を実施している。2020年は、培養法で12検体を検査し、4検体（33.3%）が陽性であった。培養法により検出されたレジオネラ属菌は、レジオネラニューモフィラ血清群1が4株であった。

（小嶋由香、淀谷雄亮、原俊吉）

## ウ 5類感染症

### (ア) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

#### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

神奈川県における感染症発生動向調査の一環として、小児科定点医療機関において咽頭ぬぐい液を採取し、当所に搬入された検体について溶血性レンサ球菌の検索を実施した。2020年1月から12月までに搬入された検体83件中57検体から、A群溶血性レンサ球菌が分離された。そのT型別を表に示す。

分離されたすべての株でT型別が決定し、10種類のT型に分類された。これらのうち、T12型が12株（21.1%）と最も多く、以下TB3264型が10株（17.6%）、T3型とT25型がそれぞれ8株（14.0%）の順で、これら4血清型で全体の66.7%を占めた。

2017～2020年間のT型の経年推移を図に示した。2020年はT12型の検出率が増加傾向を示した。

表 A群溶血性レンサ球菌のT型別結果

血清型	T1	T3	T4	T6	T11	T12	T13	T25	T28	TB3264	計
株数	6	8	7	1	1	12	1	8	3	10	57

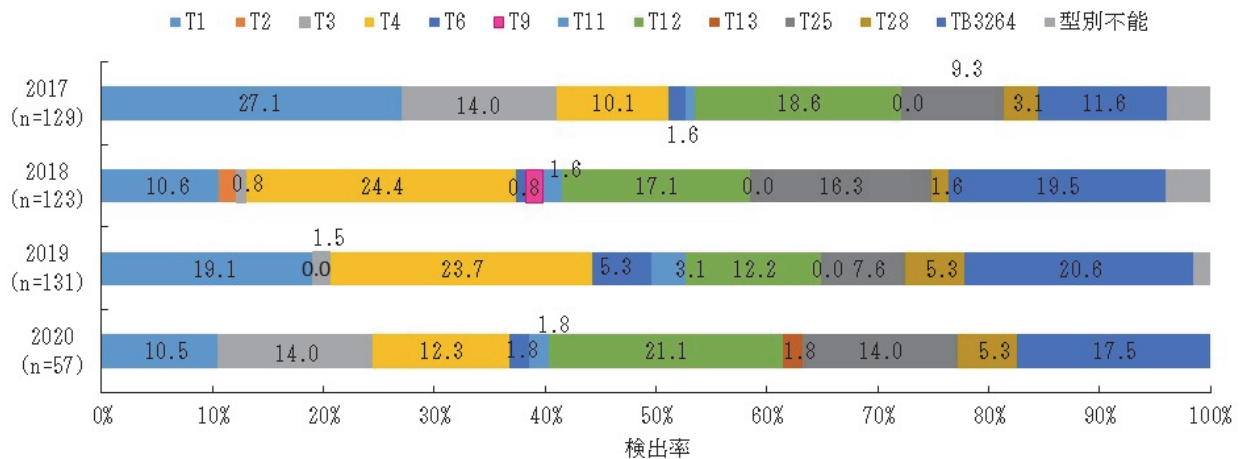


図 A群溶血性レンサ球菌 T型検出率の経年推移（2017～2020年）

（伊達佳美、鈴木美雪、大屋日登美、櫻木淳一）

## ② 横浜市

横浜市衛生研究所

横浜市における感染症発生動向調査の一環として、小児科定点医療機関において咽頭ぬぐい液を採取し当所に搬入された検体について溶血性レンサ球菌の検索を実施した。2020年1月から12月までに搬入された検体20件中19検体から、A群溶血性レンサ球菌が分離された。そのT型別は表に示す。

表 横浜市のA群溶血性レンサ球菌のT型別結果

血清型	T4	T6	T11	T12	T25	TB3264	T型別不能	計
株数	2	3	1	2	1	9	1	19

(後藤千恵子、酒井敬介)

## ③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

川崎市における感染症発生動向調査の一環として、定点医療機関において咽頭ぬぐい液を採取し当所に搬入された検体について溶血性レンサ球菌の検索を実施した。2020年1月から12月までに搬入された検体11件中4件からA群溶血性レンサ球菌が分離された。そのT型別は表に示す。

表 川崎市のA群溶血性レンサ球菌のT型別結果

血清型	T3	TB3264	型別不能	計
株数	1	1	2	4

(小嶋由香、淀谷雄亮、原俊吉)

## ④ 相模原市

相模原市衛生研究所

相模原市における感染症発生動向調査の一環として、定点医療機関において採取された咽頭ぬぐい液について溶血性レンサ球菌の検査を実施しているが、2020年は検体の搬入がなかった。

(矢島理志、坂扶美子)

## ⑤ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

2020年1月から12月までに、当センターにおいてA群溶血性レンサ球菌が分離された事例は認められなかった。

(片倉孝子、宍戸みずほ、金川治義)

(イ) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症、侵襲性インフルエンザ菌感染症、  
侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

2020年は、劇症型溶血性レンサ球菌感染症起因株 11 事例 11 株について、一部国立感染症研究所に依頼し血清型別等を行ったので、その結果を表に示す。

A 群が 4 株で、そのうち菌種が *Streptococcus pyogenes* であった 3 株について T 血清型別及び発赤毒素遺伝子 (*speA*、*speB*、*speC*、*speF*) の検出を行ったところ、T1 が 1 株 (*speA*、*speB*、*speF* 検出)、T28 型が 1 株 (*speB*、*speF* 検出)、型別不能が 1 株 (*speB*、*speF* 検出) であった。また、M 血清型別及び M 蛋白遺伝子 (*emm*) の型別では、M1 (*emm1.0*) が 1 株、M 型別不能 (*emm58.0 emm28.0*) 2 株であった。A 群で、菌種が *Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis* であった 1 株の *emm* 遺伝子型は、*st643.0* であった。B 群は 2 株で、血清型は IV 型と VIII 型であった。C 群は 1 株で、*Streptococcus constellatus* ssp. *pharyngis* と同定された。G 群は 4 株で、*emm* 遺伝子型は *stG652.0*、*stG4222.0*、*stGLP1.0*、*stG840.0* 各 1 株であった。

当所に 2020 年に搬入された侵襲性インフルエンザ菌感染症起因株 4 株および侵襲性肺炎球菌感染症起因株 10 株について国立感染症研究所に依頼し、血清型別検査を実施した。その結果、インフルエンザ菌 4 株すべてが、無莢膜型であった。肺炎球菌は 3 型、6C 型、10A 型、20 型、23A 型および 35B 型がそれぞれ 1 株、22F 型および 24B 型が 2 株であった。侵襲性髄膜炎菌感染症起因株の搬入はなかった。

表 神奈川県 of 劇症型溶血レンサ球菌の同定結果

No.	年齢	性別	Lancefield 群別	菌種	T血清 型別	M血清 型別	emm 遺伝子型	発熱毒素遺伝子 (spe)
1	68	M	A	<i>Streptococcus pyogenes</i>	T1	M1	emm1.0 (100%)	speA, speB, speF
2	24	M	A	<i>Streptococcus pyogenes</i>	型別不能	型別不能	emm58.0 (100%)	speB, speF
3	63	F	B	<i>Streptococcus agalactiae</i>	IV型			
4	49	F	C	<i>Streptococcus constellatus</i> ssp. <i>pharyngis</i>				
5	72	F	A	<i>Streptococcus pyogenes</i>	T28型	型別不能	emm28.0 (100%)	speB, speC, speF
6	74	F	A	<i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG643.0 (100%)	
7	93	F	G	<i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG652.0 (100%)	
8	89	M	B	<i>Streptococcus agalactiae</i>	VIII型			
9	65	F	G	<i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG4222.0 (100%)	
10	68	M	G	<i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stGLP1.0 (100%)	
11	93	M	G	<i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>Equisimilis</i>			stG840.0 (100%)	

(陳内理生、伊達佳美、大屋日登美、櫻木淳一)



## ② 横浜市

横浜市衛生研究所

2020年は、劇症型溶血性レンサ球菌感染症起因株 18 事例 20 株について、一部国立感染症研究所に依頼し血清型別等を行った。その結果は表に示す。

侵襲性インフルエンザ菌感染症起因株 8 事例 8 株について血清型及び莢膜遺伝子の決定を行った。8 株全てが無莢膜株であった。

侵襲性髄膜炎菌感染症の事例は認められなかった。

侵襲性肺炎球菌感染症起因株 10 事例 12 株について、国立感染症研究所に依頼し血清型別を行った。3 型、16F 型、24F 型、33F 型がそれぞれ 1 株、24B 型が 3 株、15A 型が 5 株であった。

表 横浜市の劇症型レンサ球菌の同定結果

No.	分離月	性別	年齢	ランスフィールド型	血清型, 菌種等
1	1	男	70	G	<i>stG485.0</i> , <i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>
2	1	男	65	B	V
3	2	女	64	A	T1, M1, <i>emm1.0</i>
4	2	男	74	A	T型別不能, M型別不能, <i>emm89.0</i>
5	2	女	81	G	<i>stC74a.0</i> , <i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>
6	3	女	86	A	T型別不能, M型別不能, <i>emm81.0</i>
7	4	男	61	G	<i>stG6792.3</i> , <i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>
8	5	男	51	A	T型別不能, M型別不能, <i>emm81.0</i>
9	5	男	80	G	<i>stG6792.3</i> , <i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>
10	6	女	84	A	T23, M型別不能, <i>emm81.0</i>
11	6	男	86	B	II
12	7	男	98	G	<i>stG245.0</i> , <i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>
13	7	女	96	G	<i>stG2078.0</i> , <i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>
14	10	女	85	B	VIII
15	10	男	67	A	T型別不能, M型別不能, <i>emm81.0</i>
16	11	女	56	B	III
17	11	女	92	G	<i>stG166b.0</i> , <i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>
18	12	女	71	B	III

(後藤千恵子、松本裕子、小泉充正、酒井敬介)

### ③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

2020 年は劇症型溶血性レンサ球菌感染症起因株 7 株、侵襲性インフルエンザ菌感染症起因株 3 株および侵襲性肺炎球菌感染症起因株が 27 株搬入された。

劇症型溶血性レンサ球菌は A 群 3 株、B 群 2 株、G 群 2 株であった。

インフルエンザ菌は当所において血清型別検査を実施した結果、全て無莢膜型であった。

肺炎球菌は当所においてマルチプレックス PCR による血清型推定及び、国立感染症研究所に依頼し血清型別検査を実施した。15 歳未満の小児は 5 症例であり、11A/E (11A もしくは E) 型、12F 型、15C 型、24B 型、24F 型がそれぞれ 1 株であった。15 歳以上は 22 症例で、3 型 7 株、23A 型および 24F 型が 2 株、6C 型、10A 型、11A/E (11A もしくは E) 型、12F 型、14 型、19A 型、20 型、24B 型、24F 型、33F 型、37 型がそれぞれ 1 株であった。

(小嶋由香、淀谷雄亮、原俊吉)

### (ウ) マイコプラズマ肺炎

#### ① 神奈川県 (横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)

神奈川県衛生研究所

神奈川県域の小児科病原体定点医療機関および医療機関からのマイコプラズマ肺炎を疑う患者検体について、培養法および PCR 法による検査を実施している。2020 年 1 月から 12 月までに搬入された検体は 8 検体で、そのうち 7 検体が陽性であった。

(伊達佳美、大屋日登美、櫻木淳一)

### (エ) 百日咳

#### ① 神奈川県 (横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)

神奈川県衛生研究所

神奈川県域の小児科病原体定点医療機関から百日咳を疑う患者検体について、培養法、IS481-PCR 法及び PTP1/p2-PCR 法による検査を実施している。2020 年は 2 検体が搬入されたが、培養法及び IS481-PCR 法ともに陰性であった。

(伊達佳美、大屋日登美、櫻木淳一)

### ② 横浜市

横浜市衛生研究所

2020 年 1 月から 12 月までに横浜市内では百日咳菌に関する検査依頼は認められなかった。

(松本裕子、酒井敬介)

### 3 その他の感染症

#### (ア) つつが虫病

##### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

神奈川県のつつが虫病患者発生数は、1990年（平成2年）の112名をピークに減少傾向を示し、近年では毎年20名程度の患者数で推移している。

神奈川県では、つつが虫病患者疑い例について、遺伝子等による病原体の検査、または特異的な血清抗体の検査を実施している。本年は13例について遺伝子検査を実施した。つつが虫病遺伝子は11例から検出され、その遺伝子型は、Kawasaki型8例、Kuroki型3例であった。

つつが虫病患者からの聞き取り調査で得られた推定感染地はいずれも神奈川県内であった。推定感染地は、南足柄市6例、清川村2例、小田原市、秦野市、開成町で各1例であった。2020年のつつが虫病感染時の行動は、例年と同様に平地の畑での農作業や山間部での作業であった。

（鈴木理恵子、高橋淳子、日紫喜隆行、櫻木淳一）

## 【参考資料】

### < 予防接種実施状況 >

予防接種法に基づく定期予防接種は、感染症の発生及びまん延の予防等、公衆衛生の向上を目的に、実施主体である市町村により行われている。

(単位:人)

			29年度		30年度	
			全国	神奈川県	全国	神奈川
沈降精製百日せき ジフテリア破傷風 不活化ポリオ混合ワクチン (DPT-IPV)	1期 初回接種	第1回	948 790	68 517	899 624	39 530
		第2回	953 153	68 840	906 388	39 958
		第3回	956 067	69 266	911 094	40 249
	1期追加接種		992 716	72 721	941 384	42 403
日本脳炎ワクチン	1期 初回接種	第1回	1 189 376	77 328	1 206 295	48 576
		第2回	1 165 250	76 277	1 198 094	48 343
	1期追加接種		1 127 679	73 891	1 199 217	48 040
	第2期		1 001 971	71 403	1 166 513	49 837
ヒブワクチン	第1回		952 806	68 090	894 959	38 978
	第2回		944 599	68 141	896 345	39 386
	第3回		940 973	68 221	896 866	39 560
	第4回		965 721	70 779	914 777	40 455
小児用肺炎球菌ワクチン	第1回		953 458	67 956	897 159	39 081
	第2回		947 072	68 102	899 530	39 518
	第3回		943 657	68 171	900 018	39 665
	第4回		963 141	70 293	913 985	40 499
子宮頸がん予防ワクチン	第1回		3 347	231	6 810	271
	第2回		2 666	192	5 746	208
	第3回		1 847	127	4 184	143
水痘ワクチン	第1回		973 691	70 231	932 471	40 961
	第2回		879 423	66 647	855 983	38 798
麻しん・風しんワクチン	第1期		961 342	69 820	922 446	41 033
	第2期		989 751	70 185	956 935	42 023
インフルエンザワクチン	総 数		16 978 015	884 595	17 087 513	502 274
	60歳以上65歳未満		27 908	1 238	26 237	827
	65歳以上		16 950 107	883 357	17 061 276	501 447

「地域保健・健康増進事業報告（地域保健編）」（厚生労働省）のデータを修正・加工して作成

※「麻しん・風しんワクチン」は、「麻しん風しん混合ワクチン」、「麻しんワクチン」、「風しんワクチン」を合わせたものである。

※年齢階級別の計数が不詳の市区町村があるため、総数と年齢階級別の計が一致しない場合がある。

<感染症関係機関>

2021年4月現在

機 関 名	所 在 地	電 話
横浜市健康福祉局健康安全部健康安全課	横浜市中区本町 6-50-10	045 (671) 2121
横浜市鶴見福祉保健センター	横浜市鶴見区鶴見中央 3-20-1	045 (510) 1818
横浜市神奈川福祉保健センター	横浜市神奈川区広台太田町 3-8	045 (411) 7171
横浜市西福祉保健センター	横浜市西区中央 1-5-10	045 (320) 8484
横浜市中福祉保健センター	横浜市中区日本大通 35	045 (224) 8181
横浜市南福祉保健センター	横浜市南区浦舟町 2-33	045 (341) 1212
横浜市港南福祉保健センター	横浜市港南区港南 4-2-10	045 (847) 8484
横浜市保土ヶ谷福祉保健センター	横浜市保土ヶ谷区川辺町 2-9	045 (334) 6262
横浜市旭福祉保健センター	横浜市旭区鶴ヶ峰 1-4-12	045 (954) 6161
横浜市磯子区福祉保健センター	横浜市磯子区磯子 3-5-1	045 (750) 2323
横浜市金沢福祉保健センター	横浜市金沢区泥亀 2-9-1	045 (788) 7878
横浜市港北区福祉保健センター	横浜市港北区大豆戸町 26-1	045 (540) 2323
横浜市緑福祉保健センター	横浜市緑区寺山町 118	045 (930) 2323
横浜市青葉福祉保健センター	横浜市青葉区市ヶ尾町 31-4	045 (978) 2323
横浜市都筑福祉保健センター	横浜市都筑区茅ヶ崎中央 32-1	045 (948) 2323
横浜市戸塚福祉保健センター	横浜市戸塚区戸塚町 16-17	045 (866) 8484
横浜市栄福祉保健センター	横浜市栄区桂町 303-19	045 (894) 8181
横浜市泉福祉保健センター	横浜市泉区和泉中央北 5-1-1	045 (800) 2323
横浜市瀬谷福祉保健センター	横浜市瀬谷区二ツ橋町 190	045 (367) 5656
横浜市衛生研究所	横浜市金沢区富岡東 2-7-1	045 (370) 8460
川崎市健康福祉局保健所感染症対策課	川崎市川崎区宮本町 1	044 (200) 2111
川崎区役所地域みまもり支援センター	川崎市川崎区東田町 8	044 (201) 3113
幸区役所地域みまもり支援センター	川崎市幸区戸手本町 1-11-1	044 (556) 6666
中原区役所地域みまもり支援センター	川崎市中原区小杉町 3-245	044 (744) 3113
高津区役所地域みまもり支援センター	川崎市高津区下作延 2-8-1	044 (861) 3113
宮前区役所地域みまもり支援センター	川崎市宮前区宮前平 2-20-5	044 (856) 3113
多摩区役所地域みまもり支援センター	川崎市多摩区登戸 1775-1	044 (935) 3113
麻生区役所地域みまもり支援センター	川崎市麻生区万福寺 1-5-1	044 (965) 5100
川崎市健康安全研究所	川崎市川崎区殿町 3-25-13	044 (276) 8250
相模原市保健所	相模原市中央区富士見 6-1-1	042 (754) 1111
相模原市衛生研究所	相模原市中央区富士見 1-3-41	042 (769) 8348
横須賀市保健所	横須賀市西逸見町 1-38-11	046 (822) 4300
横須賀市健康安全科学センター	横須賀市日の出町 2-14	046 (822) 4057
藤沢市保健所	藤沢市鶴沼 2131-1	0466 (50) 3593
茅ヶ崎市保健所	茅ヶ崎市茅ヶ崎 1-8-7	0467 (85) 1171

機 関 名	所 在 地	電 話
神奈川県健康医療局医療危機対策本部室	横浜市中区日本大通 1	045 (210) 1111
平塚保健福祉事務所	平塚市豊原町 6-21	0463 (32) 0130
鎌倉保健福祉事務所	鎌倉市由比ガ浜 2-16-13	0467 (24) 3900
厚木保健福祉事務所大和センター	大和市中心 1-5-26	046 (261) 2948
小田原保健福祉事務所	小田原市荻窪 350-1	0465 (32) 8000
鎌倉保健福祉事務所三崎センター	三浦市三崎町六合 32	046 (882) 6811
平塚保健福祉事務所秦野センター	秦野市曾屋 2-9-9	0463 (82) 1428
厚木保健福祉事務所	厚木市水引 2-3-1	046 (224) 1111
小田原保健福祉事務所足柄上センター	足柄上郡開成町吉田島 2489-2	0465 (83) 5111
神奈川県衛生研究所	茅ヶ崎市下町屋 1-3-1	0467 (83) 4400
横浜検疫所	横浜市中区海岸通 1-1	045 (201) 4456
東京検疫所川崎検疫所支所	川崎市川崎区東扇島 6-10	044 (277) 1856
横浜検疫所横須賀・三浦出張所	横須賀市田浦港無番地	045 (201) 4457
横浜検疫所輸入食品・検疫検査センター	横浜市金沢区長浜 107-8	045 (701) 9480
横浜市立市民病院	横浜市神奈川区三ツ沢西町 1-1	045 (316) 4580
川崎市立川崎病院	川崎市川崎市新川通 12-1	044 (233) 5521
横須賀市立市民病院	横須賀市長坂 1-3-2	046 (856) 3136
藤沢市民病院	藤沢市藤沢 2-6-1	0466 (25) 3111
平塚市民病院	平塚市南原 1-19-1	0463 (32) 0015
相模原協同病院	相模原市緑区橋本台 4-3-1	042 (761) 6020
厚木市立病院	厚木市水引 1-16-36	046 (221) 1570
神奈川県立足柄上病院	足柄上郡松田町松田惣領 866-1	0465 (83) 0351



神奈川県衛生研究所

茅ヶ崎市下町屋 1 - 3 - 1

〒253-0087 電話 0467-83-4400 (代表)